

敦賀発電所2号炉  
敷地の地形、地質・地質構造  
敷地内のD-1トレンチ内に認められる  
K断層の活動性

補足説明資料2  
D-1トレンチ内における  
K断層の分布に関する  
ボーリング柱状図・コア写真

令和6年3月22日  
日本原子力発電株式会社

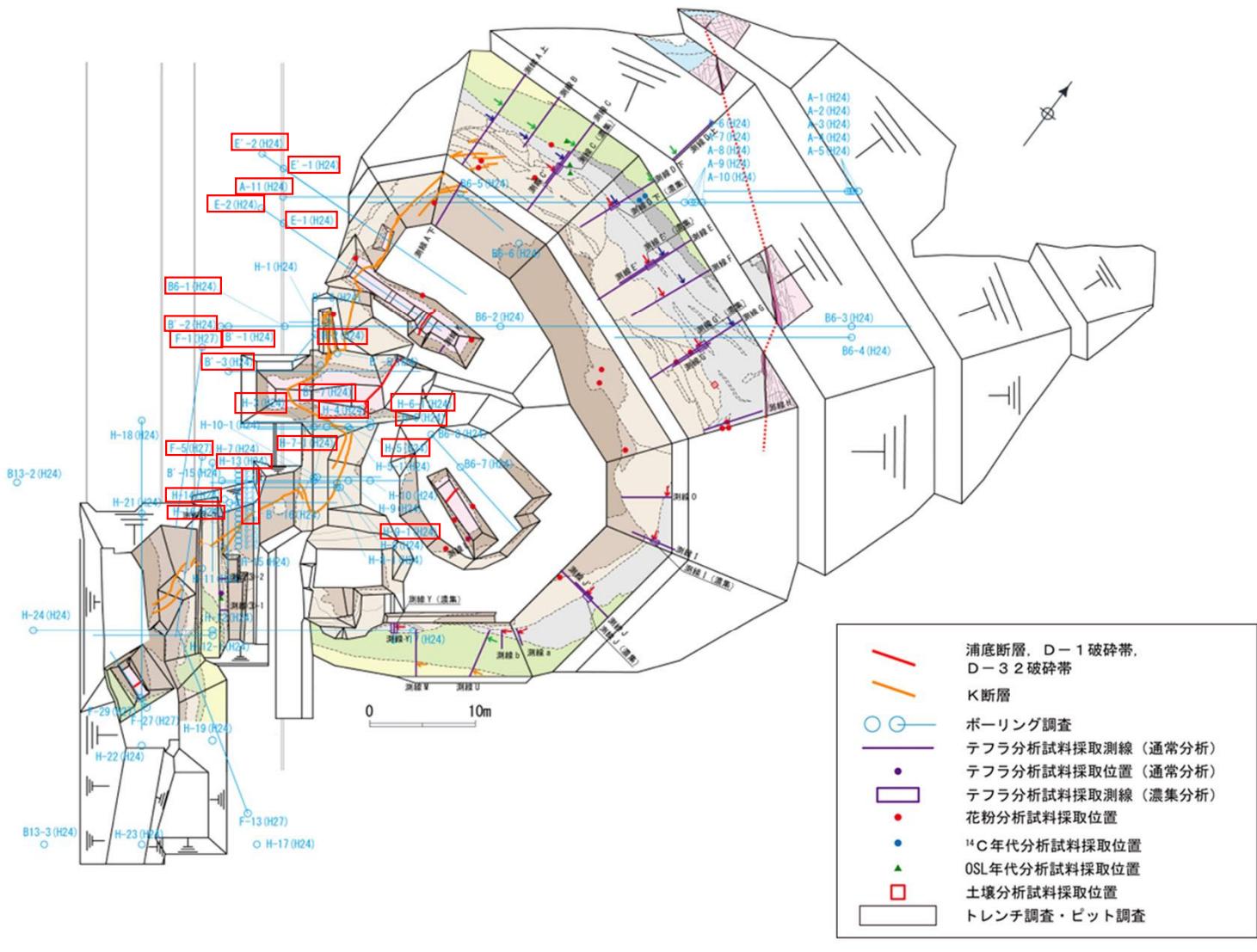
余白

- 本資料は、D-1トレーニチで掘削したボーリングのうち、K断層を確認したボーリング孔の計32孔のボーリング孔を対象に取りまとめたものである。
- ボーリング柱状図は、ボーリング掘削後のボーリングコアの肉眼観察のみによる観察結果として取りまとめたものであり、一般社団法人全国地質調査業協会連合会社会基盤情報標準化委員会の「ボーリング柱状図作成及びボーリングコア取扱い・保管要領(案)・同解説 平成27年6月」に基づき、コア観察カード、コア写真等に基づき作成している。
- 柱状図に記載している断層名は、観察時の所見である。また、深度については、K断層については周辺のカタクレーサイト帯を合わせた範囲の記事にK断層と記載する。

## 目次

孔名	断面図	頁
H24-E'-2	断面B	9
H24-E'-1	断面B	14
H24-A-11	断面A	19
H24-E-2	断面C	24
H24-E-1	断面C	29
H24-B6-1	断面D	34
H27-F-1	断面I	44
H24-B'-1	断面D	49
H24-B'-2	断面D	54
H24-H-2	断面E	59
H24-B'-7	断面E	62
H24-B'-3	断面E	65
H24-H-6-1	断面F	70
H24-H-3	断面F	73
H24-H-4	断面F	76
H24-H-5	断面F	79

孔名	断面図	頁
H24-H-6	断面F	82
H27-F-5	断面I	85
H24-H-13	断面I	90
H27-G-1	断面I	94
H27-G-2	断面I	97
H24-H-7-1	断面G	100
H27-G-3	断面I	103
H27-G-4	断面I	106
H24-H-9-1	断面G	109
H27-G-5	断面I	112
H27-G-6	断面I	115
H24-H-14	断面I	118
H27-G-7	断面I	121
H27-G-8	断面I	124
H27-G-9	断面I	127
H27-G-10	断面I	130



□: K断層を確認したボーリング孔

D-1トレンチ調査位置図(赤枠:対象ボーリング孔)

## ■柱状図で用いている記号の凡例を以下に示す。

### ・岩級区分

割れ目 の状態	コア 形状	硬軟				
		A <sub>g</sub>	B <sub>g</sub>	C <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>	E <sub>g</sub>
a <sub>g</sub>	I <sub>g</sub>	B'	-	-	-	-
	II <sub>g</sub>	B'	C <sub>H</sub> '	-	-	-
	III <sub>g</sub>	-	C <sub>H</sub> '	-	-	-
	IV <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	V <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	VI <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
b <sub>g</sub>	I <sub>g</sub>	B'	B'	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	II <sub>g</sub>	C <sub>H</sub> '	C <sub>H</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	III <sub>g</sub>	C <sub>H</sub> '	C <sub>H</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	IV <sub>g</sub>	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	V <sub>g</sub>	-	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	VI <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
c <sub>g</sub>	I <sub>g</sub>	-	C <sub>H</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	II <sub>g</sub>	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	III <sub>g</sub>	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	IV <sub>g</sub>	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	V <sub>g</sub>	-	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	VI <sub>g</sub>	-	-	-	D'	D'
d <sub>g</sub>	I <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	II <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	III <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	IV <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	V <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	VI <sub>g</sub>	-	-	-	D'	D'

### ・硬軟

A <sub>g</sub>	極めて硬質。ハンマーで澄んだ金属音がする。
B <sub>g</sub>	硬質。ハンマーで金属音がする。
C <sub>g</sub>	中硬質。ハンマーで多少濁った音がする。
D <sub>g</sub>	軟質。ハンマーで濁音がする。
E <sub>g</sub>	極めて軟質。ハンマーで著しく濁った音がする。

### ・コア形状

I <sub>g</sub>	50cm以上の長柱状
II <sub>g</sub>	20cm以上50cm未満の長柱状
III <sub>g</sub>	10cm以上20cm未満の柱状
IV <sub>g</sub>	3cm以上10cm未満の岩片状～短柱状
V <sub>g</sub>	1cm以上3cm未満の岩片状
VI <sub>g</sub>	1cm未満の土砂状

### ・割れ目の状態

a <sub>g</sub>	密着、新鮮
b <sub>g</sub>	酸化鉄付着
c <sub>g</sub>	細粒物質を挟む。
d <sub>g</sub>	割れ目として認識できない。

### ・風化

$\alpha$	非常に新鮮である。造岩鉱物の変質はまったくない。
$\beta$	新鮮である。有色鉱物の周辺に赤褐色化がある。長石の変質はない。
$\gamma$	弱風化している。有色鉱物の酸化汚染がある。長石の部分的な変質(白色化)がある。
$\delta$	風化している。有色鉱物が黃金色あるいは周辺が褐色粘土化している。長石の大部分が変質している。
$\varepsilon$	強風化している。石英および一部の長石を除きほとんど変質し原岩組織は失われている。

### ・変質

1	非変質	肉眼的に変質鉱物の存在が認められないもの。
2	弱変質	原岩組織を完全に残し、変質程度(脱色)が低いもの。あるいは非変質部の割合が高いもの(肉眼で50%以上)。
3	中変質	肉眼で変質が進んでいると判定できるが、原岩組織を明らかに残し、原岩判定が容易なもの。または、非変質部を残すものおよび網状変質部。
4	強変質	構成鉱物、岩片等が変質鉱物で完全置換され、原岩組織を全く～殆ど残さないもの。

## ・破碎度区分

区分	模様	詳細
Hc-1		粘土状部。 粘土及びシルトを主体とし、少量の砂及び礫を伴う。粘土化が進み全体に軟質化している。
Hc-2		礫混じり粘土状部。 粘土及びシルトの基質中に礫状ないしレンズ状の岩片を含む。基質及び礫は粘土化が進み軟質化している。
Hb		礫質粘土状部、粘土質礫状部、礫質砂状部。 礫を多く含み、基質は粘土、シルト及び砂からなる。基質は粘土化が進み軟質化しているが、礫は比較的新鮮で硬い。
Hj		粘土混じり礫状部、粘土混じり岩片状部、粘土質岩片状部、砂混じり岩片状部。 粘土及びシルトを挟む割れ目が発達し、全体に脆い。岩片は比較的新鮮で硬いものから、やや粘土化が進み指圧で砂状化するものまである。網目状の粘土細脈が発達することがある。

余白

H24-E'-2

## ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo. 1

事業・工事名

ボーリング名	E'-2			調査位置	X:395.945, Y:1131.913						北緯	35° 45' 21.16"
発注機関	日本原子力発電株式会社						調査期間		2013年2月2日～2013年2月17日		東経	136° 1' 2.59"
調査業者名				主任技師			現場人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	19.85 m	角度	180° 上 下 0° 25.0° 向	方北 西 270° 180° 南 90° 0° 東	地盤勾配	鉛直	水平	使用機種	試錐機		ハンマー落下用具	
総掘削長	27.00 m							エンジン	ポンプ			

標尺	標高	深度	柱状図	岩種	色	硬	コア	割れ目	風化	変形	記	(標準貫入) 試験						原位置試験 (孔内水位観察)	室内試験	掘進月	掘進速度 (cm/時)	孔径 孔壁保護 mm	コアチュー ブビット mm	給圧 (kN·MPa)	回転数 (rpm)	回転圧 (MPa)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
												岩級	孔内水位 (m)	測定月日	N値	孔内水位 (m)	測定月日	N値													
1	18.67	1.30	埋土	褐							0.00～1.30m: 埋土(礫質) 砂は中～粗砂が主体。礫は径5～40mmの黒色亜角礫が主体で花崗岩質の岩片も見られる。礫率30程度。	0	50	100	0	10	20	30	40	50	116 ケーシング	2.0	120	泥水15	15						
2			浅黄			Dg	Vg	cg	γ		1.30～27.00m: 花崗岩岩(6p) 1.91～2.63m: 土砂状を呈する。	2	CL'			0	10	20	30	40	50	116 ケーシング	0.5	150	泥水12	12					
3			明褐灰			Eg	Vg	dg	δ		●2.63～5.00m: 破碎部 2.63～3.78m: 粘土混じり砂状破碎部(Hj) 上端43°、下端48°で不明瞭。灰白色粘土が不規則に分布。 3.78～5.00m: 粘土混じり砂状破碎部(Hb) 下端36°。	3				0	10	20	30	40	50	130 ケーシング	1.0	150	泥水12	10					
4			灰白			Dg	Vg	cg	γ		3.92～3.94m: 上下端78°で波打ち、幅10mm程度の粘土脈を挟む。 4.00～4.18m: 直線性に乏しい粘土脈である。 4.50～4.56m: 砂混じり粘土状破碎部(Hc-1) 上端69°、下端71°で境界は明瞭。幅15mm。 5.00～8.00m: 風化により大半が岩芯まで劣化し土砂状～岩片状を呈する。	4	D'			0	10	20	30	40	50	116 ケーシング	1.0	150	泥水12	10					
5			黄褐			Dg	Vg	cg	γ		9.21～9.34m: 割れ目密集部で軟質となる。 9.70～9.79m: 岩盤劣化部で、上端には幅6mmの石英脈を伴う。	2				0	10	20	30	40	50	95 ケーシング	1.0	150	泥水12	10					
6			褐			Dg	Vg	cg	γ		10.58～11.20m: 酸化汚染を強く受け、岩芯まで黄褐色化する。 11.20～14.87m: 上位に比べ硬質で割れ目開隔は1～10cm程度である。割れ目沿いの細片～細粒化が見られる。	2	CL'			0	10	20	30	40	50	116 ケーシング	1.0	150	泥水12	10					
7			明褐灰			Dg	Vg	cg	γ		13.36m, 13.45m: 傾斜70～80°で、灰白色粘土を挟む。	2				0	10	20	30	40	50	95 ケーシング	1.0	150	泥水12	10					
8			にぶい 黄			Dg	Vg	cg	γ		●14.87～14.98m: 破碎部 角礫状破碎部(Hj) 上端48°、下端52°。幅60～70mm。下端に幅2mmの灰白色粘土を伴う。	2				0	10	20	30	40	50	116 ケーシング	1.0	150	泥水12	10					
9			花崗岩			Dg	Vg	cg	γ		●16.10～16.44m: 破碎部 16.10～16.44m: 砂状破碎部(Hb) 上端40°で波打つ。下端62°で直線的、淡褐色。 16.22m: 粘土状破碎部(Hc-1) 傾斜22°、幅2mm。にぶい黄褐色。 16.44～16.96m: 粘土混じり砂状破碎部(Hj) 下端54°で凹凸あり。	3	D'			0	10	20	30	40	50	120 ケーシング	1.0	150	泥水15	7					
10			にぶい 黄			Dg	Vg	cg	γ																						
11			明褐灰			Dg	Vg	cg	γ																						
12			灰黄褐			Dg	Vg	cg	γ																						
13			灰褐			Dg	Vg	cg	γ																						
14						Dg	Vg	cg	γ																						
15						Dg	Vg	cg	γ																						
16			浅黄			Dg	Vg	cg	δ																						
17			緑灰			Dg	Vg	cg	γ																						
			灰褐			Dg	Vg	cg	γ																						

標 尺	標 高	深 度	柱 状 圖	岩 種 区 分	色	硬 ア 形 割 れ 目 の 状 態	風 変 化 質	記 事	コア採取率 — ( % ) 最大コア長 — cm R Q D — [ % ]			岩 級 区 分	( 標準貫入 ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 ( 孔内水平載荷 )	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 ( cm / 時 )	孔 径 ( mm ) / 孔壁 保 護	コアチ ューブ ( kN · MPa ) / ビ ン ト	給 回 転 数 ( rpm )	送 水 压 ( MPa )	送 水 量 ( L / 分 )	排 水 量 ( L / 分 )		
									0	50	100		0	10	20	30	40												
19									Dg	Vg	cg	Y	3	2															
20									Eg	Vg	dg		3	4															
21									Dg	Vg	cg																		
22									Eg	Vg	dg																		
23									Dg	Vg	cg																		
24									Vg	Vg	cg																		
25									Vg	Vg	cg																		
26									Vg	Vg	cg																		
-4.62	27.00								Eg	Vg	dg		3	2															
									Eg	Vg	dg		3	2															

● 18. 24~19. 45m : 破碎部 (K断層) (変質作用による岩盤劣化も見られる)  
18. 24~18. 43m : 粘土・礫混じり砂状破碎部 (Hb)  
上端32°、下端22°。上部 (18. 24m付近) は粘土分に富む。下位のHjとの境界は不明瞭。黄褐色を呈する。  
18. 43~18. 86m : 粘土混じり礫状破碎部 (Hj)  
上端22° (不明瞭)、下端64°。一部に原岩の組織が認められる。  
不規則に灰白粘土を伴う。灰褐色を呈する。幅30cm。  
18. 86~18. 87m : 砂混じり粘土状破碎部 (Hc-2)  
上下端とも64°。不規則に溶出するが連続している。オリーブ黒色を呈する。  
幅5~10mm程度。  
18. 87~19. 10m : 破碎じり砂状破碎部 (Hb)  
上端64°、下端61°。下部 (19. 10m付近) は幅4mm程度にわたり灰白色粘土に富む。明褐色を呈する。  
幅10cm程度。  
19. 10~19. 45m : 角礫状破碎部 (Hj)  
下端59°で直線的。明赤灰色~暗緑灰色を呈する。幅20cm。  
19. 45~20. 63m : 变質により緑黒色を呈する。土砂~砂礫状を呈する。  
● 26. 30~27. 00m : 破碎部  
26. 30~26. 40m : 粘土質礫状破碎部 (Hj)  
上下端48°。幅60~70mm。黄鉄鉱や雲母類を伴う。  
26. 40~26. 41m : 砂混じり粘土状破碎部 (Hc-1)  
上下端48°で両端とも波打つ。幅10~15mm。灰色。  
26. 41~26. 48m : 粘土混じり砂状破碎部 (Hb)  
下端50°で明瞭。幅50mm程度。下端は変質し緑灰色を呈する。  
26. 48~26. 67m : 健岩部が残る。  
26. 67~27. 00m : 粘土混じり角礫状破碎部 (Hj)  
上端56°。黄鉄鉱、雲母類を伴う。

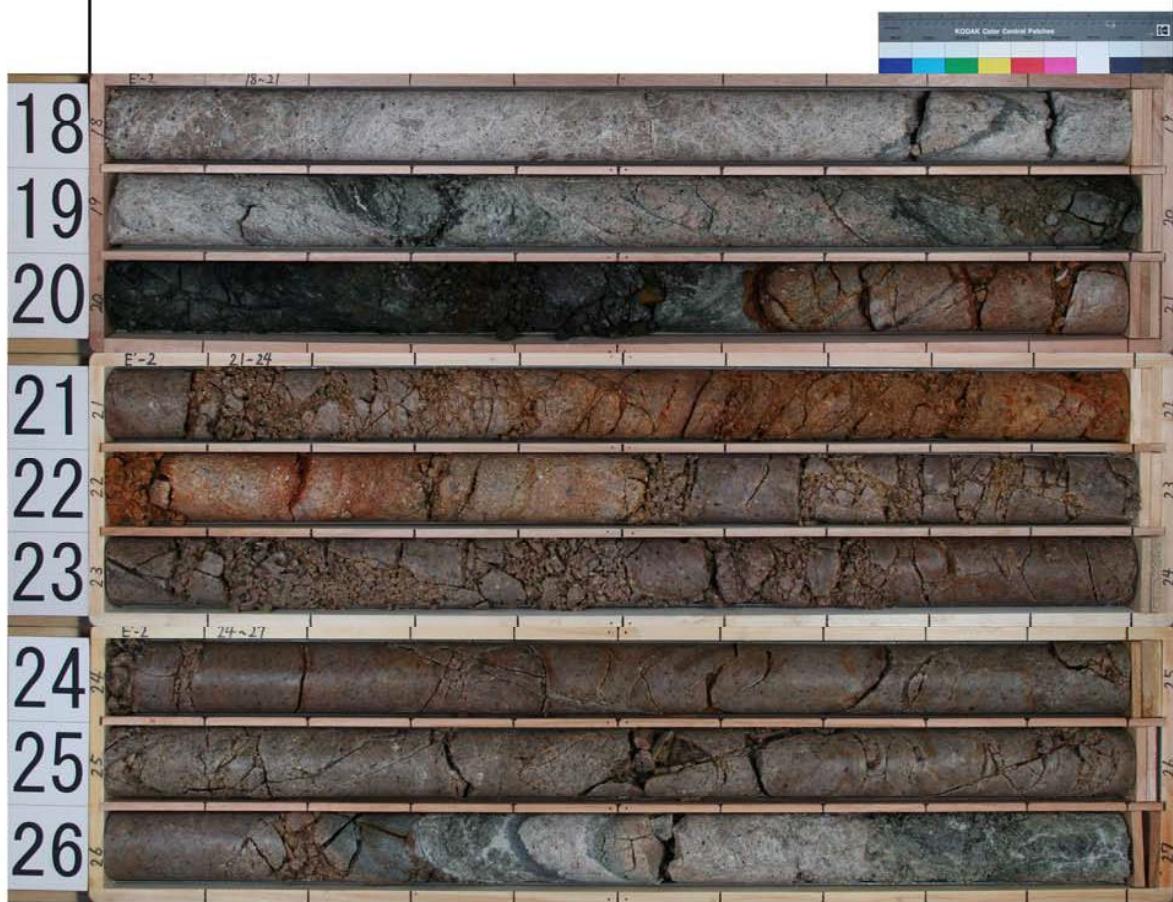
孔番 E' -2 孔

深度 0.00m~18.00m



孔番 E' -2 孔

深度 18.00m ~ 27.00m



H24-E'-1

## ボーリング柱状図

### 調查名

ボーリングNo. 1

### 事業・工事名

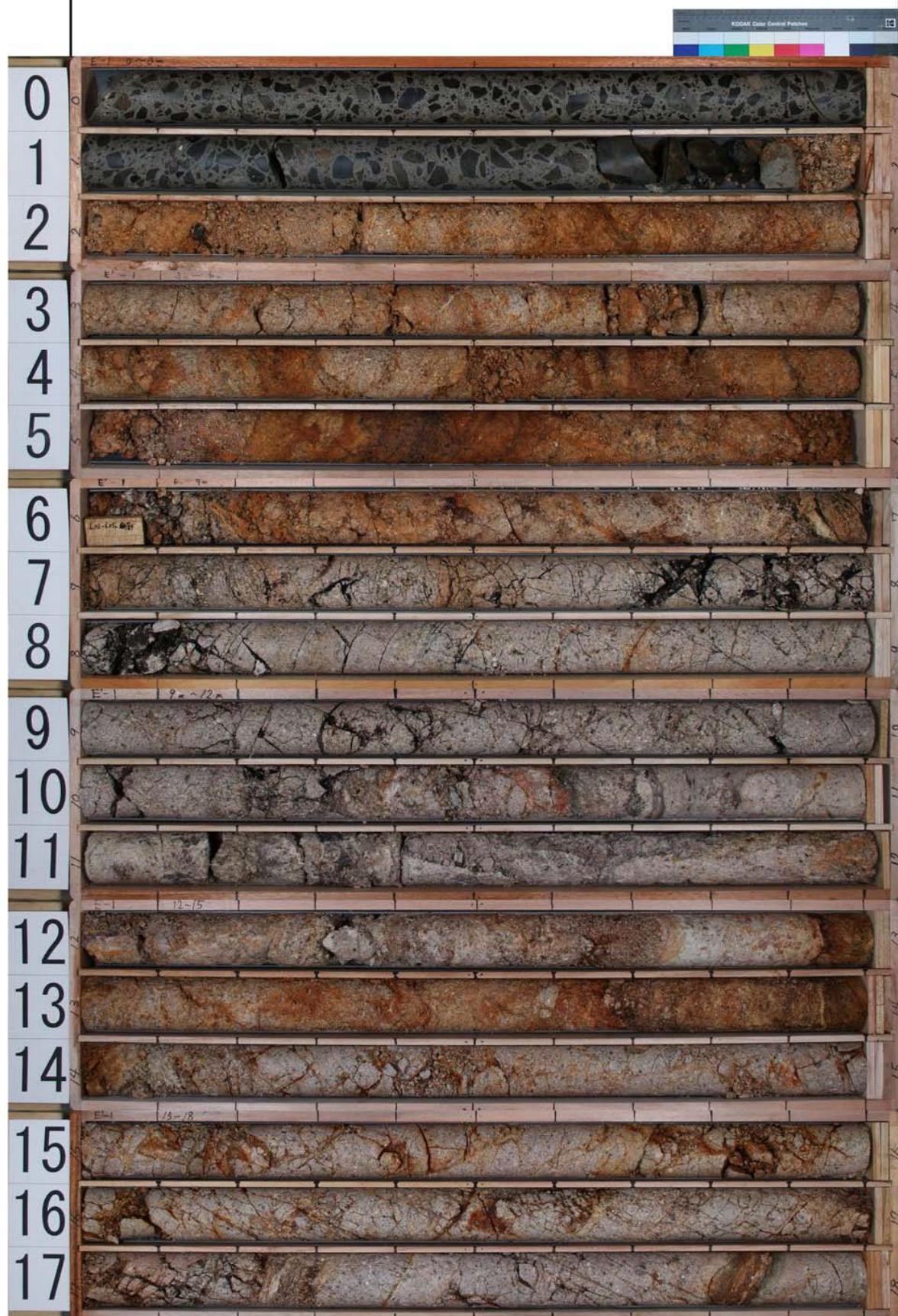
ボーリング名	E'-1		調査位置	X:397.883, Y:1130.584					北緯	35° 45' 21.17"
発注機関	日本原子力発電株式会社					調査期間	2013年 1月13日～ 2013年 1月26日		東経	136° 1' 2.68"
調査業者名				主任技師			現代理人	口鑑定者	ボーリング責任者	
孔口標高	20.79	m	角度	180° 上 下 0° 90° 45° 0°	方 向	北 270° 西 180° 南 90° 0°	地盤勾配 鉛直 90° 0° 0° 0°	使用機種 試錐機 エンジン	水平 0° 0° 0°	ハンマー 落下用具 ポンプ
総掘削長	29.00	m								

標 尺	標 高	深 度	柱 状 圖	岩 種 区 分	色 調	硬 ア 形 割 れ 目 の 状 態	風 変 化 質	記 事	コア採取率 — ( % )		岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) /測 定 月 日	( 標準貫入 ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 ( 孔内水平載荷 )	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 ( cm / 時 )	孔 径 ( mm ) / 孔壁 保 護	コアチ ューブ ( kN · MPa ) / ビ ット	給 圧 ( kN ) / 回 転 数 ( rpm )	送 水 圧 ( MPa ) / 送 水 量 ( L / 分 )	排 水 量 ( L / 分 )		
									—	( — )			0 10 20 30 40 50															
21					褐灰	Dg Ep	Vg Vg	cg cg	γ γ	2																		
22					明褐灰	Dg	Vg	cg	γ	2																		
23					灰褐	Dg	Vg	cg	γ	2																		
24					灰黄	Dg	Vg	cg	γ	2																		
25					灰褐	Dg	Vg	cg	γ	2																		
26					にぶい黄橙	Dg	Vg	cg	γ	2																		
27					明褐灰	Dg	Vg	cg	γ	2																		
28					灰白																							
0.28	29.00																											

20, 27~20, 30m: 变質により、暗青灰色を呈する。  
 ●20, 30~20, 38m: 破碎部  
 20, 30~20, 37m: 砂砾質粘土状破碎部 (Hc-1)  
 上端23°、下端25°でいすれも直線的、幅50mm程度。变質した岩片を含む。  
 20, 37~20, 38m: 粘土状破碎部 (Hc-1)  
 下端25°で直線的、幅10mm。橙色。  
 ●22, 77~23, 01m: 破碎部  
 粘土混じり砂状破碎部 (Hb)  
 上端17°、下端9°。褐灰~明黄褐色。強く变質している。22, 83mに幅2~5mmの赤褐色粘土脈を挟む。  
 ●25, 18~25, 36m: 破碎部 (G断層)  
 25, 18~25, 27m: 粘土混じり砾状破碎部 (Hj)  
 上端45°で不明瞭、下端60°で弯曲する。  
 25, 27~25, 29m: 硬質粘土状破碎部 (Hb)  
 下端56°。幅15~20mm。  
 25, 29~25, 31m: 砂混じり粘土状破碎部 (Hc-2)  
 下端56°で波打つ。幅10mm程度。黒褐色。  
 25, 31~25, 32m: 硬質粘土状破碎部 (Hb)  
 上端56°。下端56°。やや波打って連続。幅5mm程度。  
 25, 32~25, 36m: 粘土混じり砂砾状破碎部 (Hb)  
 下端43°。幅30~40mm。  
 25, 36~29, 00m: 割れ目間隔は1~3cm程度で、一部に割れ目が密集する。  
 28, 55~28, 71m: 青灰色に变質する。  
 28, 61~28, 66m: 灰白色粘土混じり砾状を呈する。

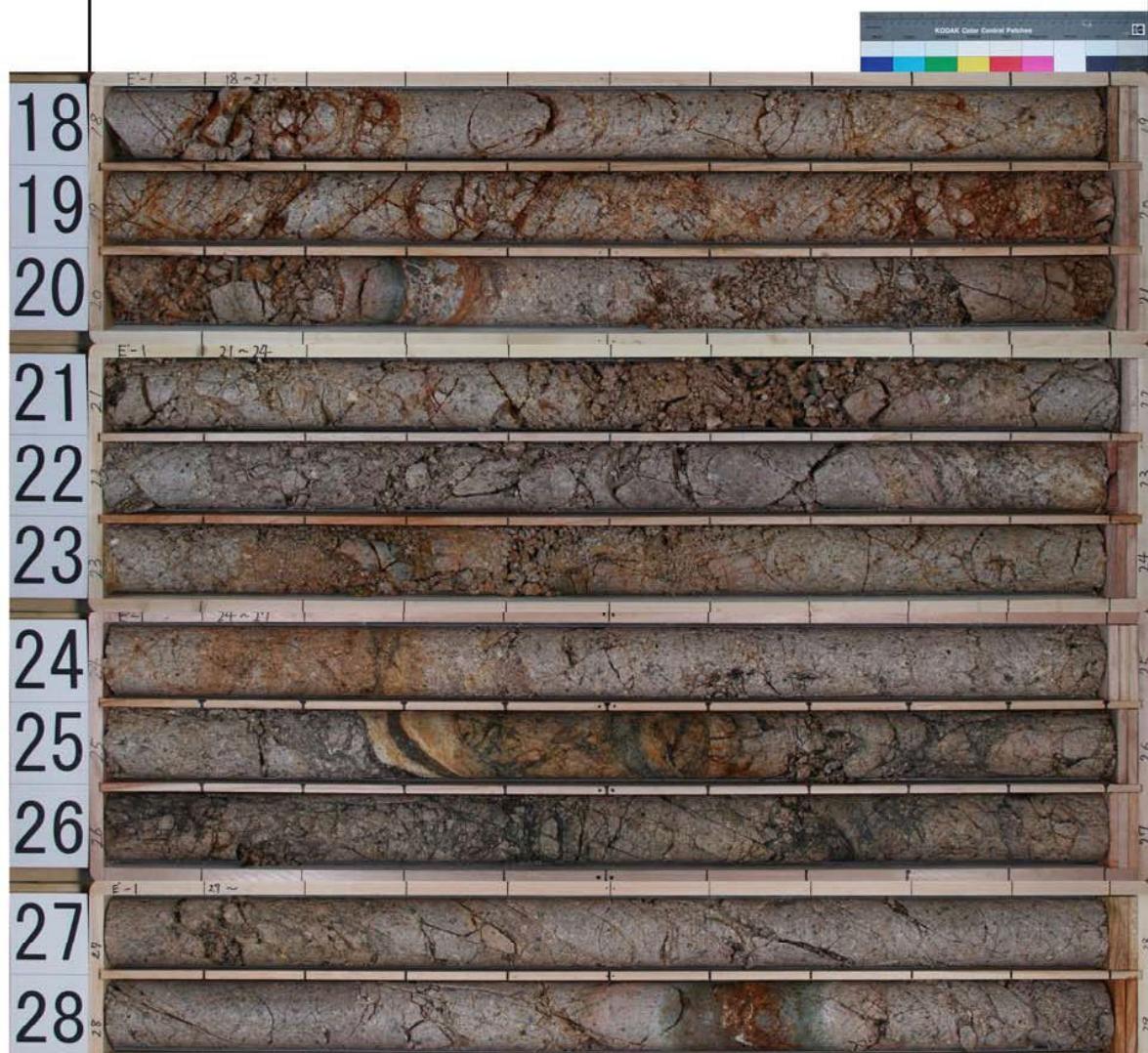
孔番 E' -1 孔

深度 0.00m~18.00m



孔番 E' -1 孔

深度 18.00m ~ 29.00m



H24-A-11

## ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo. 1

事業・工事名

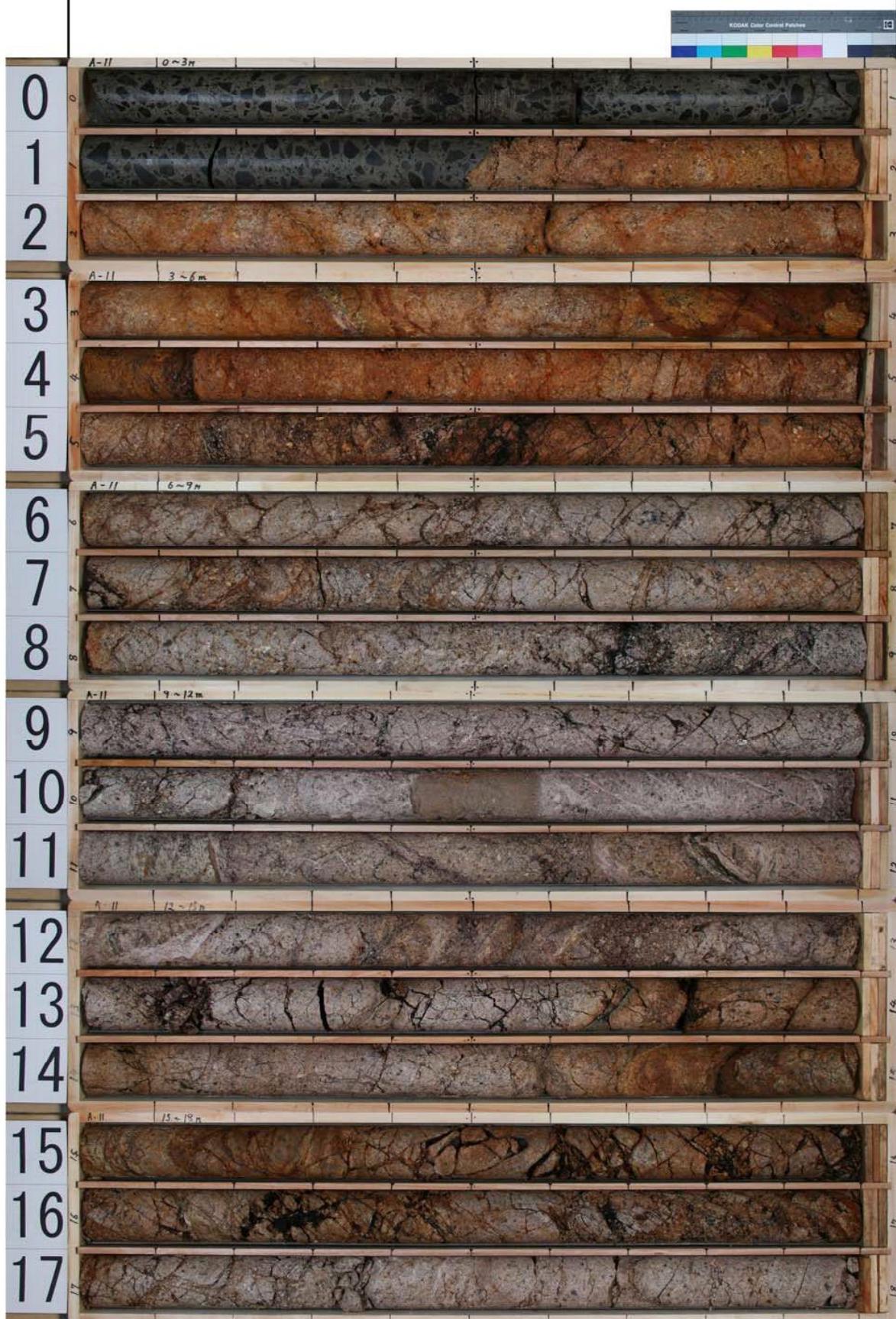
ボーリング名	A-11	調査位置	X:397.839, Y:1128.000	北緯	35° 45' 21.10"
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	2013年2月1日～2013年2月19日	東経	136° 1' 2.74"
調査業者名		主任技師	現代理人	コ鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	20.58 m	角度	180° 上 90° 下 45.0°	方北 0° 東 90° 南 180° 西 53.0°	地盤勾配 鉛直 水平 0.0°
総掘削長	35.00 m	使用機種	試錐機 エンジン	ハンマー落下用具 ポンプ	

標尺	標高	深度	柱状図	岩種	色	硬	コア	割れ目	風化	変形	記	コア採取率 → (%)	岩級	孔内水位 (m)	孔内水位 (m)	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水位載荷)	室試験	掘進月	掘進速度 (cm/時)	孔径 孔壁保護 mm	コアチュー ブ/ビット KN·MPa	給圧 (kN·MPa)	回転数 (rpm)	回転圧 (MPa)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
																→ cm	R Q D	→ %	→ 分	→ 分	→ 分	→ 分																
1	19.33	1.77		埋土	褐灰						0.00～1.77m: 構造物及び盛土 0.00～1.50m: コンクリート 1.50～1.77m: 砂混じり粗砂			0	50	100	0	10	20	30	40	50																
2	19.20	1.95		花崗斑岩	明黄緑						1.95～35.00m: 花崗斑岩 (Gp) 1.95～5.58m: 著しく軟化する。 3.32m: 白色粘土を含む。傾斜45°, 幅 20～30mm。薄く赤色粘土を伴う。	dg	Eg	Vg	δ	2	0	100	0	2	40	100/ケーシング	ダブルチュー ブ/ビット ダブルチュー ブ/ビット	2.0	100	0.1	泥水10	10										
3					にぶい黄緑						5.58～10.20m: 傾斜40～70°の割れ目 が交差する。一部で幅1～5mmの 白色粘土が網状に分布し、割れ目自 身が交差する。一部で幅1～5mmの 白色粘土が網状に分布し、割れ目自 身が交差する。		Dg	Vg	cg	2	0	100	0	2	40	100/ケーシング	ダブルチュー ブ/ビット ダブルチュー ブ/ビット	2.0	100	0.1	泥水10	10										
4					花崗斑岩						● 10.20～12.76m: 破碎部 (K断層) <スライム含む> 10.20～10.58m: 砂質粘土状破碎部 (Hb) 上下端の境界角度は不明 (上端は 礫状コア、下端はスライムのため) 10.58～11.77m: 粘土混じり礫状破 碎部 (Hj)		Eg	Vg	cg	2	0	100	0	2	40	100/ケーシング	ダブルチュー ブ/ビット ダブルチュー ブ/ビット	2.0	100	0.1	泥水10	10										
5					にぶい黄緑						10.42～10.58m: スライム 10.58～11.77m: 粘土混じり礫状破 碎部 (Hj)		Eg	Vg	cg	2	0	100	0	2	40	100/ケーシング	ダブルチュー ブ/ビット ダブルチュー ブ/ビット	2.0	100	0.1	泥水10	10										
6					花崗斑岩						10.42～10.58m: スライム 10.58～11.77m: 粘土混じり礫状破 碎部 (Hj)		Dg	Vg	cg	2	0	100	0	2	40	100/ケーシング	ダブルチュー ブ/ビット ダブルチュー ブ/ビット	2.0	100	0.1	泥水10	10										
7					にぶい黄緑						● 10.20～12.76m: 破碎部 (K断層) <スライム含む> 10.20～10.58m: 砂質粘土状破碎部 (Hb) 上下端の境界角度は不明 (上端は 礫状コア、下端はスライムのため) 10.58～11.77m: 粘土混じり礫状破 碎部 (Hj)		Eg	Vg	cg	2	0	100	0	2	40	100/ケーシング	ダブルチュー ブ/ビット ダブルチュー ブ/ビット	2.0	100	0.1	泥水10	10										
8					花崗斑岩						10.42～10.58m: スライム 10.58～11.77m: 粘土混じり礫状破 碎部 (Hj)		Eg	Vg	cg	2	0	100	0	2	40	100/ケーシング	ダブルチュー ブ/ビット ダブルチュー ブ/ビット	2.0	100	0.1	泥水10	10										
9					にぶい黄緑						10.42～10.58m: スライム 10.58～11.77m: 粘土混じり礫状破 碎部 (Hj)		Eg	Vg	cg	2	0	100	0	2	40	100/ケーシング	ダブルチュー ブ/ビット ダブルチュー ブ/ビット	2.0	100	0.1	泥水10	10										
10	13.21	10.42			花崗斑岩						● 10.20～12.76m: 破碎部 (K断層) <スライム含む> 10.20～10.58m: 砂質粘土状破碎部 (Hb) 上下端の境界角度は不明 (上端は 礫状コア、下端はスライムのため) 10.58～11.77m: 粘土混じり礫状破 碎部 (Hj)		Eg	Vg	cg	2	0	100	0	2	40	100/ケーシング	ダブルチュー ブ/ビット ダブルチュー ブ/ビット	2.0	100	0.1	泥水10	10										
11	13.10	10.58			にぶい黄緑						● 10.20～12.76m: 破碎部 (K断層) <スライム含む> 10.20～10.58m: 砂質粘土状破碎部 (Hb) 上下端の境界角度は不明 (上端は 礫状コア、下端はスライムのため) 10.58～11.77m: 粘土混じり礫状破 碎部 (Hj)		Eg	Vg	cg	2	0	100	0	2	40	100/ケーシング	ダブルチュー ブ/ビット ダブルチュー ブ/ビット	2.0	100	0.1	泥水10	10										
12					花崗斑岩						● 10.20～12.76m: 破碎部 (K断層) <スライム含む> 10.20～10.58m: 砂質粘土状破碎部 (Hb) 上下端の境界角度は不明 (上端は 礫状コア、下端はスライムのため) 10.58～11.77m: 粘土混じり礫状破 碎部 (Hj)		Eg	Vg	cg	2	0	100	0	2	40	100/ケーシング	ダブルチュー ブ/ビット ダブルチュー ブ/ビット	2.0	100	0.1	泥水10	10										
13					にぶい黄緑						● 10.20～12.76m: 破碎部 (K断層) <スライム含む> 10.20～10.58m: 砂質粘土状破碎部 (Hb) 上下端の境界角度は不明 (上端は 礫状コア、下端はスライムのため) 10.58～11.77m: 粘土混じり礫状破 碎部 (Hj)		Eg	Vg	cg	2	0	100	0	2	40	100/ケーシング	ダブルチュー ブ/ビット ダブルチュー ブ/ビット	2.0	100	0.1	泥水10	10										
14					花崗斑岩						● 10.20～12.76m: 破碎部 (K断層) <スライム含む> 10.20～10.58m: 砂質粘土状破碎部 (Hb) 上下端の境界角度は不明 (上端は 礫状コア、下端はスライムのため) 10.58～11.77m: 粘土混じり礫状破 碎部 (Hj)		Eg	Vg	cg	2	0	100	0	2	40	100/ケーシング	ダブルチュー ブ/ビット ダブルチュー ブ/ビット	2.0	100	0.1	泥水10	10										
15					にぶい黄緑						● 10.20～12.76m: 破碎部 (K断層) <スライム含む> 10.20～10.58m: 砂質粘土状破碎部 (Hb) 上下端の境界角度は不明 (上端は 礫状コア、下端はスライムのため) 10.58～11.77m: 粘土混じり礫状破 碎部 (Hj)		Eg	Vg	cg	2	0	100	0	2	40	100/ケーシング	ダブルチュー ブ/ビット ダブルチュー ブ/ビット	2.0	100	0.1	泥水10	10										
16					花崗斑岩						● 10.20～12.76m: 破碎部 (K断層) <スライム含む> 10.20～10.58m: 砂質粘土状破碎部 (Hb) 上下端の境界角度は不明 (上端は 礫状コア、下端はスライムのため) 10.58～11.77m: 粘土混じり礫状破 碎部 (Hj)		Eg	Vg	cg	2	0	100	0	2	40	100/ケーシング	ダブルチュー ブ/ビット ダブルチュー ブ/ビット	2.0	100	0.1	泥水10	10										
17					にぶい黄緑						● 10.20～12.76m: 破碎部 (K断層) <スライム含む> 10.20～10.58m: 砂質粘土状破碎部 (Hb) 上下端の境界角度は不明 (上端は 礫状コア、下端はスライムのため) 10.58～11.77m: 粘土混じり礫状破 碎部 (Hj)		Eg	Vg	cg	2	0	100	0	2	40	100/ケーシング	ダブルチュー ブ/ビット ダブルチュー ブ/ビット	2.0	100	0.1	泥水10	10										
18					花崗斑岩						● 10.20～12.76m: 破碎部 (K断層) <スライム含む> 10.20～10.58m: 砂質粘土状破碎部 (Hb) 上下端の境界角度は不明 (上端は 礫状コア、下端はスライムのため) 10.58～11.77m: 粘土混じり礫状破 碎部 (Hj)		Eg	Vg	cg	2	0	100	0	2	40	100/ケーシング	ダブルチュー ブ/ビット ダブルチュー ブ/ビット	2.0	100	0.1	泥水10	10										
19					にぶい黄緑						● 10.20～12.76m: 破碎部 (K断層) <スライム含む> 10.20～10.58m: 砂質粘土状破碎部 (Hb) 上下端の境界角度は不明 (上端は 礫状コア、下端はスライムのため) 10.58～11.77m: 粘土混じり礫状破 碎部 (Hj)		Eg	Vg	cg	2	0	100	0	2	40	100/ケーシング	ダブルチュー ブ/ビット ダブルチュー ブ/ビット	2.0	100	0.1	泥水10	10										
											● 10.20～12.76m: 破碎部 (K断層) <スライム含む> 10.20～10.58m: 砂質粘土状破碎部 (Hb) 上下端の境界角度は不明 (上端は 礫状コア、下端はスライムのため) 10.58～11.77m: 粘土混じり礫状破 碎部 (Hj)																											

標 尺	標 高	深 度	状 況	岩 種	色 区	硬 ア 形 状	コ ア 割 れ 目 の 状 態	風 変 化 質	記 事	コア採取率 — ( % )	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) /測 定 月 日	( 標準貫入 ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 ( 孔内水平載荷 )	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 ( cm / 時 )	孔 径 ( mm ) / 孔壁 保 護	コアチ ューブ / ピ ン ツ	給 回 転 数 ( rpm )	送 水 压 ( MPa )	送 水 量 ( L / 分 )	排 水 量 ( L / 分 )							
(m)	(m)	(m)	圖 分	調	軟 状 態	硬 ア 形 状	コ ア 割 れ 目 の 状 態	風 変 化 質		— ( % )	— ( cm )	— ( % )	— ( % )	— ( % )	— ( % )	— ( % )	— ( % )	— ( % )	— ( % )	— ( % )	— ( % )	— ( % )	— ( % )	— ( % )	— ( % )	— ( % )	— ( % )	— ( % )						
21										11.83~12.12m: 碎状破碎部 (Hj) 上端45°, 下端60~70°。不明瞭 な20°前後の割れ目や低密着割れ 目が多い。灰褐色を呈する。	4	100	D																					
22										12.12~12.16m: 硫質粘土状破碎部 (Hb) 上端60~75°, 下端40~60°で両 者ともも波打ちながら連續。径1~2m m石英粒と粘土化した径5~10mm岩 片を多く含む。白色~明赤灰色を 呈する。幅20~35mmと膨脹する。	5	100	D'																					
23										12.16~12.16m: 硫質粘土状破碎部 (Hj) 下端不明瞭。一部で割れ目が残留 するが、被ね割れ目は消滅してい る。20~25°で白~にふい橙~明 赤灰色、厚さ1~5mmの軟弱粘土を 挟む。	6	100	CL'																					
24										18.62m: 黄褐色粘土挟み。 傾斜60°、幅3~5mm。周縁約20mmが淡 色化し、黄鉄鉱が晶出。	7	100	D'																					
25										18.80~19.38m: 破碎部 粘土混り破碎部 (Hj) 上端25°でやや波打ち、下端10°。幅 1~3mmの白色粘土を多く含む。	8	100	D																					
26										21.20~21.27m: 変質により灰白 にふい黄橙色、土砂状となる。 ●21.40~21.65m: 破碎部 21.40~21.61m: 粘土混り破碎部 破碎部 (Hj) 上端は60°で直線的。下端20°で波 打つ。上端に幅1~2mmの明黄褐色 粘土を伴う。	9	100	D'																					
27										21.61~21.65m: 碎状破碎部 (Hb) 下端55°で直線的。幅30~50mm。に ふい褐色~灰白色。 ●25.83~26.38m: 破碎部 25.83~25.86m: 硫質粘土状破碎部 (Hc-2) 上端53°、下端50°で両端とも直線的 。幅20mm。径1~5mmの石英、礫を少 量含む。	10	100	CL'																					
28										25.86~26.38m: 粘土混り破碎部 (Hj) 下端30°で直線的。径10~20mmの岩 片主体で、白色粘土脈が分布する。 27.92m: 58°で幅1~5mm、27.96m: 5 2°で幅1~3mmのいずれも軟弱な白 色粘土脈が膨脹しながら概ね直線 的土脈系に連続する。また 両粘土脈が互生した幅0.5~1mm の同質の粘土脈も分布する。	11	100	D'																					
29										●29.00~29.35m: 破碎部 (D-1破碎 帶) 29.00~29.05m: 粘土状破碎部 (Hc-1) 上端56°、下端58°で両端とも直線的 。幅10~20mm、灰褐色。	12	100	D																					
30										29.05~29.15m: 硫質粘土状破碎部 (Hc) 下端62°で概ね直線的。幅55mm。や や硬質。	13	100	D'																					
31										29.15~29.18m: 粘土状破碎部 (Hc-1) 下端68°で直線的。幅10~15mm。暗 褐色。石英、細礫を若干含む。	14	100	CL'																					
32										29.18~29.35m: 硫質粘土状破碎部 (Hb) 下端65~80°で波打つ。径5mm以下 の礫を含む。	15	100	D																					
33										29.63m, 29.67m: 石英脈。各々幅5 mm, 3mm。暗灰色を呈する。 31.07m: 傾斜70°で幅2~3mmの青 灰色粘土を挟む。	16	100	D'																					
34										34.46m: 傾斜65°で幅2~4mmの白 色粘土を挟む。	17	100	D																					
-4.17	35.00																																	

孔番 A-11 孔

深度 0.00m ~ 18.00m



孔番 A-11 孔

深度 18.00m ~ 35.00m



H24-E-2

## ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo. 1

事業・工事名

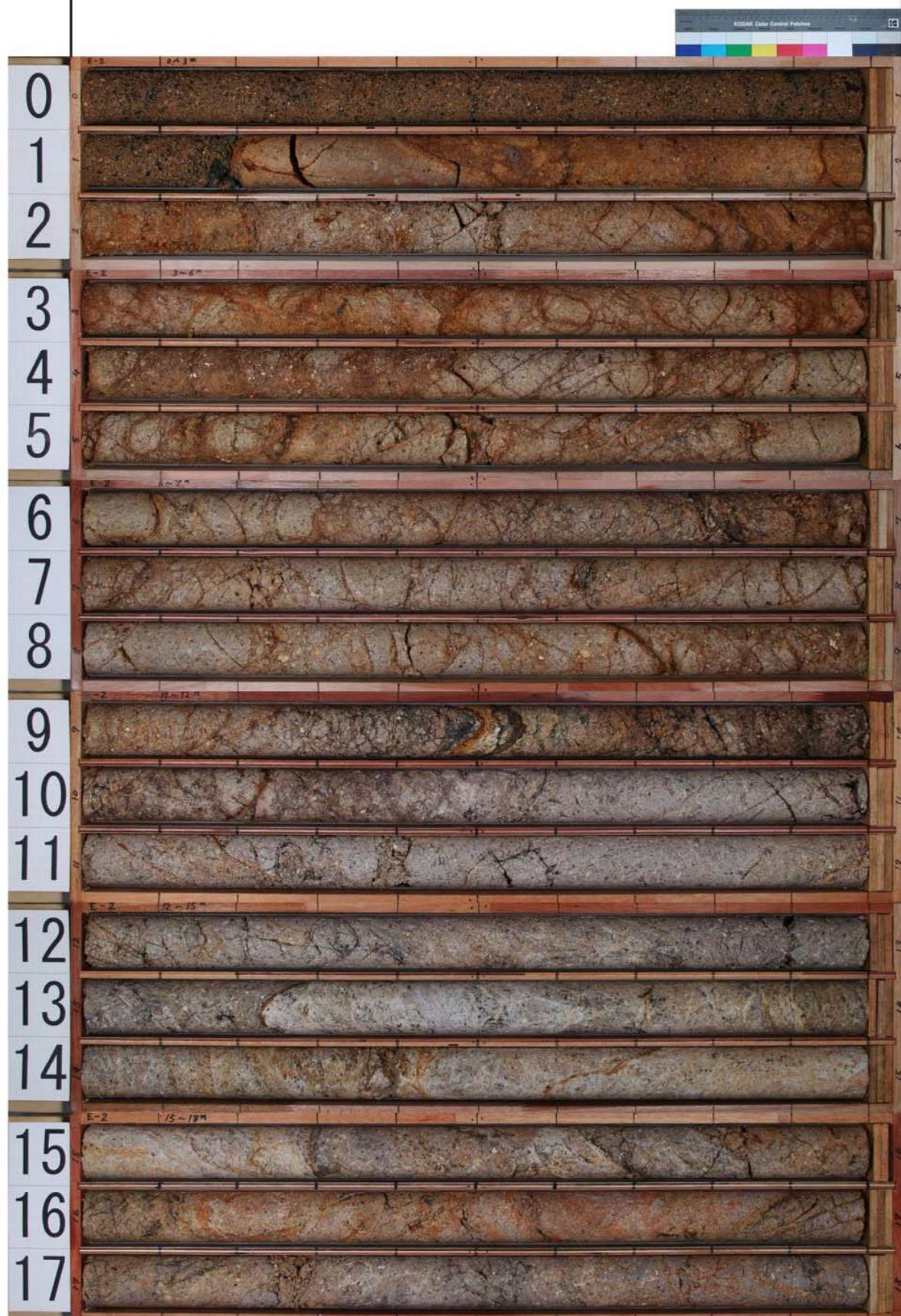
ボーリング名	E-2	調査位置	X:395.862, Y:1126.969	北緯	35° 45' 21.03"		
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	2013年2月23日～2013年3月7日	東経	136° 1' 2.70"		
調査業者名		主任技師	現代理人	コ鑑定者	ボーリング責任者		
孔口標高	19.86 m	角度	180° 上 90° 下 0° 25.0° 向	北 0° 270° 西 180° 南 90° 東	地盤勾配 鉛直 水平 0.0° 90°	使用機種 試錐機 エンジン	ハンマー落下用具 ポンブ
総掘削長	27.00 m						

標尺	標高	深度	柱状図	岩種	色	硬	コア	割れ目	風化	変形	記	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D → [%]	岩級	孔内水位 (m) N	孔内水位 (m) 測定月日 分	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水位載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径(mm) /孔壁保護	コアチュー ブ/ビット	給圧 (kN·MPa)	回転数 (rpm)	回転圧 (MPa)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
											事					0	10	20	30	40	50																
1	18.79	1.18		埋土	にぶい 黄緑						0.00～1.18m: 埋土 細礫混じり粗砂からなる。																										
	18.19	1.84		砂礫	にぶい 明黄緑						1.18～1.84m: 砂礫(③層) 礫は径10～20mmで角礫化した花崗岩の亜角～亜角礫。基質は中砂。 1.18～1.47m: 花崗斑岩	Eg Vg Dg	dg cg cg	ε																							
2					にぶい 黄緑						1.84～27.00m: 花崗斑岩(6p) 斑岩は径1～5mmの石英、長石。 1.84～5.85m: 風化により部分的に 土砂状となる。一部に粘土が挟在 する。	Eg Vg Dg	dg cg cg	ε																							
3					明黄緑						●9.47～9.60m: 破碎部 9.47～9.51m: 粘土混じり角礫状破碎部 (Hj) 上端52°で不明瞭。下端60°で直線的 で57°、幅25mm。 9.51m: 粘土状破碎部(Hc=1) 傾斜60°で直線的(57°)。幅2～5mm でにぶい黄緑。	Eg Vg Dg	dg cg cg	ε																							
4					明黄緑						●9.47～9.60m: 破碎部 9.47～9.51m: 粘土混じり角礫状破碎部 (Hj) 上端52°で不明瞭。下端60°で直線的 で57°、幅25mm。 9.51m: 粘土状破碎部(Hc=1) 傾斜60°で直線的(57°)。幅2～5mm でにぶい黄緑。	Eg Vg Dg	dg cg cg	ε																							
5					明黄緑						●9.47～9.60m: 破碎部 9.47～9.51m: 粘土混じり角礫状破碎部 (Hj) 上端52°で不明瞭。下端60°で直線的 で57°、幅25mm。 9.51m: 粘土状破碎部(Hc=1) 傾斜60°で直線的(57°)。幅2～5mm でにぶい黄緑。	Eg Vg Dg	dg cg cg	ε																							
6					明黄緑						●9.47～9.60m: 破碎部 9.47～9.51m: 粘土混じり角礫状破碎部 (Hj) 上端52°で不明瞭。下端60°で直線的 で57°、幅25mm。 9.51m: 粘土状破碎部(Hc=1) 傾斜60°で直線的(57°)。幅2～5mm でにぶい黄緑。	Eg Vg Dg	dg cg cg	ε																							
7					明黄緑						●9.47～9.60m: 破碎部 9.47～9.51m: 粘土混じり角礫状破碎部 (Hj) 上端52°で不明瞭。下端60°で直線的 で57°、幅25mm。 9.51m: 粘土状破碎部(Hc=1) 傾斜60°で直線的(57°)。幅2～5mm でにぶい黄緑。	Eg Vg Dg	dg cg cg	ε																							
8					明黄緑						●9.47～9.60m: 破碎部 9.47～9.51m: 粘土混じり角礫状破碎部 (Hj) 上端52°で不明瞭。下端60°で直線的 で57°、幅25mm。 9.51m: 粘土状破碎部(Hc=1) 傾斜60°で直線的(57°)。幅2～5mm でにぶい黄緑。	Eg Vg Dg	dg cg cg	ε																							
9					明黄緑						●9.47～9.60m: 破碎部 9.47～9.51m: 粘土混じり角礫状破碎部 (Hj) 上端52°で不明瞭。下端60°で直線的 で57°、幅25mm。 9.51m: 粘土状破碎部(Hc=1) 傾斜60°で直線的(57°)。幅2～5mm でにぶい黄緑。	Eg Vg Dg	dg cg cg	ε																							
10					明黄緑						●13.23～15.82m: 破碎部 (K断層) 13.23～13.42m: 硫質粘土状破碎部 (Hb) 上端64°、下端30°で両者とも直線的でシヤープに連続。径1～2mm の石英粒と粘土化した径5～20mmの 花崗斑岩片を多く含む。粘土は 上端径1mmは軟弱であるが、他の はやや堅結している。一部の石 英粒と岩片はマンガン鉱化により 黒色化する。白～明褐灰色を呈す る。幅17～19cm。	Eg Vg Dg	dg cg cg	ε																							
11					明黄緑						●13.23～15.82m: 破碎部 (K断層) 13.23～13.42m: 硫質粘土状破碎部 (Hb) 上端64°、下端30°で両者とも直線的でシヤープに連続。径1～2mm の石英粒と粘土化した径5～20mmの 花崗斑岩片を多く含む。粘土は 上端径1mmは軟弱であるが、他の はやや堅結している。一部の石 英粒と岩片はマンガン鉱化により 黒色化する。白～明褐灰色を呈す る。幅17～19cm。	Eg Vg Dg	dg cg cg	ε																							
12					明黄緑						●13.23～15.82m: 破碎部 (K断層) 13.23～13.42m: 硫質粘土状破碎部 (Hb) 上端64°、下端30°で両者とも直線的でシヤープに連続。径1～2mm の石英粒と粘土化した径5～20mmの 花崗斑岩片を多く含む。粘土は 上端径1mmは軟弱であるが、他の はやや堅結している。一部の石 英粒と岩片はマンガン鉱化により 黒色化する。白～明褐灰色を呈す る。幅17～19cm。	Eg Vg Dg	dg cg cg	ε																							
13					明黄緑						●13.23～15.82m: 破碎部 (K断層) 13.23～13.42m: 硫質粘土状破碎部 (Hb) 上端64°、下端30°で両者とも直線的でシヤープに連続。径1～2mm の石英粒と粘土化した径5～20mmの 花崗斑岩片を多く含む。粘土は 上端径1mmは軟弱であるが、他の はやや堅結している。一部の石 英粒と岩片はマンガン鉱化により 黒色化する。白～明褐灰色を呈す る。幅17～19cm。	Eg Vg Dg	dg cg cg	ε																							
14					明黄緑						●13.23～15.82m: 破碎部 (K断層) 13.23～13.42m: 硫質粘土状破碎部 (Hb) 上端64°、下端30°で両者とも直線的でシヤープに連続。径1～2mm の石英粒と粘土化した径5～20mmの 花崗斑岩片を多く含む。粘土は 上端径1mmは軟弱であるが、他の はやや堅結している。一部の石 英粒と岩片はマンガン鉱化により 黒色化する。白～明褐灰色を呈す る。幅17～19cm。	Eg Vg Dg	dg cg cg	ε																							
15					明黄緑						●13.23～15.82m: 破碎部 (K断層) 13.23～13.42m: 硫質粘土状破碎部 (Hb) 上端64°、下端30°で両者とも直線的でシヤープに連続。径1～2mm の石英粒と粘土化した径5～20mmの 花崗斑岩片を多く含む。粘土は 上端径1mmは軟弱であるが、他の はやや堅結している。一部の石 英粒と岩片はマンガン鉱化により 黒色化する。白～明褐灰色を呈す る。幅17～19cm。	Eg Vg Dg	dg cg cg	ε																							
16					明黄緑						●13.23～15.82m: 破碎部 (K断層) 13.23～13.42m: 硫質粘土状破碎部 (Hb) 上端64°、下端30°で両者とも直線的でシヤープに連続。径1～2mm の石英粒と粘土化した径5～20mmの 花崗斑岩片を多く含む。粘土は 上端径1mmは軟弱であるが、他の はやや堅結している。一部の石 英粒と岩片はマンガン鉱化により 黒色化する。白～明褐灰色を呈す る。幅17～19cm。	Eg Vg Dg	dg cg cg	ε																							
17					明黄緑						●13.23～15.82m: 破碎部 (K断層) 13.23～13.42m: 硫質粘土状破碎部 (Hb) 上端64°、下端30°で両者とも直線的でシヤープに連続。径1～2mm の石英粒と粘土化した径5～20mmの 花崗斑岩片を多く含む。粘土は 上端径1mmは軟弱であるが、他の はやや堅結している。一部の石 英粒と岩片はマンガン鉱化により 黒色化する。白～明褐灰色を呈す る。幅17～19cm。	Eg Vg Dg	dg cg cg	ε																							
18					明黄緑						●13.23～15.82m: 破碎部 (K断層) 13.23～13.42m: 硫質粘土状破碎部 (Hb) 上端64°、下端30°で両者とも直線的でシヤープに連続。径1～2mm の石英粒と粘土化した径5～20mmの 花崗斑岩片を多く含む。粘土は 上端径1mmは軟弱であるが、他の はやや堅結している。一部の石 英粒と岩片はマンガン鉱化により 黒色化する。白～明褐灰色を呈す る。幅17～19cm。	Eg Vg Dg	dg cg cg	ε																							
19					明黄緑						●13.23～15.82m: 破碎部 (K断層) 13.23～13.42m: 硫質粘土状破碎部 (Hb) 上端64°、下端30°で両者とも直線的でシヤープに連続。径1～2mm の石英粒と粘土化した径5～20mmの 花崗斑岩片を多く含む。粘土は 上端径1mmは軟弱であるが、他の はやや堅結している。一部の石 英粒と岩片はマンガン鉱化により 黒色化する。白～明褐灰色を呈す る。幅17～19cm。	Eg Vg Dg	dg cg cg	ε																							
											●13.23～15.82m: 破碎部 (K断層) 13.23～13.42m: 硫質粘土状破碎部 (Hb) 上端64°、下端30°で両者とも直線的でシヤープに連続。径1～2mm の石英粒と粘土化した径5～20mmの 花崗斑岩片を多く含む。粘土は 上端径1mmは軟弱であるが、他の はやや堅結している。一部の石 英粒と岩片はマンガン鉱化により 黒色化する。白～明褐灰色を呈す る。幅17～19cm。	Eg Vg Dg	dg cg cg	ε																							

E-2 ( 2 / 2 )

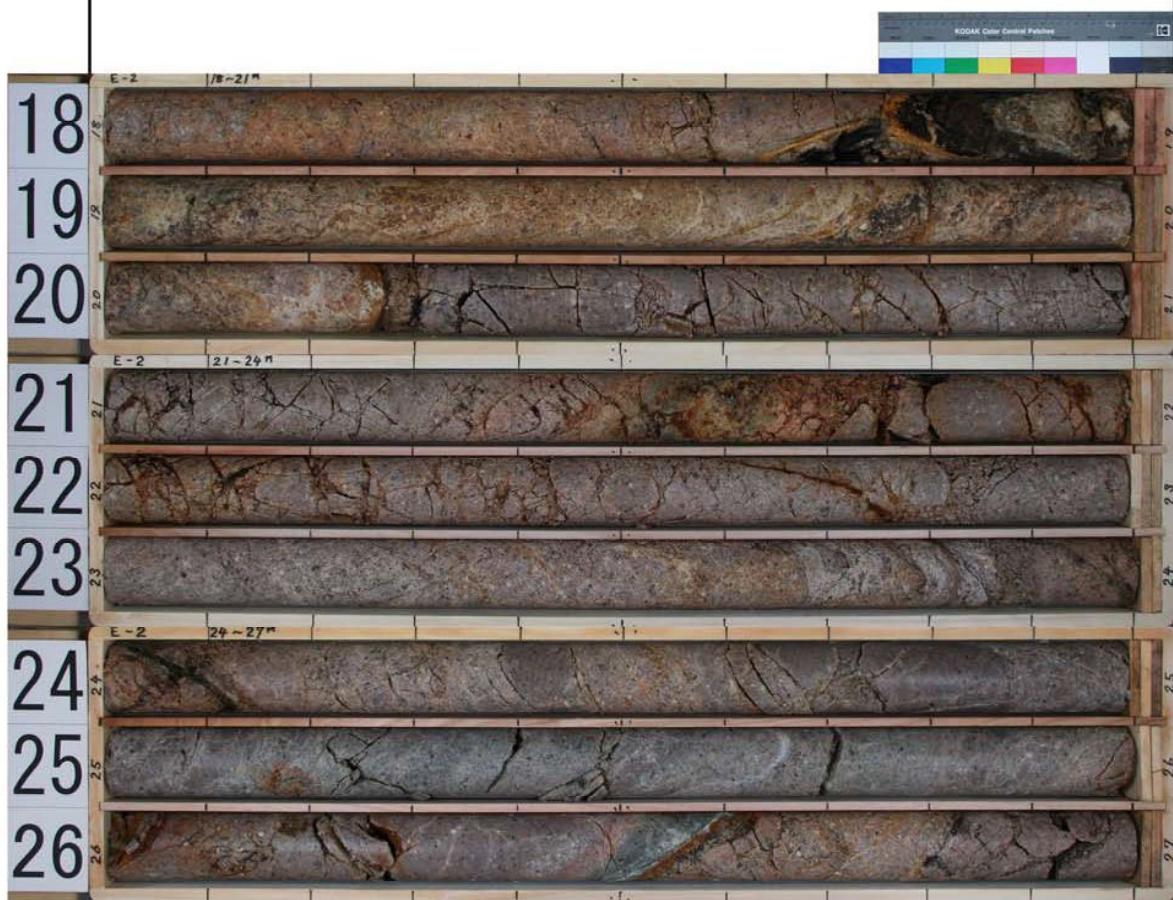
孔番 E-2 孔

深度 0.00m ~ 18.00m



孔番 E-2 孔

深度 18.00m ~ 27.00m



H24-E-1

## ボーリング柱状図

### 調查名

ボーリングNo. 1

### 事業・工事名

E-1 ( 2 / 2 )

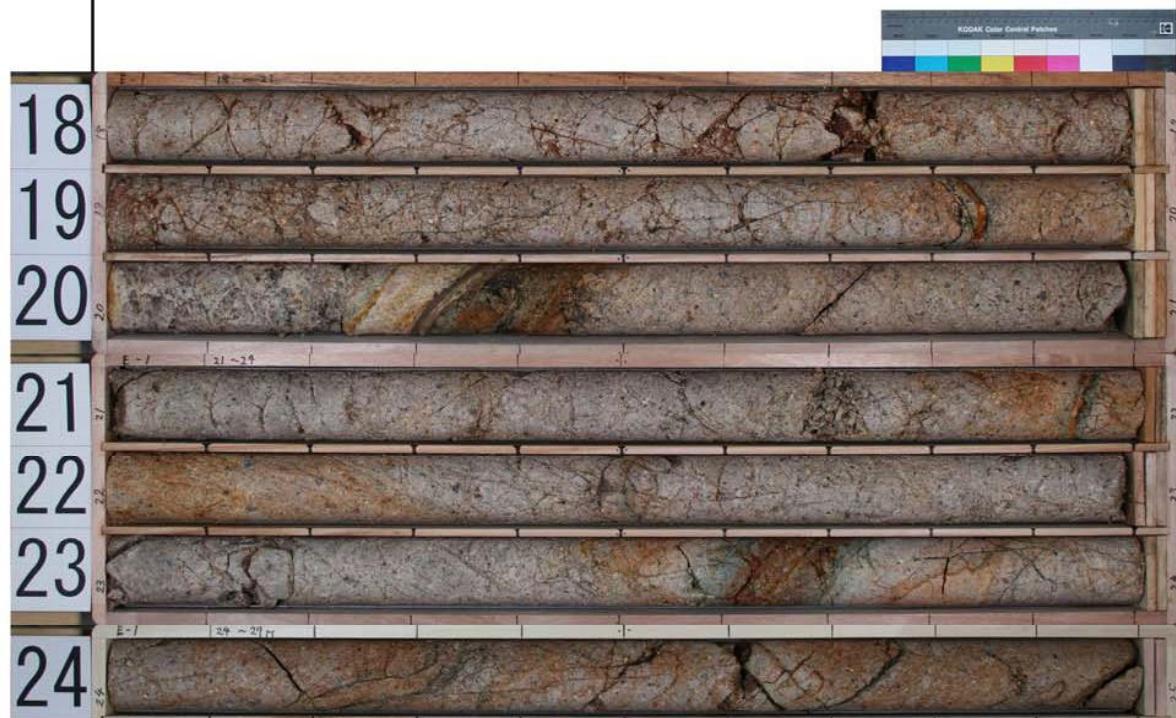
孔番 E-1 孔

深度 0.00m ~ 18.00m



孔番 E-1 孔

深度 18.00m ~ 25.00m



H24-B6-1

## ボーリング柱状図

### 調查名

ボーリングNo. 1

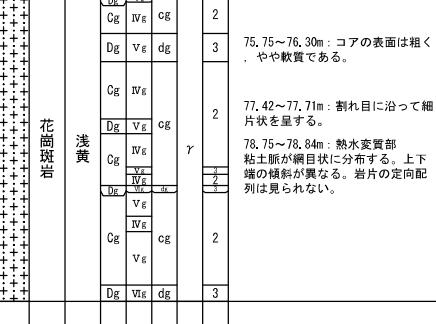
### 事業・工事名

標 尺	標 高	深 度	柱 状 区 分	岩 種 区 分	色	硬 ア 形 状	コ ア 形 状	割 れ 目 の 状 態	風 化 度	変 化 質	記 事	コア採取率 → (%)	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) /測 定 月 日	N 孔 内 水 位 (m) /測 定 月 日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平載荷)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm/ 時)	孔 径 (mm)	コアチ ューブ /孔壁 保 護	給 回 転 数 (/ rpm)	送 水 压 (kN · MPa)	送 水 量 (L/min)	排 水 量 (L/min)			
																0	10	20	30	40													
26					にぶい 黄橙	Dg	Vg				24.98m: 褐色に酸化した部分(幅20mm)が帶状に分布する。傾斜は50°程度である。	δ	3																				
27					明 褐 灰	Cg	IVg	cg			27.14~27.35m: 割れ目が密集し、マンガン脈と砂状部を挟む。		2																				
28					灰 褐	Dg	Vg	Vg			27.85~28.26m: 網目状に黄灰色の細粒部を挟む。		3																				
29											31.15m: 傾斜55°、幅2~3mmのマンガン脈を挟む。																						
30											34.00~34.14m: コアの表面は粗く、やや軟質である。																						
31											35.08~35.57m: 割れ目が網目状(1~3cm間隔)に分布する。コアはやや軟質である。																						
32					明 褐 灰	Dg	Vg	Cg			38.35~38.40m: 破砕部 破砕幅は3.5cmである。 38.35~38.39m: 砕混じり粘土状破砕部(Hc-2) 上端45°で直線的、淡赤褐色。 38.39~38.40m: 粘土状破砕部(Hc-1) 下端50°で凹凸、幅3mm、軟質である。オリーブ灰色。		2																				
33						Dg	Vg	Vg			39.11~40.00m: 割れ目が網目状を呈して密に発達する。		3																				
34						Cg	IVg	cg			39.40~39.65m: マンガン脈を挟む。		2																				
35						Dg	Vg	Vg			40.73~41.68m: 所々割れ目が網目状に分布する。基質は砂状を呈する。		3																				
36						Dg	Vg	Vg			43.16~44.09m: 割れ目が網目状に分布する。傾斜60°程度の割れ目にマングン脈と黄褐色砂状部を挟む。所々縫隙を呈する。全体に緻密である。		2																				
37						Dg	Vg	Vg			44.73~45.01m: 傾斜55~80°の割れ目が1~3cm間隔で発達する。割れ目沿いは角礫状を呈する。		3																				
38						Dg	Vg	Vg			45.01~45.87m: 網目状に割れ目が発達する。		2																				
39						Dg	Vg	Vg			45.87~46.33m: 割れ目が1~3cm間隔で発達する。割れ目沿いは角礫状を呈する。		3																				
40						Dg	Vg	Vg			46.33~46.47m: 粘土混じり礫状を呈する。上端部には幅20~30mmの礫混じりマンガン脈、下端部には幅10~40mmの黄褐色粘土を伴う。上端境界は傾斜55°、下端境界は傾斜40°である。		2																				
41						Dg	Vg	Vg			46.47~46.83m: 割れ目が網目状に発達する。やや変質している。		3																				
42						Dg	Vg	Vg			49.82~49.90m: 傾斜60°程度の割れ目が密集し、一部縫隙を呈する。		2																				
43						Dg	Vg	Vg																									
44						Dg	Vg	Vg																									
45						Dg	Vg	Vg																									
46						Dg	Vg	Vg																									
47						Dg	Vg	Vg																									
48						Dg	Vg	Vg																									
49						Dg	Vg	Vg																									

標 尺	標 高	深 度	柱 状 区 分	岩 種 区 分	色	硬 ア 形 状	コ ア ア 形 状	割 れ 目 の 状 態	風 変 化	記 事	コア採取率 → (%)	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) /測 定 月 日	N ( ) 値	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平載荷)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm/ 時)	孔 径 (mm) /孔壁 保 護	コアチ ューブ /ビ ット	給 回 転 数 ( kN · MPa ) ( rpm )	送 水 压 ( MPa )	送 水 量 ( L/ 分)	排 水 量 ( L/ 分)
															0	10	20	30	40	50									
51																													
52																													
53																													
54																													
55																													
56																													
57																													
58																													
59																													
60																													
61																													
62																													
63																													
64																													
65																													
66																													
67																													
68																													
69																													
70																													
71																													
72																													
73																													
74																													

71.09~71.57m: 傾斜20~40°と傾斜70°程度の割れ目が交わりながら発達しており、割れ目の交差部の一部は脆弱である。  
 ●71.87~73.91m: 破碎部(浦底断層)  
 71.87~73.72m: 粘土混じり疊状破碎部(Hj)  
 上端15°直線的。下端不明瞭。  
 73.72~73.79m: 硫混じり粘土状破碎部(Hc-2)  
 上端不明瞭。淡黄褐色。  
 73.79~73.80m: 粘土状破碎部(Hc-1)  
 上下端45°。上端は波打つ。下端(ほぼ直線的。幅10mm)は淡黄灰色。  
 73.80~73.91m: 粘土混じり疊状破碎部(Hj)  
 下端不明瞭。  
 74.88~75.21m: 黄灰色のシルト状挟在物(幅2~8mm)が分布する。シルト状挟在物の傾斜は45~60°程度である。

標 尺	標 高	深 度	柱 状 圖	岩 種 区	色 分	硬 ア 形 割 れ 目 の 状 態	風 変 化 質	記 事	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平載荷)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm)	コアチュー ーブ /孔壁保 護	給 圧 (kN · MPa)	回 転 数 (r pm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L /分)	排 水 量 (L /分)	
									岩 級	孔 内 水 位 (m) /測 定 月 分	N	分	0 10 20 30 40 50												
76									2																
77									3																
78									2																
79									2																
80									3																
-36.69	81.00																								



孔番 B6-1 孔

深度 0.00m~18.00m



孔番 B6-1 孔

深度 18.00m ~ 36.00m



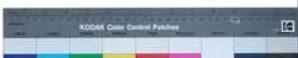
孔番 B6-1 孔

深度 36.00m ~ 54.00m



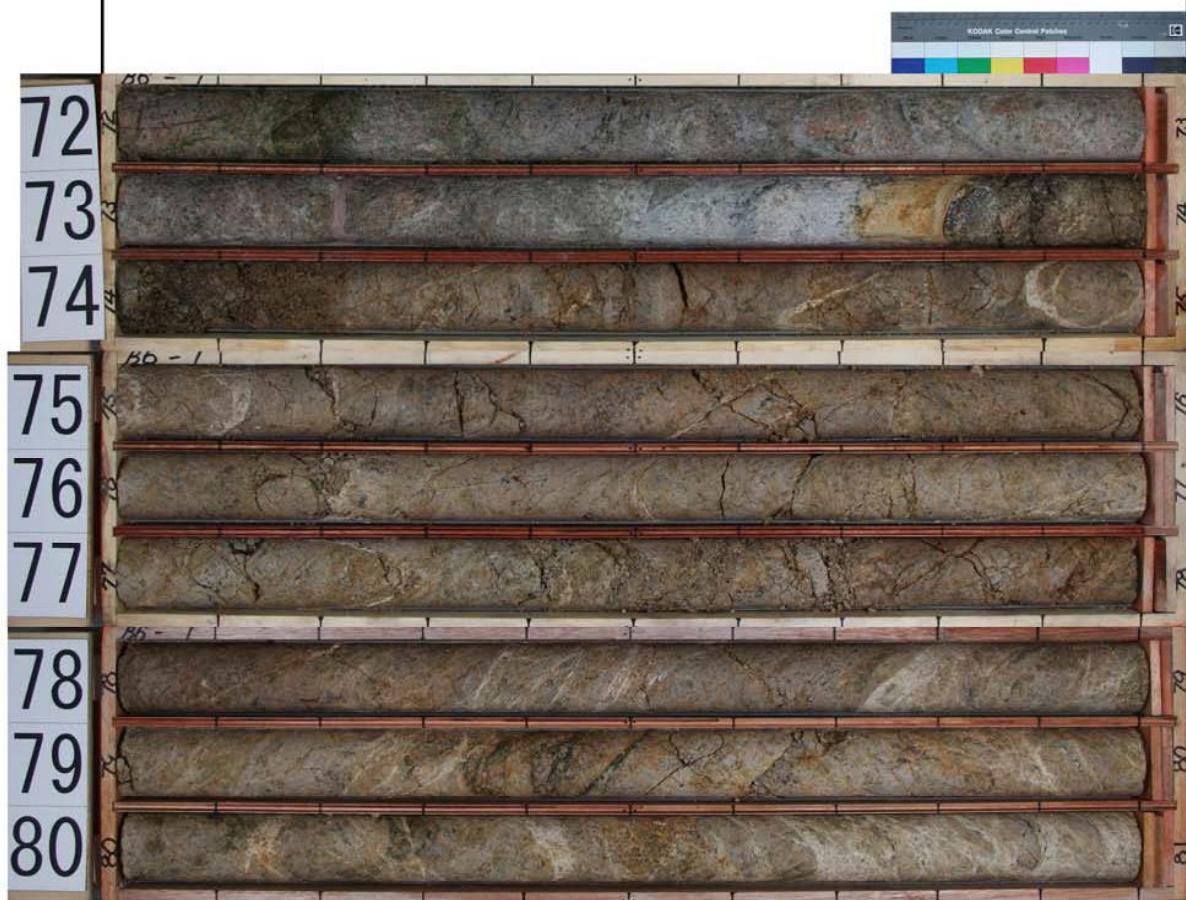
孔番 B6-1 孔

深度 54.00m ~ 72.00m



孔番 B6-1 孔

深度 72.00m ~ 81.00m



H27-F-1

## ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo. 1

事業・工事名

ボーリング名	F-1	調査位置	X : 390.450, Y : 1114.190	北緯	35° 45' 20.60"
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	2015年5月21日～2015年5月30日	東経	136° 1' 2.83"
調査業者名		主任技師	現代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	19.83 m	角度	180° 上 90° 下 40.0° 向	北 0° 270° 西 180° 南 151.3° 東	地盤勾配 鉛直 水平 0.0°
総掘削長	26.00 m	使用機種	試錐機 エンジン	ハンマー落下用具 ポンプ	

標尺	標高	深度	柱状図	岩種	色	硬	コア	割れ目	風化	変形	記	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D ← [%]	岩級	孔内水位(m) 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水位観察)	室試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm) / 孔壁保護	コアチューイング / ビット	給圧(kN) / ビット	回転数(rpm)	回転圧(MPa)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)								
															孔内水位(m) 測定月日	0	10	20	30	40	50																		
1	18.79	1.36		埋土	褐						0.00～1.36m: 埋土 細礫混じり粗粒砂からなる。																												
2				シルト混じり 粘土	灰白						1.36～3.57m: 上部はシルト混じり砂礫、下部は砂礫主体の第四系である。 3.57～5.7m: シルト混じり砂礫 径5～65mmの硬質～半クサカ化した花崗斑岩、アブライの亜角礫と径2～5mmの石英粒で礫率は40～50%である。基質はシルト混じりの中粒～粗粒砂で締まる。																												
3	17.10	3.57		シルト混じり 砂礫	灰黄 にぶい 黄緑						3.57～3.80m: 細混じり砂 礫は径2～3mmの石英粒が主体で傾斜45～50°で配列する。 3.80～5.27m: 砂礫 礫率は50～60%で、かつ未淘汰である。基質はよく締まった中～細粒砂からなる。																												
4	16.92	3.80		砂礫	黄褐						5.27～26.00m: 花崗斑岩 (8p) 5.33～12.51m: 軟質部が主体で割れ目が多い。部分的に幅1～10mmの灰白色の軟質な粘土脈が分有する。 12.06～12.46m: 倾斜20～50°の割れ目が直線的で平行に分布する。																												
5	15.79	5.27									12.51～12.73m: 破碎部 破碎幅は16.1cmである。 12.51～12.54m: 磨混じり粘土状破碎部 (Hb) にぶい岩色を呈する。軟質な粘土状部かなり、幅は3.2cmである。 上端境界の傾斜は60°である。石英粒が残存する。																												
6											12.54m: 粘土状破碎部 (Hb) にぶい岩色を呈する。軟質な粘土状部かなり、幅は10～20mmである。 12.57～12.62m: 磨混じり粘土状破碎部 (Hb) にぶい岩色の軟質な礫状部からなる。上端境界の傾斜は50°、下端境界の傾斜は40°である。 12.62～12.73m: 粘土混じり礫状破碎部 (Hb) にぶい岩色のやや軟質な礫状部からなる。下端境界の傾斜は40°である。 全体に岩片の粘土化が進む。																												
7											16.23～16.30m: 粘土混じり礫状破碎部 (Hb) にぶい岩色を呈する。下端境界の傾斜は53～70°である。 16.30～16.31m: 粘土状破碎部 (Hc-1) にぶい岩色を呈する。軟質な粘土状部かなり、幅は0.5cmである。傾斜は53～70°である。 16.31～16.33m: 磨質粘土状破碎部 (Hb) 灰白色を呈する。下端境界の傾斜は50°である。 16.33～16.65m: 粘土混じり礫状破碎部 (Hb) にぶい岩色のやや硬質な礫状部からなる。下端境界の傾斜は45°である。																												
8																																							
9																																							
10																																							
11																																							
12																																							
13																																							
14																																							
15																																							
16																																							
17																																							
18																																							
19																																							

標 尺	標 高	深 度	柱 状 圖	岩 種 区	色 硬 ア 形 割 れ 目 の 状 態 化 風 変	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D [ % ]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) /測 定 月 日	孔 内 水 位 (m) /測 定 月 日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平載荷試験)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) /孔 壁 保 護	コアチ ューブ /ビ ット	給 回 転 圧 (kN · MPa)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L /分)	排 水 量 (L /分)																
											0	50	100	0	10	20	30	40	50																						
21	26.00	-0.09	花崗斑岩	灰黃褐色 明褐色 にぶい橙 明褐色 明黃褐色	δ γ Eg vrg dg δ 3	<p>●20.29~20.88m: 破碎部 20.29~20.31m: 粘土混じり礫状破碎部 (Hj)</p> <p>上端はシーブで直線的で17°、下端は溝曲~波打って30~45°で連続。土砂並びに粘土化し著しく軟化。白色粘土脈が多く分布。上端のせん断面はゆる割れ目で風化割れ目を切っている (変位量不明)。にぶい黄褐色を呈する。幅15~30mm。</p> <p>20.31~20.34m: 破碎じり粘土状破碎部 (Hc-2)</p> <p>上端は溝曲~波打って30~45°、下端は波打って45°で連続。径2~3mmの石英粒を10%程度含む。一部で風化により褐色化する。灰白色~黄褐色を呈する。幅20~25mm。</p> <p>20.34~20.35m: 粘土状破碎部 (Hc-1)</p> <p>上端は波打って45°、下端は45°で直線的で連続。石英粒、岩片はほとんど含まれない。にぶい黄褐色を呈する。幅2mm。</p> <p>20.35~20.89m: 粘土混じり礫状破碎部 (Hj)</p> <p>上端45°、下端65°でいずれも直線的に連続。径5~10mmの粘土化した花崗斑岩片と幅1~5mmの白色の軟質な粘土~レンズ状の粘土が割れる。岩縫縫は残存するが、割れ目は消滅するものが多い。灰~にぶい黄褐色を呈する。</p> <p>20.89m: 粘土状破碎部 (Hc-1)</p> <p>上端65°、下端68°でいずれも直線的に連続。径1~2mm石英粒を2~3%とわずかに含む。灰白色を呈する。幅1~7mm。</p> <p>●21.20~22.99m: 破碎部 21.20~22.92m: 粘土混じり礫状破碎部 (Hj)</p> <p>明褐色~にぶい橙色を呈する。全体にやや軟質で硬質、上端50°でやや不明瞭、下端68°で明瞭。21.20~22.35m間は、幅30mm以下の岩片とその間を充填する灰白色~赤灰色粘土からなり、マンガン汚染を伴う。一部に引きずり構造やせん断面が見られる。22.06mには傾斜80°で幅1~2mmのにぶい橙色粘土を不連続に伴い、その周辺は灰白色粘土化が著しい。22.35~22.72m間は灰白色粘土を伴う微細な割れ目が発達しているが、原岩組織は残る。</p> <p>上端には傾斜50~60°で溝曲した幅1~2mmのにぶい橙色の軟質な粘土を伴う。22.72~22.92m間は全体に変質し、灰白色~赤灰色粘土が網目状に分布する。</p> <p>22.92~22.93m: 硫質粘土状破碎部 (Hb)</p> <p>明褐色のやや軟質な硫質粘土状部からなる。下端境界の傾斜は68°である。</p> <p>22.93m: 粘土状破碎部 (Hc-1)</p> <p>にぶい黄褐色を呈する。軟質な粘土状部からなり、幅は0.5cmである。下端境界の傾斜は68°である。</p> <p>22.93~22.99m: 粘土混じり礫状破碎部 (Hj)</p> <p>明褐色のやや軟質な礫状部からなる。下端境界の傾斜は57°である。</p> <p>●24.95~25.79m: 破碎部 24.95~25.08m: 粘土混じり礫状破碎部 (Hj)</p> <p>にぶい黄褐色のやや軟質な礫状部からなる。上端境界の傾斜は58°である。</p> <p>25.08m: 硫質粘土状破碎部 (Hb)</p> <p>灰白色を呈する。軟質な粘土状部からなり、幅は0.6cmである。傾斜は58°である。</p> <p>25.08~25.45m: 粘土混じり礫状破碎部 (Hj)</p> <p>明褐色の硬質な礫状部からなる。下端境界の傾斜は34°である。</p> <p>25.45m: 粘土状破碎部 (Hc-1)</p> <p>にぶい黄褐色を呈する。軟質な粘土で、幅は0.6cmである。下端境界の傾斜は30°である。</p> <p>25.45~25.50m: 硫質粘土状破碎部 (Hb)</p> <p>上端34°、下端41°で波打って連続する。幅60mm。にぶい黄褐色~にぶい褐色。</p> <p>25.50~25.78m: 粘土混じり礫状破碎部 (Hj)</p> <p>上端41°、下端68°で波打つ。岩片を主体とし、岩片間に幅1~2mmの白色粘土を伴う。</p>																																			

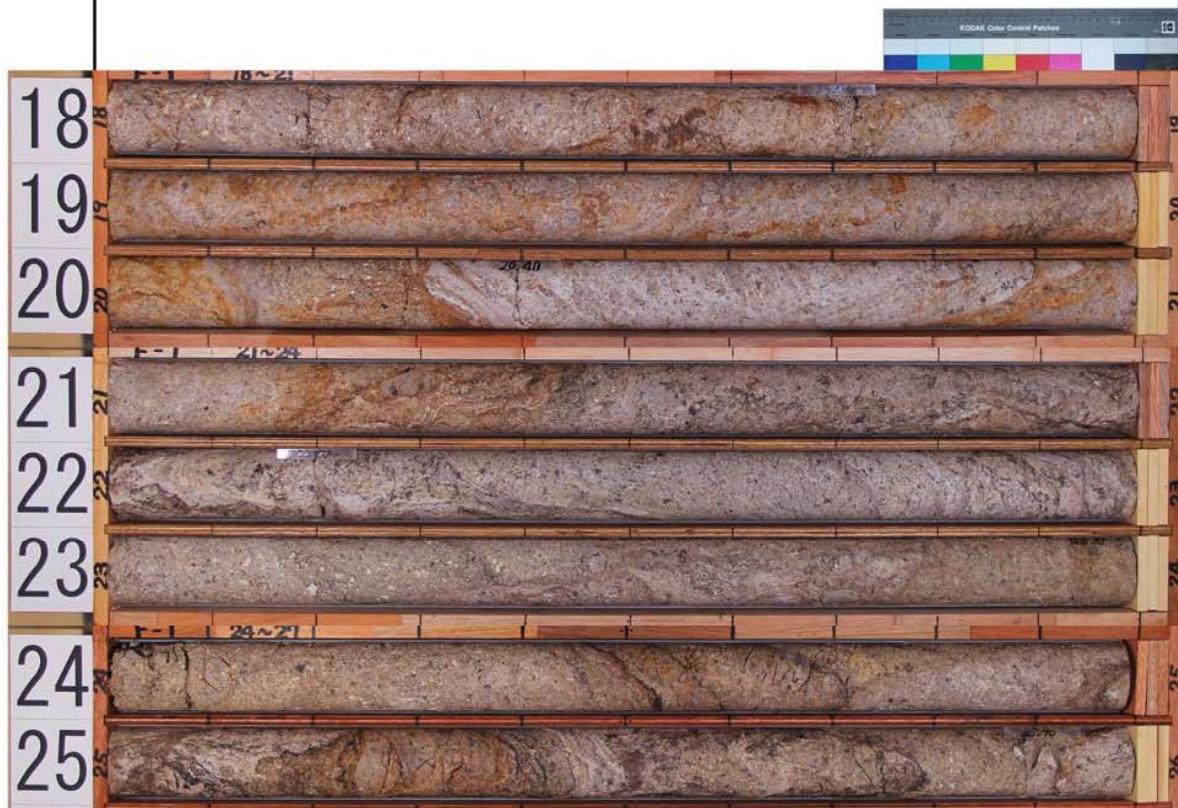
孔番：F-1

深度 0.00m~18.00m



孔番：F-1

深度 18.00m ~ 26.00m



H24-B'-1

## ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo. 1

事業・工事名

ボーリング名	B'-1	調査位置	X:392.852, Y:1116.097	北緯	35° 45' 20.69"
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	2013年1月9日～2013年1月25日	東経	136° 1' 2.86"
調査業者名		主任技師	現場理人	コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	19.89 m	角度	180° 上 90° 下 0° 45.0° 向	地盤勾配	鉛直 水平 0.0°
総掘削長	25.00 m	機種	試錐機 エンジン	ハンマー落下用具	ポンブ

標尺	標高	深度	柱状図	岩種	色	硬	コア	割れ目	風化	変形	記	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D → [%]	岩級	孔内水位(m) → N 測定月日 → 分	(標準貫入)試験 (N値～深度)図					原位置試験 (孔内水位観察)	室試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護 コアチューブ/ビット	給圧(kN/MPa)	回転数(rpm)	送水圧(L/分)	送水量(L/分)	排水量(L/分)											
															0	10	20	30	40	50																				
1				埋土	にぶい黄						0.00～2.48m: 埋土及び構造物 0.00～2.05m: 細粒混じりシルト質 埋土。砂は細～中砂。径2～10mmの 細礫は多様。礫種は多様。 2.05～2.28m: コンクリート(擁壁 ) 2.28～2.48m: 砂石 径1～30mm。最大径180mmの安山岩 の岩片からなる。 2.48～2.43m: 砂礫(③層) 礫は径1～30mm。最大径200mmの垂 角～垂円礫。基質は細～粗砂。礫率 60%。																													
2	18.14	2.48			改黑						3.43～25.00m: 花崗斑岩(6p) 斑岩は径2～5mmの石英、長石。 3.43～4.81m: 風化部で土砂、岩片 状を呈する。岩組織は一部残留し、 褐色化した割れ目が残存する。 4.81～7.50m: 黄褐色～より土砂状に 崩壊することが多い。傾斜10～40° と傾斜50～70°の割れ目が多く認めら れる。 ●7.50～10.93m: 破碎部(ク断層) 7.50～7.90m: 粘土混じり礫状破碎 部(Hj) 上端傾斜不明。下端45°。径2～20mm の岩片が多い。岩組織はほぼ消滅 している。岩片間を縫うように幅1 ～3mmの白色粘土脈が分布する。7. 70m以深ではマントン鉛色が著しい 明黄褐色～黒褐色を呈する。幅28 cm。	Eg	Vg	Dg				3																						
3	17.46	3.43		砂礫	明福灰						7.90～7.91m: 粘土状破碎部(Hc-1 上端45°、下端45°。径1mm前後の石 英粒が点在する。にぶい黄褐色を 呈する。幅6～10mm。 7.91～9.48m: 粘土混じり礫状破碎 部(Hj) 上端45°、下端71°。径10～20mmの 岩片主体で、岩組織はほぼ消滅し ている。岩片間を縫うように白色 ～淡褐色～暗褐色の粘土脈が幅1～ 3mmで分布する。8.46m～58°の消滅 しかかっている褐色風化割れ目が 残留し、割れ目周辺の～3cm間に 径0.5mmの微小な鉛鉱脈が晶出して いる。9.30m以深に、径1～5mmのマ ンガナ粒が点在する。浅黄褐色～明 黄褐色～にぶい黄褐色を呈する。幅5 ～110cm。 9.48～9.58m: 砕混じり粘土状破碎 部(Hc-2) 上端70°、下端60°。白～淡黃褐色 軟弱粘土と、岩組織が消滅した径5 ～10mmの花崗斑岩岩片が2%程度含む 。岩片は軟化し軟質。上端幅10mm ～で風化により褐色化する。浅 黄褐色を呈する。幅35～80mm。 9.58～10.93m: 粘土混じり礫状破碎 部(Hj) 上端60°、下端70°。10.36～10.3 8mスライム(コアの供回りによる もの)。10.43～10.61mに岩組織明 瞭で割れ目も残留する花崗斑岩が 中石として分布する以外は、(ほ ぼ)岩組織と割れ目が消滅した岩片と 岩片間の粘土化部からなる。10.61 m以深では、60°前後の風化褐色割 れ目の一帯が残留している。10.93 m、幅1～2mmで70°でやや波打つ褐 色粘土が分布する(コアと区間に 連続しない)。にぶい黄褐色～明黄 褐色を呈する。幅51～67cm。 10.93～11.93m: 傾斜10～40°の割 れ目主体で、白色粘土を伴う。	Eg	Vg	Dg	Vg	Dg																								
4				花崗斑岩	明黄褐色						11.93～12.55m: 粘土状破碎部(Hc-1 上端45°、下端45°。径1mm前後の石 英粒が点在する。にぶい黄褐色を 呈する。幅6～10mm。 12.55～10.36m: 粘土状破碎部(Hc-2 上端45°、下端45°。径1mm前後の石 英粒が点在する。にぶい黄褐色を 呈する。幅6～10mm。 コア欠缺	Eg	Vg	Dg	Vg	Dg																								
5					花崗斑岩	明黄褐色					10.36～12.55m: 粘土状破碎部(Hc-1 上端45°、下端45°。径1mm前後の石 英粒が点在する。にぶい黄褐色を 呈する。幅6～10mm。 12.55～10.36m: 粘土状破碎部(Hc-2 上端45°、下端45°。径1mm前後の石 英粒が点在する。にぶい黄褐色を 呈する。幅6～10mm。 コア欠缺	Eg	Vg	Dg	Vg	Dg																								
6					花崗斑岩	にぶい黄褐色					10.36～12.55m: 粘土状破碎部(Hc-1 上端45°、下端45°。径1mm前後の石 英粒が点在する。にぶい黄褐色を 呈する。幅6～10mm。 12.55～10.36m: 粘土状破碎部(Hc-2 上端45°、下端45°。径1mm前後の石 英粒が点在する。にぶい黄褐色を 呈する。幅6～10mm。 コア欠缺	Eg	Vg	Dg	Vg	Dg																								
7					花崗斑岩	明黄褐色					10.36～12.55m: 粘土状破碎部(Hc-1 上端45°、下端45°。径1mm前後の石 英粒が点在する。にぶい黄褐色を 呈する。幅6～10mm。 12.55～10.36m: 粘土状破碎部(Hc-2 上端45°、下端45°。径1mm前後の石 英粒が点在する。にぶい黄褐色を 呈する。幅6～10mm。 コア欠缺	Eg	Vg	Dg	Vg	Dg																								
8					花崗斑岩	浅黄褐色					10.36～12.55m: 粘土状破碎部(Hc-1 上端45°、下端45°。径1mm前後の石 英粒が点在する。にぶい黄褐色を 呈する。幅6～10mm。 12.55～10.36m: 粘土状破碎部(Hc-2 上端45°、下端45°。径1mm前後の石 英粒が点在する。にぶい黄褐色を 呈する。幅6～10mm。 コア欠缺	Eg	Vg	Dg	Vg	Dg																								
9					花崗斑岩	にぶい黄褐色					10.36～12.55m: 粘土状破碎部(Hc-1 上端45°、下端45°。径1mm前後の石 英粒が点在する。にぶい黄褐色を 呈する。幅6～10mm。 12.55～10.36m: 粘土状破碎部(Hc-2 上端45°、下端45°。径1mm前後の石 英粒が点在する。にぶい黄褐色を 呈する。幅6～10mm。 コア欠缺	Eg	Vg	Dg	Vg	Dg																								
10	12.55	10.36			花崗斑岩	明黄褐色					10.36～12.55m: 粘土状破碎部(Hc-1 上端45°、下端45°。径1mm前後の石 英粒が点在する。にぶい黄褐色を 呈する。幅6～10mm。 12.55～10.36m: 粘土状破碎部(Hc-2 上端45°、下端45°。径1mm前後の石 英粒が点在する。にぶい黄褐色を 呈する。幅6～10mm。 コア欠缺	Eg	Vg	Dg	Vg	Dg																								
11					花崗斑岩	明黄褐色					10.36～12.55m: 粘土状破碎部(Hc-1 上端45°、下端45°。径1mm前後の石 英粒が点在する。にぶい黄褐色を 呈する。幅6～10mm。 12.55～10.36m: 粘土状破碎部(Hc-2 上端45°、下端45°。径1mm前後の石 英粒が点在する。にぶい黄褐色を 呈する。幅6～10mm。 コア欠缺	Eg	Vg	Dg	Vg	Dg																								

標 尺	標 高	深 度	柱 状 圖	岩 種 区 分	色	硬 ア 形	コ 割 れ 目 の 状 態	風 変 化 質	記 事	コア採取率 → (%)	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) /測 定 月 日	孔 内 水 位 (m) /測 定 月 日	(標準貫入) 試験 (N値～深度) 図					原位置試験 (孔内水平載荷)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) /孔 壁 保 護	コアチ ューブ /ビ ット	給 回 転 数 (rpm)	送 水 压 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)	
														→ cm	R Q D	→ [%]	0 10 20 30 40 50												
13																													
14																													
15																													
16																													
17																													
18																													
19																													
20																													
21																													
22																													
23																													
24																													
2.21	25.00																												

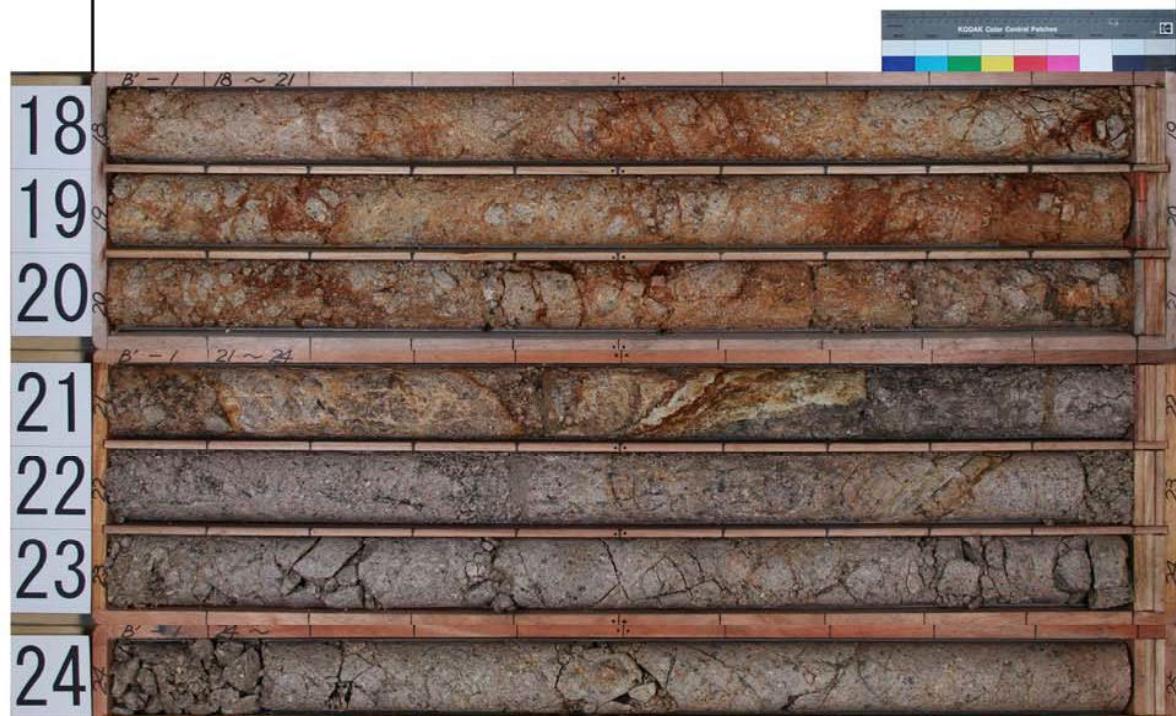
孔番 B' -1 孔

深度 0.00m~18.00m



孔番 B' -1 孔

深度 18.00m ~ 25.00m



H24-B'-2

## ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo. 1

事業・工事名

ボーリング名	B'-2			調査位置	X:392.142, Y:1116.097						北緯	35° 45' 20.68"	
発注機関	日本原子力発電株式会社						調査期間	2013年1月31日～2013年3月7日					
調査業者名	主任技師						現場人	コ	鑑定者	ボーリング責任者			
孔口標高	19.87 m	角度	180° 上 下 0° 20.0°	方北 0° 270° 西 180° 南 53.0°	地盤勾配 鉛直 0.0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具					
総掘削長	27.00 m					エンジン		ポンブ					

標尺	標高	深度	柱状図	岩種	色	硬	コア	割れ目	風	変	記	(標準貫入) 試験												
												岩級	孔内水位(m)	孔内水位(m)	孔内水位(m)	孔内水位(m)								
(m)	(m)	(m)	図分	調	軟	状	形	化	質	事	孔内水位(m)	孔内水位(m)	孔内水位(m)	孔内水位(m)	孔内水位(m)	孔内水位(m)								
1											0.00~2.46m: 埋土 0.00~1.50m: 砂礫 最大径10mm程度の砂礫。													
2	17.56	2.46		埋土	オリーブ	褐	ア	形	割れ目	風	2.46~3.49m: 砂礫 (3層) 礫は径10mm程度以下の中粒斑岩の 礫主体。基質はシルト質砂。													
3	16.59	3.49		砂礫	褐灰	赤褐	ア	形	割れ目	風	3.49~7.00m: 埋土 7.00~7.50m: 砂礫 7.50~8.25m: 砂礫 8.25~8.50m: 砂礫 8.50~9.00m: 砂礫 9.00~9.35m: 砂礫 9.35~9.60m: 砂礫													
4											3.49~27.00m: 花崗斑岩 (3p) 3.49~5.70m: 色が著しく、軟質 となる。 5.03m: 傾斜50°の割れ目沿いに砂 化する。 5.9m: 褐色砂部を挟む。傾斜25° 、幅5~6mm。 5.91~5.93m: 空隙に流入粘土を挟 む。 6.40~6.55m: 傾斜30~45°の割 れ目が密集する。 7.68~9.35m: 割れ目沿いの褐色化 が著しく、斜長石は淡黄色を呈す る。 8.23~8.25m: 幅10~15mmで砂化す る。傾斜65°の割れ目に灰白色粘 土を挟む。幅2~5mm、周縁幅2~3c m間は緑色化する。 9.35~9.60m: 砂巖													
5											●10.49~11.37m: 破碎部 粘土混じり岩片状破碎部 (Hj) 上端50°、下端55°、浅黄色を呈 する繊維シルト状部と、灰、紫、赤 褐色を呈するシルト混じり岩状部 からなる。 10.69m: 粘土状破碎部 (Hc-1) 傾斜25°、幅5mm。灰赤色粘土。や や凹凸がある直線的。 12.20~12.42m: 割れ目が密集。 12.32m: 深は珪化変質し雲母が晶 出。岩片間に粘土が充填する。													
6											●12.42~13.27m: 粘土状破碎部 (Hc-1) 傾斜52°。灰白色を呈する。幅1~5mm。 12.43~12.68m: 硫質粘土状破碎部 (Hb) 上端・下端は52°でほぼ直線的シ ヤーープ連続。白色の幅1~5mmの 粘土脈が分布。兩粘土脈に囲まれ て径10mm前後の粘土化した岩片と 網状の粘土脈が発達し全体として やや軟質である。珪化変質し、黄 鉄鉱が晶出。風化による赤褐色 を含む繊維灰色を呈する。幅10cm。													
7											12.68~13.27m: 粘土混じり岩状破 碎部 (Hj) 上端52°、下端30°で上端は直線的 に、下端はやや不明瞭に連続。割 れ目や岩縫はほぼ消滅している。 変質で全体が軟質化著しくなって いる。明褐色を呈する。													
8											15.63~18.39m: 全体に軟質となる。 割れ目は不明瞭なものが多く、部 分的に土砂状～角礫状を呈する。													
9																								
10																								
11																								
12																								
13																								
14																								
15																								
16																								
17																								



孔番 B' -2 孔

深度 0.00m~18.00m



孔番 B' -2 孔

深度 18.00m ~ 27.00m



H24-H-2

## ボーリング柱状図

### 調查名

ボーリングNo. 1

### 事業・工事名

ボーリング名	H-2	調査位置	X:400.784, Y:1115.376					北緯	35° 45' 20.83"	
発注機関	日本原子力発電株式会社					調査期間	2013年2月17日～2013年2月19日		東経	136° 1' 3.13"
調査業者名				主任技師			現代場人	コ鑑定ア	ボーリング責任者	
孔口標高	23.00 m	角度	180° 上 下	90° 0° 270° 西	北 0° 90° 東 220° 南 180° 西	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90° 0° 0°	試錐機	ハンマー 落下用具	
総掘削長	10.00 m	方向						エンジン	ポンプ	

孔番 H-2 孔

深度 0.00m ~ 10.00m



H24-B'-7

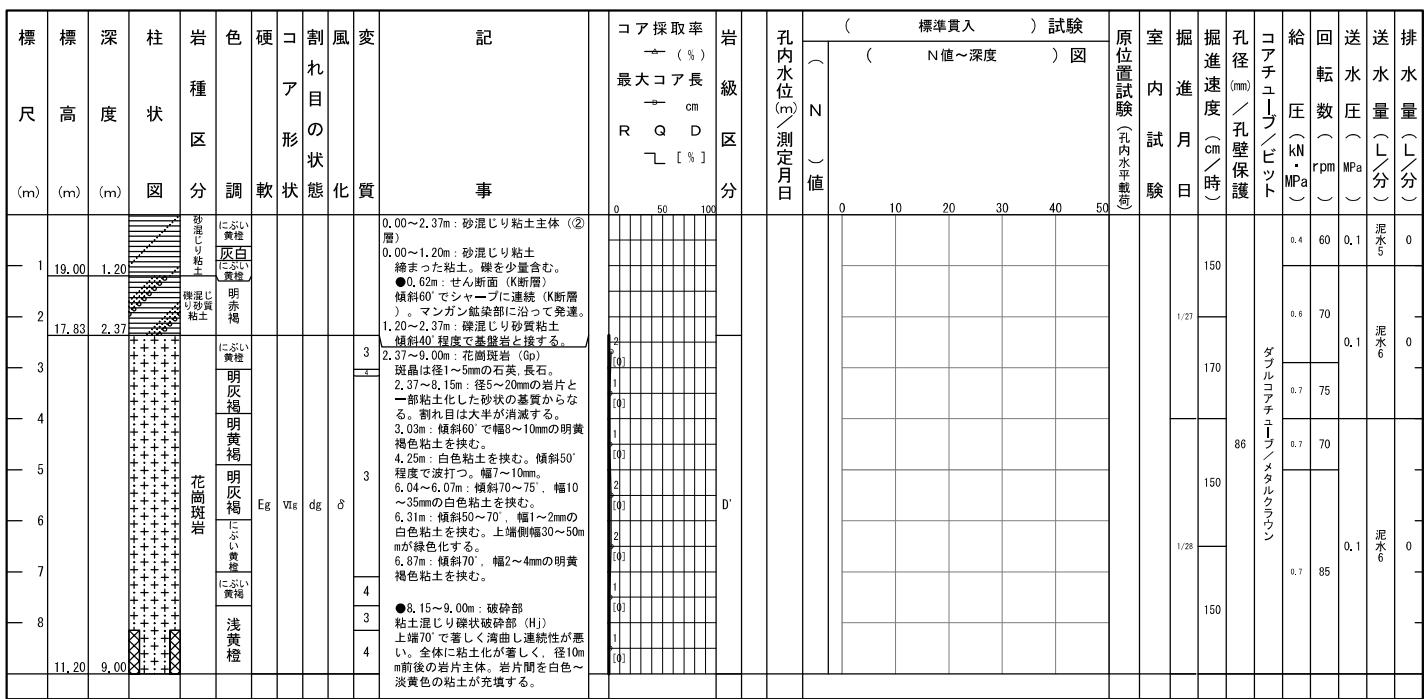
## ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo. 1

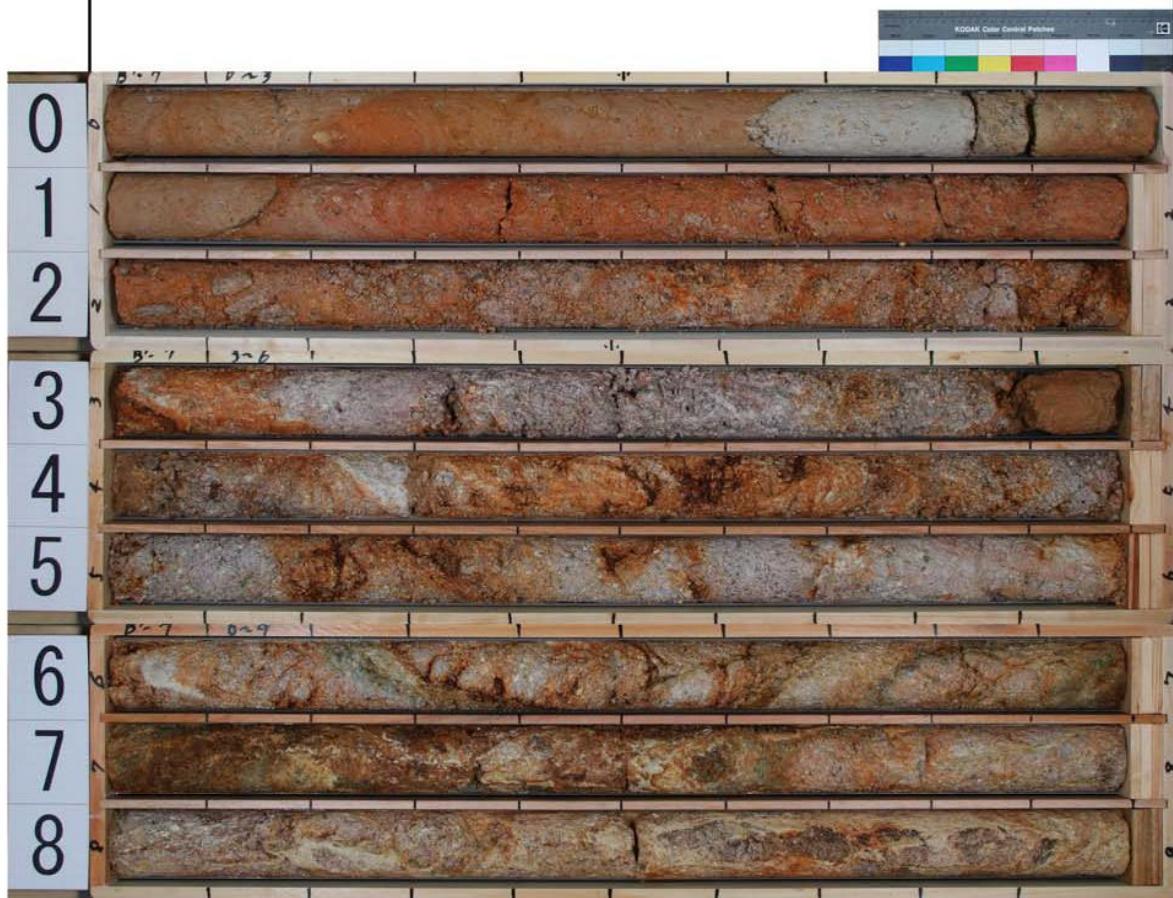
事業・工事名

ボーリング名	B'-7			調査位置	X:401.266, Y:1112.572						北緯	35° 45' 20.76"		
発注機関	日本原子力発電株式会社						調査期間	2013年1月27日～2013年1月31日			東経	136° 1' 3.22"		
調査業者名				主任技師				現代理人	場人	コア鑑定者				
孔口標高	20.20 m	角度	180° 上 90° 下 0°	方北 270° 西 180° 南 0° 東	地盤勾配 鉛直 90°	水平 0°	使用機種	試錐機				ハンマー落下用具		
総掘削長	9.00 m						エンジン					ポンブ		



孔番 B' -7 孔

深度 0.00m ~ 9.00m



H24-B'-3

## ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo. 1

事業・工事名

ボーリング名	B'-3			調査位置	X:392.852, Y:1112.000						北緯	35° 45' 20.59"
発注機関	日本原子力発電株式会社						調査期間		2013年1月14日～2013年1月26日		東経	136° 1' 2.96"
調査業者名				主任技師			現場人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	19.88 m	角度	180° 上 90° 下 0° 45.0°	方北 0° 270° 西 180° 南 53.0°	地盤勾配 鉛直 90° 0.0°	使用機種 試錐機 エンジン	ハンマー落下用具		ポンブ			
総掘削長	25.00 m											

標尺	標高	深度	柱状図	岩種	色	硬	コア	割れ目	風化	変形	記	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水位観察)	室内試験	掘進月	掘進速度 (cm/時)	孔径(mm) 孔壁保護 コアチュー ブ/ビット	給圧(kN MPa)	回転数 (rpm)	回転圧 (MPa)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
												岩級	孔内水位(m) (N値～深度)	測定月日	分	孔内水位(m) (N値)	0	10	20	30	40	50											
1				埋土	にぶい黄褐						0.00～2.76m: 埋土 0.00～1.70m: 砂混じり粗砂 碎石やコンクリート片を含む。																						
2				褐灰							1.70～2.23m: コンクリート																						
3	17.93	2.76		砂礫	にぶい 黄						2.23～2.76m: 砂石																						
4	17.76	3.00		砂礫	にぶい 黄						2.76～4.29m: 砂疊 (3層) 疊は径10～100mmの半クサリ状～硬質な花崗岩の亜角～亜円疊。基質はよく練まつた粗砂。 3.00～3.14m: コア欠如 3.55～4.00m: コア欠如																						
5	17.66	3.14		砂礫	にぶい 黄						4.29～27.00m: 花崗岩 (6p) 斑晶は径1～4mmの石英粒、長石。 4.29～4.80m: 圓化・変質で軟化し、コアは土状剖面を呈する。 ●4.80～4.90m: 破碎部 (Hc-1) 上端60°、下端54°で両端とも波打つ。幅20～25mm。明黄色～灰白色。 4.84～4.90m: 砂質粘土状破碎部 (Hb)																						
6				花崗斑岩	橙						下端44°で波打つ。幅35～40mm。 7.00～7.37m: 割れ目に沿って幅2～3mmの白色粘土を挟む。 ●7.37～7.70m: 破碎部 (K断層) 7.37～7.57m: 粘土混じり疊状破碎部 (Hj)																						
7				花崗斑岩	灰褐		Eg	Vg	cg	δ	上端60°、下端54°で両端とも波打つ。幅20～25mm。明黄色～灰白色。 ●7.37～7.70m: 破碎部 (K断層) 7.37～7.57m: 粘土混じり疊状破碎部 (Hj)																						
8				花崗斑岩	橙		Eg	Vg	cg	δ	上端44°で波打つ。幅35～40mm。 7.00～7.37m: 割れ目に沿って幅2～3mmの白色粘土を挟む。 ●7.37～7.70m: 破碎部 (K断層) 7.37～7.57m: 粘土混じり疊状破碎部 (Hj)																						
9				花崗斑岩	橙		Dg	Vg	cg	δ	上端58°、下端10°～15°で両境界とも波打つように連続し、シーパーな直線性はない。50～70°の割れ目の一部が残留し、厚さ1mm程度の白色粘土を挟むことがある。7.54mに55°のせん断割れ目が分布する。明黄色を呈する。幅約16～17cm。 7.57～7.61m: 砂質粘土状破碎部 (Hb)																						
10				花崗斑岩	橙		Eg	Vg	cg	δ	上端10°～15°、下端0°でいずれも波打つ。径1～3mmの石英粒、長さ10～20mm。幅5mmの粘土化した花崗斑岩片を少量含む。にぶい黄橙色を呈する。 7.61～7.62m: 粘土状破碎部 (Hc-1) 上端0°、下端5°でいずれも波打つ。にぶい黄橙色を呈する。幅10mm程度。 7.62～7.66m: 砂質粘土状破碎部 (Hb) 上端5°、下端20°。上端は波打つが、下端は直線的。径1～3mmの石英粒、長さ10～20mm。幅5mmの粘土化した花崗斑岩片を少量含む。にぶい黄橙色を呈する。 7.66～7.70m: 粘土混じり疊状破碎部 (Hj) 上端20°、下端65°で両端とも直線的でシーパーな境界。岩組織はほとんど消滅し、厚さ0.5mmの白色粘土が網状に分布する。橙色を呈する。幅20～100mm。7.70mに幅1mm以下の細粒部を挟む。灰黄色を呈する。 9.78～10.68m: 軟化し砂状を呈する。割れ目に幅1～2mmの白色粘土を挟む。 ●10.68～11.02m: 破碎部 10.68～10.93m: 砂質粘土状破碎部 (Hb) 下端境界は不明瞭。 10.68m: 粘土脈を挟む。 上下端52°でほぼ直線的。幅3～6mm。灰～白色。 10.93～11.02m: 粘土混じり砂状破碎部 (Hb) 下端30°で直線的。																						

標 尺	標 高	深 度	柱 状 圖	岩 種 区 分	色	硬 ア 形 割 れ 目 の 状 態	風 変 化 質	記 事	コア採取率 → (%)	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) /測 定 月 日	N ( ) 値	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平載荷)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) /孔 壁 保 護	コアチ ューブ → (kN · MPa)	給 回 転 数 (rpm)	送 水 压 (MPa)	送 水 量 (L/min)	排 水 量 (L/min)		
													0	10	20	30	40												
12																													
13																													
14																													
15																													
16	8.21	16.50																											
17	7.63	17.32																											
18																													
19																													
20																													
21																													
22																													
23																													
24																													
2.20	25.00																												

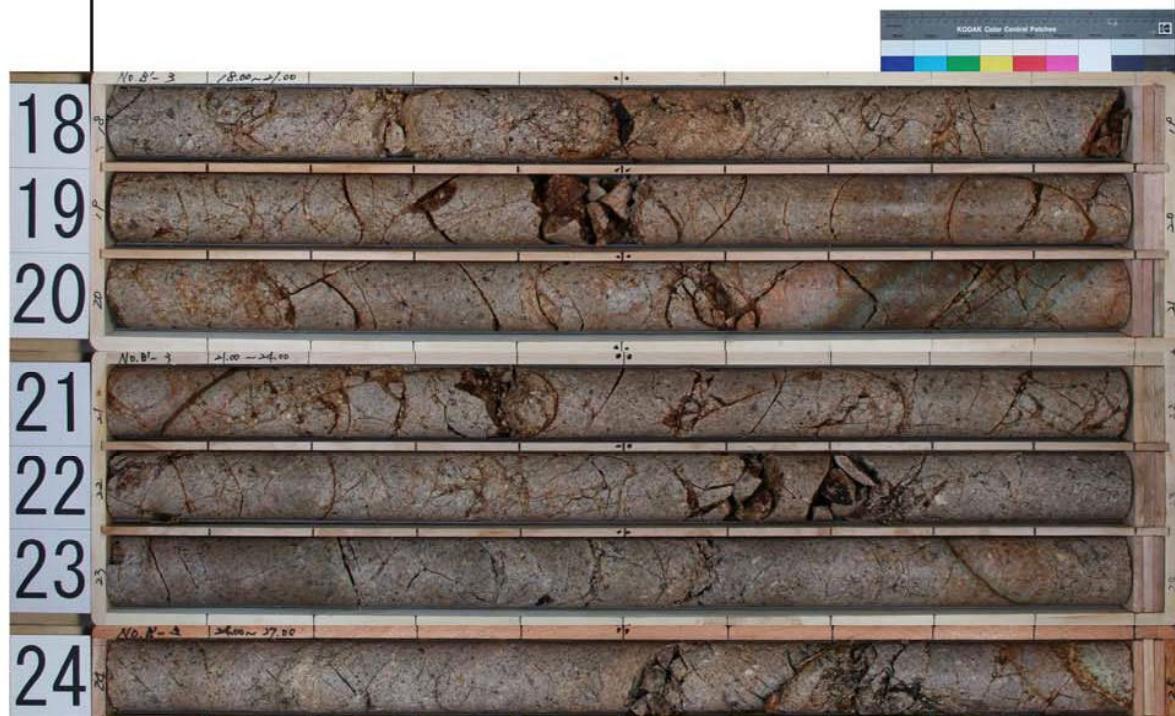
孔番 B' -3 孔

深度 0.00m ~ 18.00m



孔番 B' -3 孔

深度 18.00m ~ 25.00m



H24-H-6-1

## ボーリング柱状図

### 調查名

ボーリングNo. 1

### 事業・工事名

孔番 H-6-1 孔

深度 9.00m ~ 15.00m



0~9mノンコア



H24-H-3

## ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo. 1

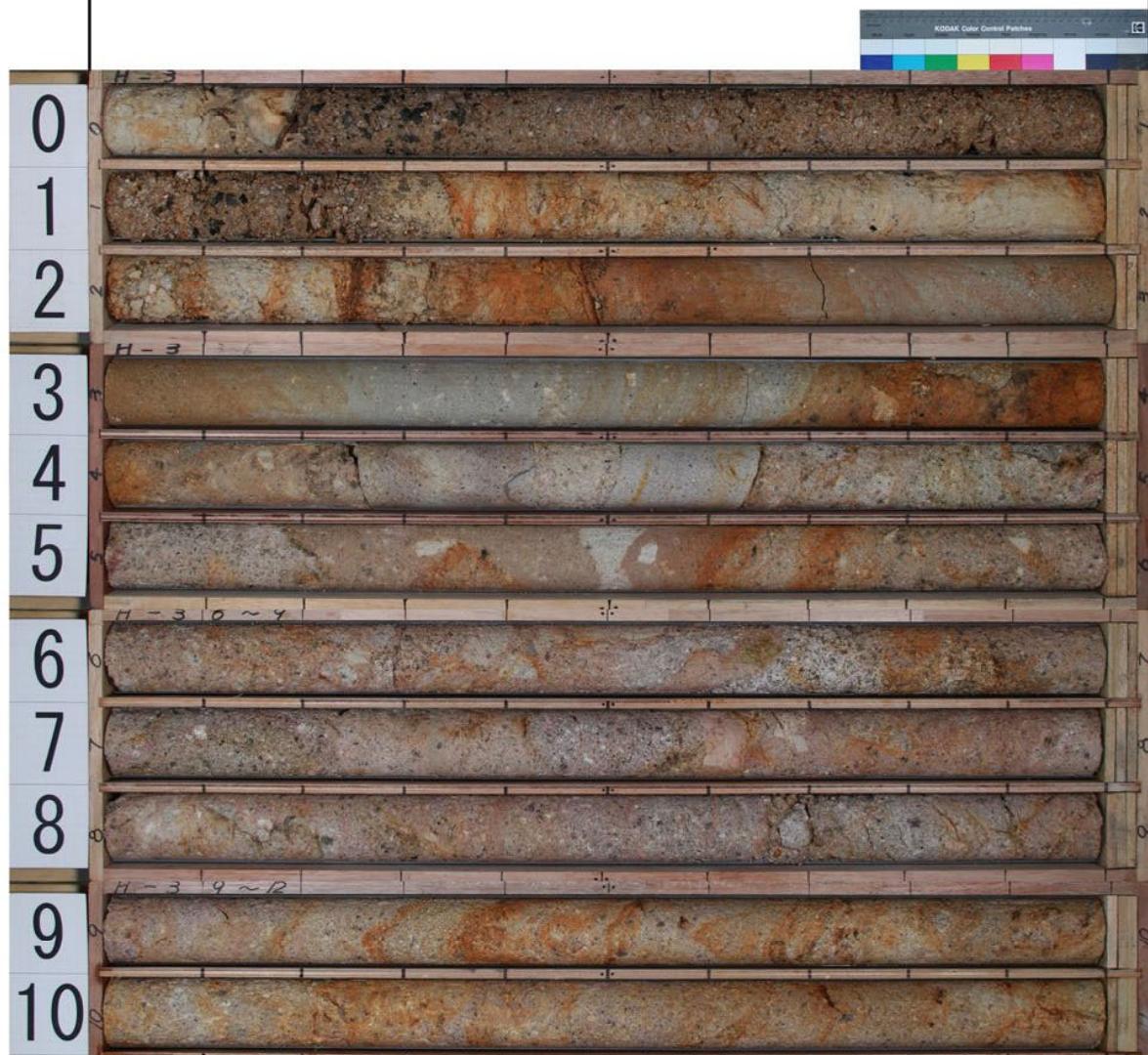
事業・工事名

ボーリング名	H-3	調査位置	X:400.670, Y:1106.919	北緯	35° 45' 20.61"
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	2013年2月21日～2013年2月23日	東経	136° 1' 3.33"
調査業者名		現地理人		コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	22.97 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.0°	方北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配 水平鉛直 0.0°
総掘削長	11.00 m	使用機種	試錐機 エンジン	ハンマー落下用具	ポンブ

標尺	標高	深度	柱状図	岩種	色	硬	コア	割れ目	風化	変形	記	コア採取率 → (%)	岩級	孔内水位 (m) N	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水位載荷)	室試験	掘進月	掘進速度 (cm/時)	孔径(mm) 孔壁保護	コアチュー ブ/ビット	給圧 (kN·MPa)	回転数 (rpm)	回転圧 (MPa)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
															0	10	20	30	40	50																	
1	21.70	1.27	埋土	淡黄 にぶい黄							0.00～1.27m: 埋土 0.00～2.0m: 砂 0.20～1.27m: 砂礫 礫は径5～20mm。基質は中～粗砂。																										
2	20.49	2.48	礫混じり砂	淡黄 明褐色 にぶい							1.27～2.48m: 磨混じり砂(3段) 砂は細～粗砂で不均質。花崗斑岩のクサリ礫が混じる。 1.77～1.98m: シルト～細砂が優勢																										
3	19.27	3.70	シルト質砂	灰白 明褐色 にぶい							2.48～7.95m: シルト質砂及び玉石混じり砂(2段) 2.48～3.70m: シルト質砂 基質は砂を主体とし、シルト分が混じる。 径2～4mmの細礫が混じる。 2.48～2.75m 粘土分を多く含む。 3.24～3.70m 径5～20mmの岩片と石英が混じる。																										
4			玉	灰白 明褐色 にぶい							3.70～7.95m: 玉石混じり砂 礫は径2～5mmの石英を主とする細礫。 径10～40mmの花崗斑岩で亜角礫が多い。 最大径150mm程度の玉石が混じる。 礫は半クサリ～クサリ礫。 ●5.39m: セン断面 (K断層) 傾斜50°。酸化帯を切る。																										
5																																					
6																																					
7																																					
8	15.02	7.95	花崗斑岩	灰褐 にぶい	Eg	Vg	Dg			γ	7.95～11.00m: 花崗斑岩(Gp) 風化・変質による着盤劣化部で一部硬質部や板状の岩片を残す。灰白色の変質粘土脈や一部の割れ目ついで淡褐色の粘土を不規則に伴う。 9.12m以深: 酸化汚染を強く受け、縞状の酸化帯がみられる。							0	0	D'																	
9					Eg	Vg	Dg			3					0	0	CL'																				
10					Eg	Vg	Dg			δ					0	0	D'																				
	11.97	11.00			Dg	Vg	Cg									0	0	CL'																			

孔番 H-3 孔

深度 0.00m ~ 11.00m



H24-H-4

## ボーリング柱状図

### 調查名

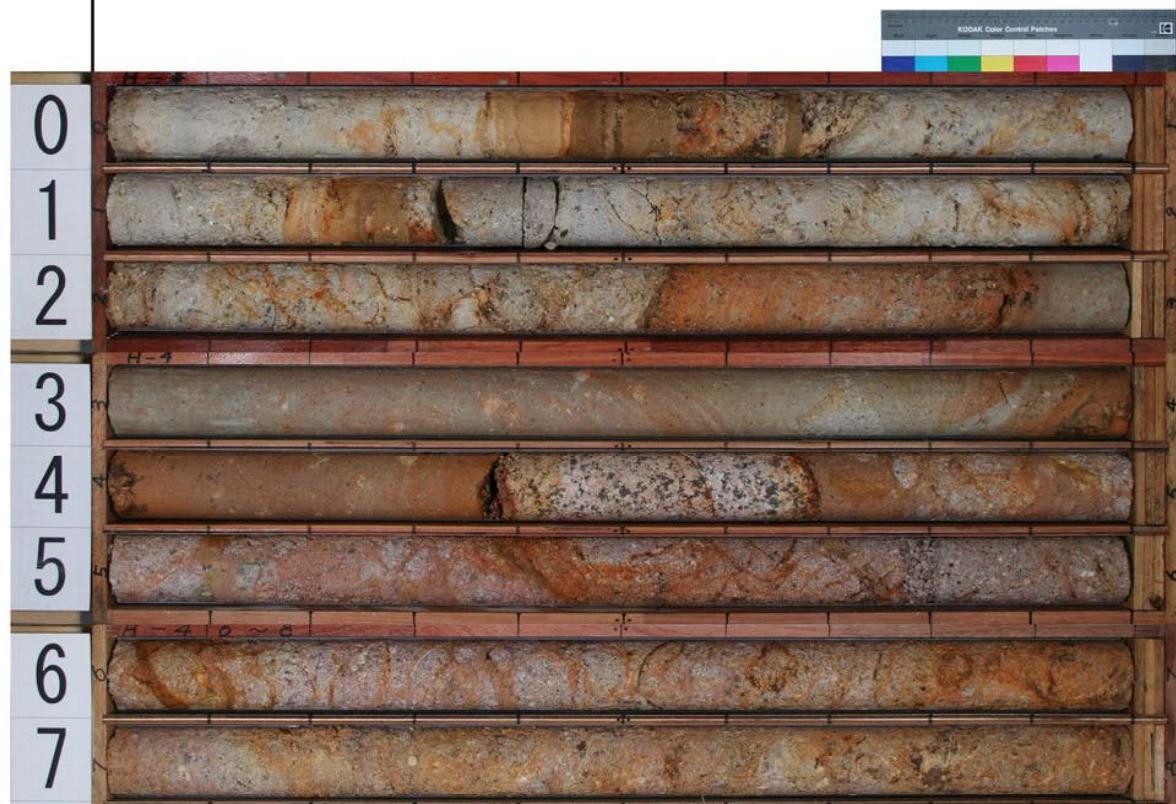
ボーリングNo. 1

### 事業・工事名

ボーリング名	H-4	調査位置	X:401.835, Y:1106.919						北緯	35° 45' 20.63"	
発注機関	日本原子力発電株式会社						調査期間	2013年2月20日～2013年2月21日		東経	136° 1' 3.37"
調査業者名				主任技師			現代理人	コ鑑定者	ボーリング責任者		
孔口標高	23.03	m	角度	180° 上 下 0° 90° 0° 0°	方 向	北 270° 西 180° 南 0° 0°	地盤勾配 鉛直 90° 90° 0° 0°	水平 0° 0° 0° 0°	使用機種 試錐機 エンジン	ハンマー落下用具 ボンブ	
総掘削長	8.00	m									

孔番 H-4 孔

深度 0.00m ~ 8.00m



H24-H-5

## ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo. 1

事業・工事名

ボーリング名	H-5			調査位置	X:403.817, Y:1106.919						北緯	35° 45' 20.67"		
発注機関	日本原子力発電株式会社						調査期間	2013年2月19日～2013年2月20日			東経	136° 1' 3.43"		
調査業者名				主任技師				現代理人	場人	コア鑑定者				
孔口標高	22.34 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.0°	方向	北 270° 西 180° 南 0° 東 90° 0.0°	地盤勾配	鉛直 水平 0.0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具				
総掘削長	8.00 m							エンジン	ポンブ					

標尺	標高	深度	柱状図	岩種	色	硬	コア	割れ目	風	変	記	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水柱載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューイング / ビット	給圧 (kN·MPa)	回転数 (rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
												岩級	孔内水位 (m)	孔内水位 (m)	測定月日	孔内水位 (m)																							
1				砂礫	淡黄						0.00～3.46m: 砂礫(③層) 花崗斑岩のクサリ岩主体で最大径300mm以上。基質は細縫混じりシリル質砂。径30mm以下の石片が点在。 ●0.24m: せん断面(断層)。 傾斜50°。 0.65m: マンガン脈。傾斜20°。幅2mm。 1.34～1.48m: 軟弱なシルト質砂を挟む。砂は細砂主体。 2.00～2.25m: 不明瞭であるが水平に近い地積構造を示す。下端にマンガン脈を伴う。 2.90m: 幅3mm程度でマンガンが濃集する。																												
2				砂礫	淡黄						3.46～4.28m: 砂礫(②層) 花崗斑岩のクサリ岩主体で基質はシルト質砂。 3.48m: 傾斜10°、幅数mmのマンガン脈。 4.28m: 基盤岩との境界は不明瞭。 4.28～8.00m: 花崗斑岩(Gp) 4.28～6.72m: 土砂状を呈するが、わずかに岩組織を残す。所々、灰色の粘土を挟む。 6.57m: 傾斜65°で、幅2～3mmの黄褐色粘土を挟む。																												
3	18.88	3.46		砂礫	明黄褐						6.72～8.00m: 軟化著しく、土砂～岩片状を呈する。割れ目は不明瞭となる。																												
4	18.06	4.28		花崗斑岩	橙	Eg	Vg	dg	ε	2																													
5																																							
6																																							
7																																							
	14.34	8.00																																					

孔番 H-5 孔

深度 0.00m ~ 8.00m



H24-H-6

## ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo. 1

事業・工事名

ボーリング名	H-6	調査位置	X:405.817, Y:1106.919	北緯	35° 45' 20.71"
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	2013年2月28日～2013年3月7日	東経	136° 1' 3.49"
調査業者名		主任技師	現代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	20.34 m	角度	180° 上 90° 下 0° 45.0° 向	地盤勾配	北 0° 西 270° 東 90° 南 180° 233.0°
総掘削長	17.00 m	鉛直	水平 0°	使用機種	ハンマー落下用具
		エンジン	0.0°	試錐機	ポンブ

標尺	標高	深度	柱状図	岩種	色	硬	コア	割れ目	風化	変形	記	コア採取率 → (%)	岩級	孔内水位 (m)	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水位監視)	室試験	掘進月	掘進速度 (cm/時)	孔径(mm) / 孔壁保護	コアチューク / ビット	給圧(kN) / (MPa)	回転数(rpm)	回転圧(MPa)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
															→ N	孔内水位(m) / 測定月日	分	→ N	0 10 20 30 40 50												
1	19.85	0.69	19.51	1.18	砂	硬	Eg	Vte	dg	3	0.00～2.27m: 砂混じり砂及び礫質砂(③層) 0.00～0.69m: 砂混じり砂 細～粗砂で不均質。細礫が混じる。 0.69～1.18m: 均質な細砂 1.18～2.27m: 砂混じり砂 不均質な砂。礫は径10～30mm。最大径80mmの花崗岩岩片。礫率30～40%	0 50 100	0	50	100	0	10	20	30	40	50	2/28	50	86	ダブルコアチューク / ダイヤモンドビット	2.0	100	0.1	泥水	1	
2	18.73	2.27		礫質砂	淡黄	軟					2.27～3.18m: 砂混じり砂(②層) 細～中砂。礫は径2～20mmの石英、花崗岩岩片で、最大径10mm程度の画角状の点在。礫率5%程度。	0	50	100	0	10	20	30	40	50	3/1	115	86	ダブルコアチューク / ダイヤモンドビット	2.0	100	0.1	泥水	1		
3	18.09	3.18		泥混じり砂	にぶい混	軟					3.18～7.18m: 花崗斑岩(Gp) 3.18～5.32m: 花崗斑岩(Gr) 5.32～6.32m: 花崗斑岩(Gp) 6.32～6.67m: ほぼ全ての割れ目が開口し、黄緑色を帯びる。軟質な岩片状～土砂状を呈する。割れ目は消滅し、一部に灰赤色粘土脈を伴う。 5.33～5.82m: 多いの割れ目に幅数mmの灰赤色粘土を挟在する。 5.82～6.16m: 径10～30mmの軟質岩片と細粒化した粗砂の土砂。	0	50	100	0	10	20	30	40	50	3/2	90	86	ダブルコアチューク / ダイヤモンドビット	2.0	100	0.1	泥水	1		
4				花崗斑岩	にぶい赤褐	硬	Eg	Vte	dg	3	7.51～17.00m: 花崗斑岩(Gp) 7.51～8.57m: 多いの割れ目が開口し、細粒化した岩片がみられる。緑色に変質した岩片が不規則にみられる。 8.57～9.36m: 原岩組織は不明瞭。一部に緑色化汚染を受ける。一部に緑色化した岩片がみられる。 9.36～9.38m: 軟質な粘土混じり砂状、傾斜60°程度、幅10～15mm、黄色。	0	50	100	0	10	20	30	40	50	3/2	95	86	ダブルコアチューク / ダイヤモンドビット	2.0	100	0.1	泥水	1		
5					黄緑	軟	Dg	Vte	cg	2	9.36～10.40m: 岩片が不規則にみられる。 10.40～10.50m: 粘土・礫混じり砂状破砕部(Hb)	0	50	100	0	10	20	30	40	50	3/2	100	86	ダブルコアチューク / ダイヤモンドビット	2.0	100	0.1	泥水	1		
6					橙	軟	Eg	Vte	dg	2	10.40～10.50m: 岩片が不規則にみられる。 10.50～10.60m: 岩片が不規則にみられる。 10.60～10.70m: 岩片が不規則にみられる。	0	50	100	0	10	20	30	40	50	3/2	105	86	ダブルコアチューク / ダイヤモンドビット	2.0	100	0.1	泥水	1		
7	15.26	7.18	15.03	7.51	砂礫	赤褐	Eg	Vte	dg	3	10.70～11.15m: 岩片が不規則にみられる。 11.15～11.40m: 岩片が不規則にみられる。	0	50	100	0	10	20	30	40	50	3/4	70	86	ダブルコアチューク / ダイヤモンドビット	2.0	100	0.1	泥水	1		
8											11.40～11.50m: 岩片が不規則にみられる。	0	50	100	0	10	20	30	40	50	3/5	95	86	ダブルコアチューク / ダイヤモンドビット	2.0	100	0.1	泥水	1		
9											11.50～11.60m: 岩片が不規則にみられる。	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
10											11.60～11.70m: 岩片が不規則にみられる。	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
11	12.46	11.15									11.70～11.80m: 岩片が不規則にみられる。	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
12											11.80～11.90m: 岩片が不規則にみられる。	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
13											11.90～12.00m: 岩片が不規則にみられる。	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
14											12.00～12.10m: 岩片が不規則にみられる。	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
15											12.10～12.20m: 岩片が不規則にみられる。	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
16											12.20～12.30m: 岩片が不規則にみられる。	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
17											12.30～12.40m: 岩片が不規則にみられる。	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
18											12.40～12.50m: 岩片が不規則にみられる。	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
19											12.50～12.60m: 岩片が不規則にみられる。	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
20											12.60～12.70m: 岩片が不規則にみられる。	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
21											12.70～12.80m: 岩片が不規則にみられる。	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
22											12.80～12.90m: 岩片が不規則にみられる。	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
23											12.90～13.00m: 岩片が不規則にみられる。	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
24											13.00～13.10m: 岩片が不規則にみられる。	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
25											13.10～13.20m: 岩片が不規則にみられる。	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
26											13.20～13.30m: 岩片が不規則にみられる。	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
27											13.30～13.40m: 岩片が不規則にみられる。	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
28											13.40～13.50m: 岩片が不規則にみられる。	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
29											13.50～13.60m: 岩片が不規則にみられる。	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
30											13.60～13.70m: 岩片が不規則にみられる。	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
31											13.70～13.80m: 岩片が不規則にみられる。	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
32											13.80～13.90m: 岩片が不規則にみられる。	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
33											13.90～14.00m: ヨア流出	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
34											14.00～14.10m: セン断面	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
35											14.10～14.20m: セン断面	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
36											14.20～14.30m: セン断面	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
37											14.30～14.40m: セン断面	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
38											14.40～14.50m: セン断面	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
39											14.50～14.60m: セン断面	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
40											14.60～14.70m: セン断面	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
41											14.70～14.80m: セン断面	0	50	100	0	10	20	30	40	50											
42											14.80～14.90m: セン断面	0	50	100	0	1															

孔番 H-6 孔

深度 0.00m ~ 17.00m



H27-F-5

## ボーリング柱状図

### 調查名

ボーリングNo. 1

### 事業・工事名

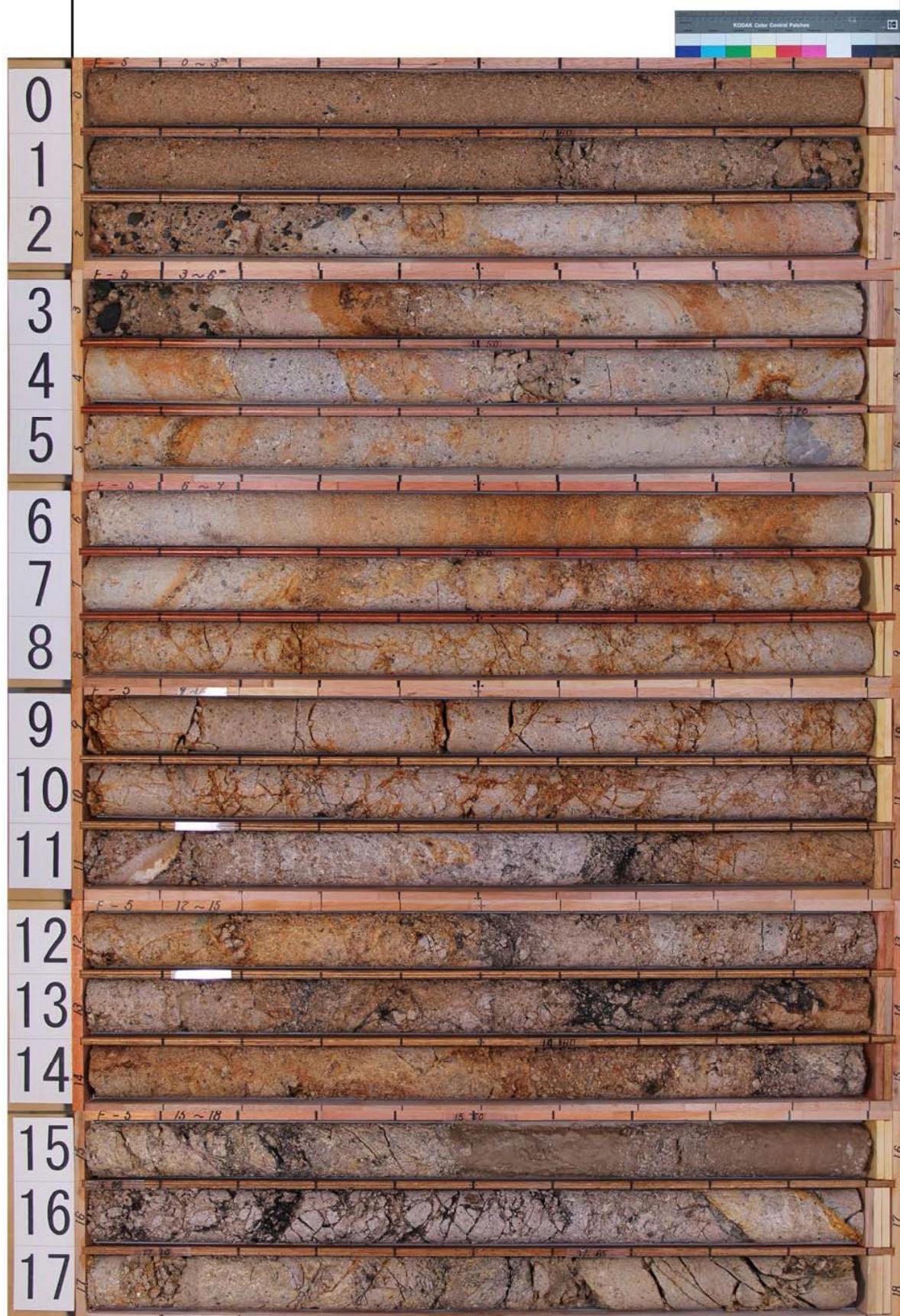
ボーリング名	F-5			調査位置	X : 390.450, Y : 1104.190						北緯	35° 45' 20.34"
発注機関	日本原子力発電株式会社						調査期間	2015年5月20日～2015年5月30日			東経	136° 1' 3.07"
調査業者名				主任技師				現場代理人			コ鑑定ア	
孔口標高	19.84	m	角度	180° 上 	ハンマー 落下用具							
総掘削長	26.00	m						エンジン			ポンプ	

標 尺	標 高	深 度	柱 状 圖	岩 種 区 分	色 調	硬 ア 形 割 れ 目 の 状 態	風 変 化 質	記 事	コア採取率 — ( % ) 最大コア長 — cm R Q D — [ % ]			岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) /測 定 月 日	孔 内 水 位 (m) /測 定 月 日	( 標準貫入 ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 ( 孔内水平載荷 )	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 ( cm / 時 )	孔 径 ( mm ) / 孔壁 保 護	コアチ ューブ / ビ ット	給 圧 ( kN · MPa )	回 転 数 ( rpm )	送 水 圧 ( MPa )	送 水 量 ( L / 分 )	排 水 量 ( L / 分 )
									— ( % )	( N 値 )	— ( cm )																			
16					灰 黄	Vg Eg Dg	cg dg cg		3			1 (0)	100																	
17					灰 黄 褐				4			2 (0)	100																	
18					浅 黄	IVg Eg	dg cg		3			3 (0)	100																	
19					灰 黄 褐				4			4 (0)	100																	
20					浅 黄	Dg Eg			5			5 (0)	100																	
21					花崗 斑岩				3			6 (0)	100																	
22					明 褐 灰				6			7 (0)	100																	
23									2			8 (0)	100																	
24									7			9 (0)	100																	
25									3			10 (0)	100																	
-0.08	26.00																													

● 16.82~16.96m : 破碎部  
破碎幅は13.4cmである。  
16.82~16.95m : 硫質粘土状破碎部  
(Hb)  
浅黄色の軟質な礫状部からなる。  
上端境界の傾斜は45°である。  
16.95~16.96m : 粒土状破碎部 (H-1)  
明黄色を呈する。軟質な粘土部からなり、幅は3~15mmである。  
上端境界の傾斜は20~70°、下端境界の傾斜は53°である。  
● 18.71~18.96m : 破碎部 (D-1破碎帶)  
破碎幅は19.2cmである。  
18.71~18.84m : 硫質粘土状破碎部 (Hb)  
にぶい褐色のやや軟質な硫質粘土状を呈する。上端境界の傾斜は45°である。  
18.84~18.85m : 硫質粘土状破碎部 (Hc-2)  
灰黄色を呈する。軟質な粘土部からなり、幅は10~20mmである。  
上端境界の傾斜は48°、下端境界の傾斜は40~70°である。  
18.85~18.96m : 粒土混じり礫状破碎部 (Hj)  
浅黄色の硬質な礫状部からなる。  
下端境界の傾斜は30°である。  
18.96~20.57m : 大半が風化と変質で軟化が著しい。  
20.57~26.00m : 中硬質の岩片状コアが主体となる。傾斜10~30°の割れ目が主体で、割れ目沿いに砂を挟む。  
25.12~25.38m : 割れ目沿いに砂状を呈する。

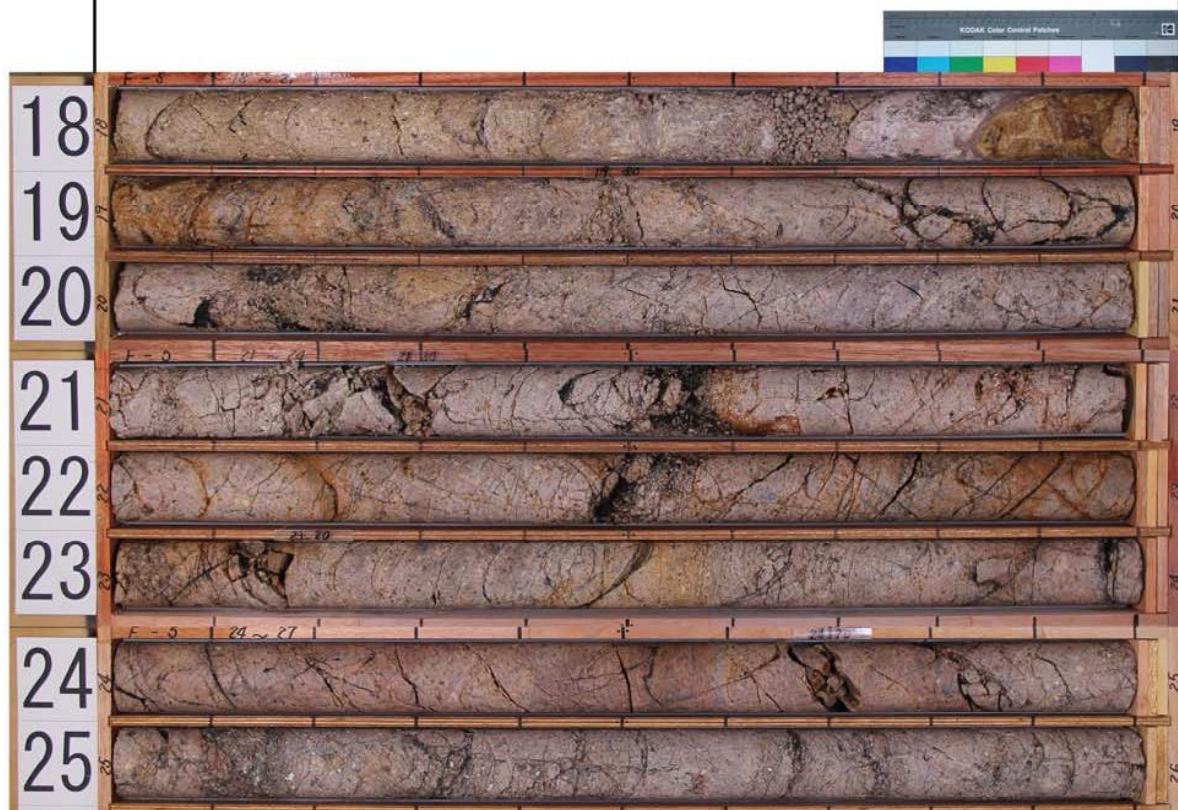
孔番：F-5

深度 0.00m~18.00m



孔番：F-5

深度 18.00m ~ 26.00m



H24-H-13

## ボーリング柱状図

### 調查名

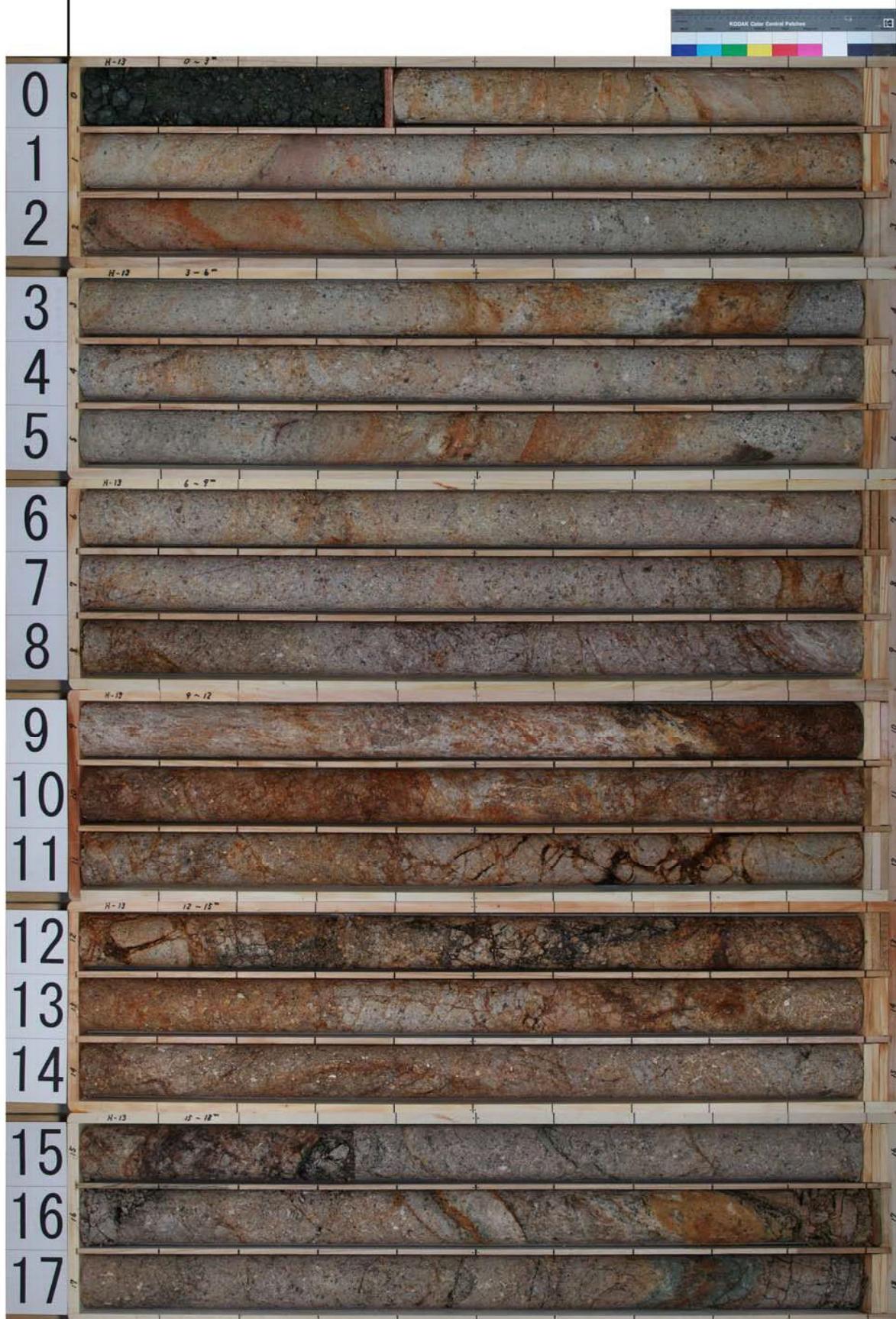
ボーリングNo. 1

### 事業・工事名

ボーリング名	H-13		調査位置	X:391.397, Y:1103.630						北緯	35° 45' 20.34"		
発注機関	日本原子力発電株式会社						調査期間	2013年 5月 23日 ~ 2013年 5月 29日			東経	136° 1' 3.11"	
調査業者名				主任技師			現代理人			コ鑑定者			
孔口標高	19.87	m	角度	180° 上 下 0° 30°	方 向 北 西 180° 0° 90° 143.0°	地盤勾配 北 270° 西 180° 南 90° 東 0° 143.0°	試験機 鉛直 水平 0° 90° 0.0°	使用機種				ハンマー 落下用具	
総掘削長	20.00	m					エンジン				ポンプ		

孔番 H-13 孔

深度 0.00m ~ 18.00m



孔番 H-13 孔

深度 18.00m ~ 20.00m

18  
19



H27-G-1

## ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo. 1

事業・工事名

ボーリング名	G-1			調査位置	X393.771, Y: 1102.728						北緯	35° 45' 20.36"		
発注機関	日本原子力発電株式会社						調査期間	2015年7月14日～2015年7月30日			東経	136° 1' 3.21"		
調査業者名				主任技師				現代理人	場人	コ鑑定者	ボーリング責任者			
孔口標高	19.61 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 0.0°	地盤勾配	鉛直 水平 鉛直 鉛直 0.0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具				
総掘削長	7.40 m							エンジン		ポンブ				

標尺	標高	深度	柱状図	岩種	色	硬	コア	割れ目	風化	変形	記	(標準貫入) 試験						原位置試験 (孔内水位載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューイング/ビット	給圧(kN·MPa)	回転数(rpm)	回転圧(MPa)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)						
												岩級	孔内水位(m)	測定月日	分	N	値	0	10	20	30	40	50												
1	18.03	1.58	埋土	にぶい 黄褐色	褐色						0.00～1.58m: 埋土である。 碎石、礫混じり粗粒砂、コンクリートからなる。																								
2	17.30	2.31	埋土 シルト シルト質砂 明黄色	白灰							1.58～3.78m: シルト混じり砂礫主体の第四系である。 1.58～2.31m: 砂混じりシルト質砂である。 径2～20mmの半クサリ風化した花崗斑岩の角礫を10%含む細～中粒砂からなる。																								
3	15.83	3.78	シルト 混じり 砂礫								2.05～2.31m: 幅10mmの風化縫隙部である。 2.31～3.78m: シルト混じり砂礫である。 径2～18mmの半クサリ風化した花崗斑岩の角礫を40%含む細～粗粒砂で全体に不均質である。																								
4			浅黄橙								3.78～4.00m: 花崗斑岩である。 風化で著しく軟化する。割れ目は不明瞭なものが多い。																								
5			花崗斑岩			Eg					5.80m以深は幅1～2mmの軟質な灰白色の粘土層が分布する。 ●6.48～7.24m 破碎部 6.48～7.06m 粘土混じり縫隙状破碎部 (Hj) 上端52°で波打って、下端58°で直線的に連続する。径5～10mmの粘土化した岩片と岩片間の隙状粘土化部からなる。色調は上端側が明黄色である。6.70m以深が風化で著しい黄橙色を呈する。																								
6						dg					7.06～7.14m: 硫質粘土状破碎部 (Hb) 上端58°、下端72°でいずれも直線的に連続する。上端は幅1～2mで明赤灰～褐色の軟質なほほ直線的な粘土層。全体に粘土化著しく径10mm前後の外形不明瞭な岩片を20～30%含む。灰白色を呈し、径5～20mmのまだら模様状に朝赤灰色を含む。幅20～50mm。7.14～7.17m: 粘土状破碎部 (H-1) 上端58°、下端72°で概ね直線的に連続。下端はやや不明瞭。径3～5mm程度に細かく破碎された岩片と岩片間に薄く付着した粘土からなる。粘土との境界には2次せん断面と思われる細かい割れ目が多い。灰白色を呈する。幅15～20mm。																								
7	12.21	7.40	灰白			IVg																													

孔番：G-1

深度 0.00m ~ 7.40m



H27-G-2

## ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo. 1

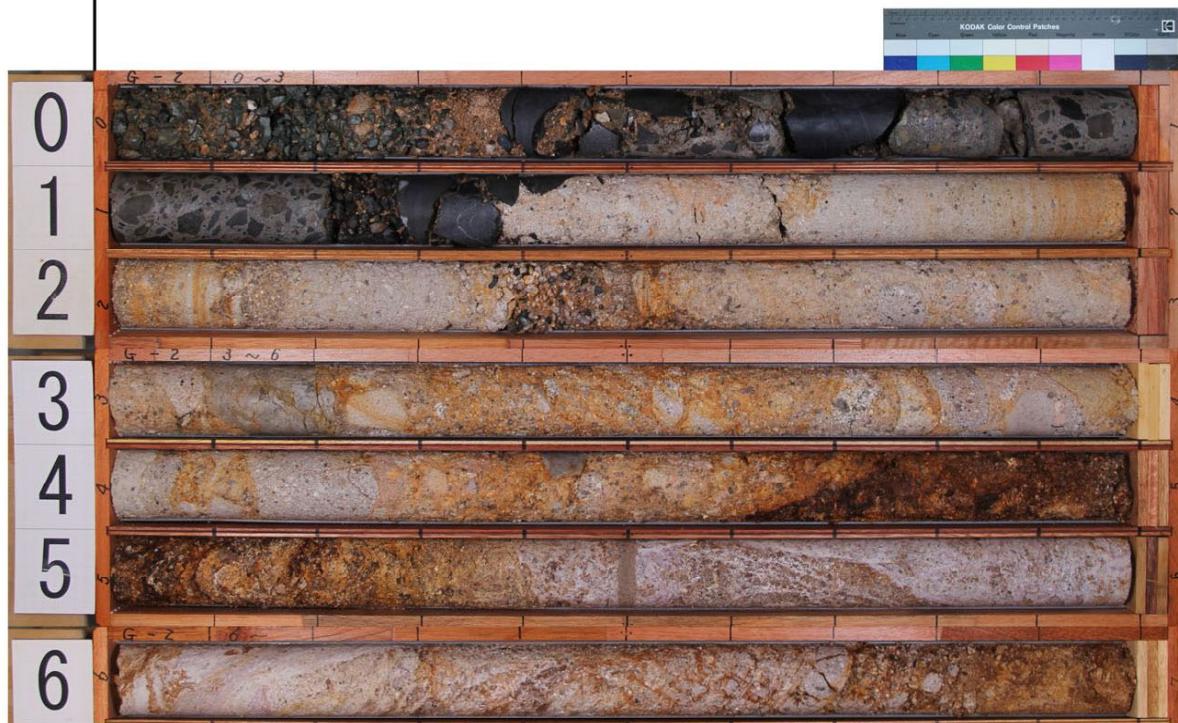
事業・工事名

ボーリング名	G-2			調査位置	X : 393.771, Y : 1102.228						北緯	35° 45' 20.35"	
発注機関	日本原子力発電株式会社						調査期間	2015年7月25日～2015年7月27日			東経	136° 1' 3.22"	
調査業者名				主任技師				現代理人	場人	コ鑑定者	ボーリング責任者		
孔口標高	19.40 m	角度	180° 上 下 0°	方 向 0.0°	北 270° 西 180° 南 0.0°	地盤 勾配 鉛直 0.0°	使用 機種 エンジン	試錐機		ハンマー 落下用具			
総掘削長	7.00 m							エンジン		ポンブ			

標尺	標高	深度	柱状図	岩種	色	硬	コア	割れ目	風	変	記	(標準貫入) 試験						原位置試験 (孔内水位観察)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径(mm) 孔壁保護	コアチュー ブ/ビット	給圧(kN·MPa)	回転数(rpm)	回転圧(MPa)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)									
												岩級	孔内水位(m) 測定月日	孔内水位(m) 分	N	分	0	10	20	30	40	50																
1	18.02	1.38		埋土	褐灰						0.00～1.38m: 埋土である。碎石・礫混じり粗粒砂・コンクリートからなる。																											
2	17.02	2.38		漂泥じり 粗粒砂	灰白						1.38～4.78m: シルト混じり砂礫主体の第四系である。1.38～2.38m: 粘混じりシルト質砂である。																											
3				シルト混じり 泥灰岩	灰白						2.38～4.78m: シルト混じり砂礫である。																											
4				にぶい 黄橙	砂礫						2.38～4.78m: シルト混じり砂礫である。																											
5				花崗斑岩	花崗斑岩						4.78～7.00m: 花崗斑岩である。																											
6				花崗斑岩	花崗斑岩						4.78～7.00m: 花崗斑岩である。																											
											軟質で割れ目は不明瞭なものが多い。																											
											● 5.40～6.40m: 破碎部 5.40～6.07m: 粘土・砂混じり疊状破碎部(Hj) 上端25°で大きく波打って連続。上端に幅2mmの灰赤色のやや硬質の粘土を伴なう。下端は風化褐化した65°割れ目でやや波打つて連続。径10mm前後の粘土化～砂化した岩片からなり岩片の外形は不明瞭なものが多い。明褐灰色を呈し、灰白色～灰赤色粘土部を斑点状～脈状に伴う。																											
											5.49～5.51m: ほぼ水平のにぶい褐色の細粒部(スライム)。 6.07～6.15m: 硅質粘土状破碎部(Ht) 上端65°で波打って、下端70°で直線的に連続。径1mm以下の石英砂を10%以下で含む。灰白色を呈し、ややオリーブ色を帯びる。上端の一部に幅1～3mmの赤灰色部を伴う。幅6～10mm。 6.17～6.40m: 砂混じり岩片状破碎部(Hj) 上端70°で直線的に連続。径5mmの砂状化岩片からなり一部少量ながら粘土化を伴う。灰黄色を呈する。幅7cm。 6.49～6.17m: 硅質粘土状破碎部(Ht) 上端70°で直線的に連続。径5mmの砂状化岩片からなり一部少量ながら粘土化を伴う。灰黄色を呈する。幅7cm。 6.71～7.00m: 風化で土砂化する。																											

孔番：G-2

深度 0.00m ~ 7.00m



H24-H-7-1

## ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo. 1

事業・工事名

ボーリング名	H-7-1			調査位置	X:400.670, Y:1102.320						北緯	35° 45' 20.49"		
発注機関	日本原子力発電株式会社						調査期間	2013年3月10日～2013年3月12日			東経	136° 1' 3.44"		
調査業者名				主任技師				現代理人	コ	鑑定者	ボーリング責任者			
孔口標高	22.97 m	角度	180° 上 下 0° 0.0°	方 向 90° 北 西 180° 南 東 0.0°	地盤 鉛直 勾配 0.0°	使用 機種 試錐機 エンジン	ハンマー落下用具							
総掘削長	5.00 m							ポンブ						

標尺	標高	深度	柱状図	岩種	色	硬	コア	割れ目	風	変	記	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水位載荷)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速度 (cm/時)	孔 径 (mm) 孔壁 保護 ビット	コア チュー ブ ビット	給 圧 (kN· rpm)	回 転 数 (r pm)	回 転 圧 (MPa)	送 水 量 (L/ 分)	送 水 量 (L/ 分)	排水 量 (L/ 分)											
												(N値～深度) 図																											
(m)	(m)	(m)	図分	調軟	状態	硬	コア	割れ目	風化	変質	事	0	50	100	0	10	20	30	40	50	0	100	86	3.0	100	0.1	泥水5	5											
1											2mまでノンコア																												
2	20.97	2.00									2.00～3.06m: シルト質砂礫 礫は径2～6mmの石英主体。所々に 酸化鉄が付着する。 3.06～4.64m: 砂質シルト 径15mmまでのクサリ礫が点在する。 ●3.73m: せん断面(火成岩) 平均傾斜74°。幅1～3mmの粘土を 挟み、10cm余りの波長でアンジュ レートする。一部マンガシカク1mm程 度の幅で挟在する。主に上盤側に レンズ状～不定形なマンガシカク 数ヶ所あり(幅1～2cm)。明瞭褐色 を呈する。 4.64～5.00m: シルト質砂 径3～4mmの石英粒を含む。	シルト質砂礫	灰白																	3/10	100	86	ダブルチュー ブビット	3.0	100	0.1	泥水5	5	
3	19.91	3.06																																					
4	18.33	4.64																																					
	17.97	5.00																																					

孔番 H-7-1 孔

深度 2.00m ~ 5.00m



H27-G-3

## ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo. 1

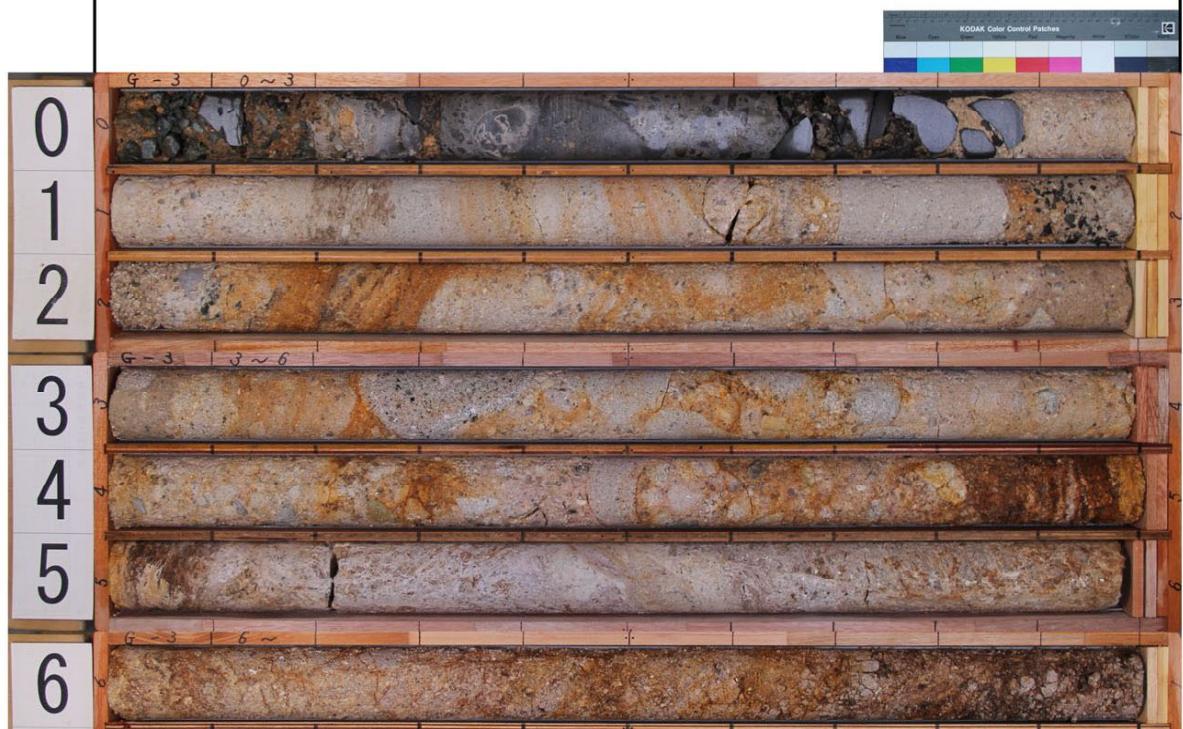
事業・工事名

ボーリング名	G-3			調査位置	X : 393.771, Y : 1101.728						北緯	35° 45' 20.34"		
発注機関	日本原子力発電株式会社						調査期間	2015年7月24日～2015年7月25日			東経	136° 1' 3.23"		
調査業者名				主任技師				現代理人	場人	コア鑑定者				
孔口標高	19.14 m	角度	180° 上 90° 下 0°	方北 0° 西 270° 南 180° 東 90° 0°	地盤勾配 鉛直 水平 鉛直 90° 0°	使用機種 試錐機 エンジン	ハンマー落下用具			ボーリング責任者				
総掘削長	7.00 m												ポンブ	

標尺	標高	深度	柱状図	岩種	色	硬	コア	割れ目	風化	変形	記	(標準貫入) 試験						原位置試験 (孔内水位観察)	室内試験	掘進月	掘進速度 (cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護 コアチューイング/ビット	給圧(kN·MPa)	回転数(rpm)	回転圧(MPa)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)									
												岩級	孔内水位(m)	測定月日	分	N	値																				
1	18.27	0.87		埋土	褐灰						0.00～0.87m: 埋土である。碎石、礫混じり粗粒砂、コンクリートからなる。 0.87～1.86m: シルト混じり砂礫主体の第四系である。 1.87～1.87m: 砕混じりシルト質砂である。 径2～30mmの半クサリ礫化した花崗岩、アフライ特の角礫を礫率10%含む細～中粗砂からなる。 1.87～4.86m: シルト混じり砂礫である。 径2～170mmの半クサリ礫化した花崗岩、アフライ特の亜角～角礫が主体となり、礫率は40%である。 基質は細～粗粒砂からなる。全体に不均質、淘汰不良である。終まる。 2.88～3.05m: 砕混じりシルト質砂を呈する。 4.86～7.00m: 花崗岩である。 全体に極めて軟質である。 ●5.11～5.75m: 破碎部 5.11～5.50m: 粒土・砂混じり様状破碎部 (H1) 5.50～5.57m: 破碎粒土状破碎部 (H2)	V16	dg	δ	3																						
	17.27	1.87		シルト混じり砂礫	明黄褐						4.86～7.00m: 花崗岩である。 全体に極めて軟質である。 ●5.11～5.75m: 破碎部 5.11～5.50m: 粒土・砂混じり様状破碎部 (H1) 5.50～5.57m: 破碎粒土状破碎部 (H2)	E8																									
2				シルト混じり砂礫	浅黄褐						4.86～7.00m: 花崗岩である。 全体に極めて軟質である。 ●5.11～5.75m: 破碎部 5.11～5.50m: 粒土・砂混じり様状破碎部 (H1) 5.50～5.57m: 破碎粒土状破碎部 (H2)	V8	cg	δ	2																						
3				花崗岩	灰白						4.86～7.00m: 花崗岩である。 全体に極めて軟質である。 ●5.11～5.75m: 破碎部 5.11～5.50m: 粒土・砂混じり様状破碎部 (H1) 5.50～5.57m: 破碎粒土状破碎部 (H2)	V16	dg	γ	3																						
4				花崗岩	浅黄褐						4.86～7.00m: 花崗岩である。 全体に極めて軟質である。 ●5.11～5.75m: 破碎部 5.11～5.50m: 粒土・砂混じり様状破碎部 (H1) 5.50～5.57m: 破碎粒土状破碎部 (H2)	E8																									
5				花崗岩	灰白						4.86～7.00m: 花崗岩である。 全体に極めて軟質である。 ●5.11～5.75m: 破碎部 5.11～5.50m: 粒土・砂混じり様状破碎部 (H1) 5.50～5.57m: 破碎粒土状破碎部 (H2)	V16	dg	γ	3																						
6				花崗岩	灰白						4.86～7.00m: 花崗岩である。 全体に極めて軟質である。 ●5.11～5.75m: 破碎部 5.11～5.50m: 粒土・砂混じり様状破碎部 (H1) 5.50～5.57m: 破碎粒土状破碎部 (H2)	E8																									
12.14	7.00			花崗岩	灰白						4.86～7.00m: 花崗岩である。 全体に極めて軟質である。 ●5.11～5.75m: 破碎部 5.11～5.50m: 粒土・砂混じり様状破碎部 (H1) 5.50～5.57m: 破碎粒土状破碎部 (H2)	V16	cg	δ	2																						

孔番：G-3

深度 0.00m ~ 7.00m



H27-G-4

## ボーリング柱状図

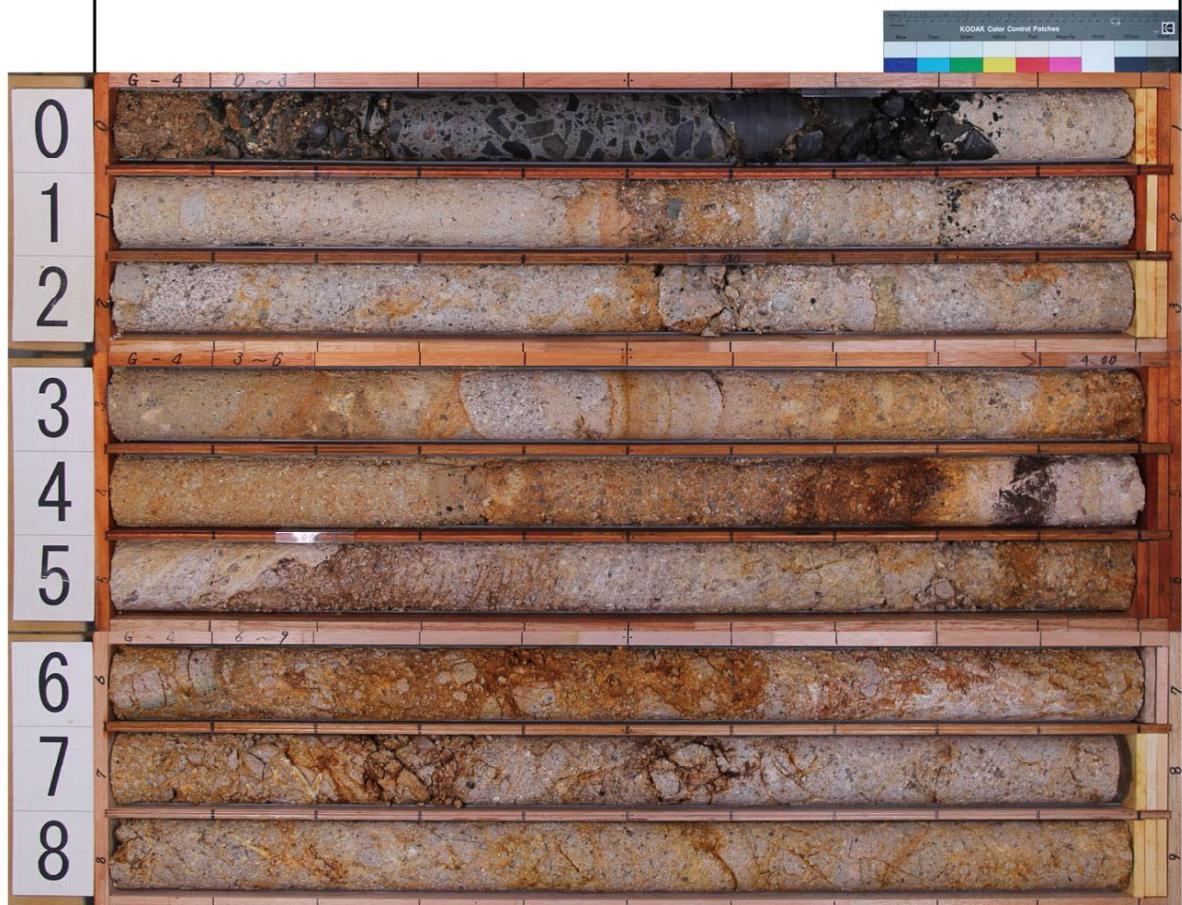
### 調查名

ボーリングNo. 1

### 事業・工事名

孔番：G-4

深度 0.00m ~ 9.00m



H24-H-9-1

## ボーリング柱状図

### 調查名

ボーリングNo. 1

### 事業・工事名

孔番 H-9-1 孔

深度 0.00m ~ 12.00m



H27-G-5

## ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo. 1

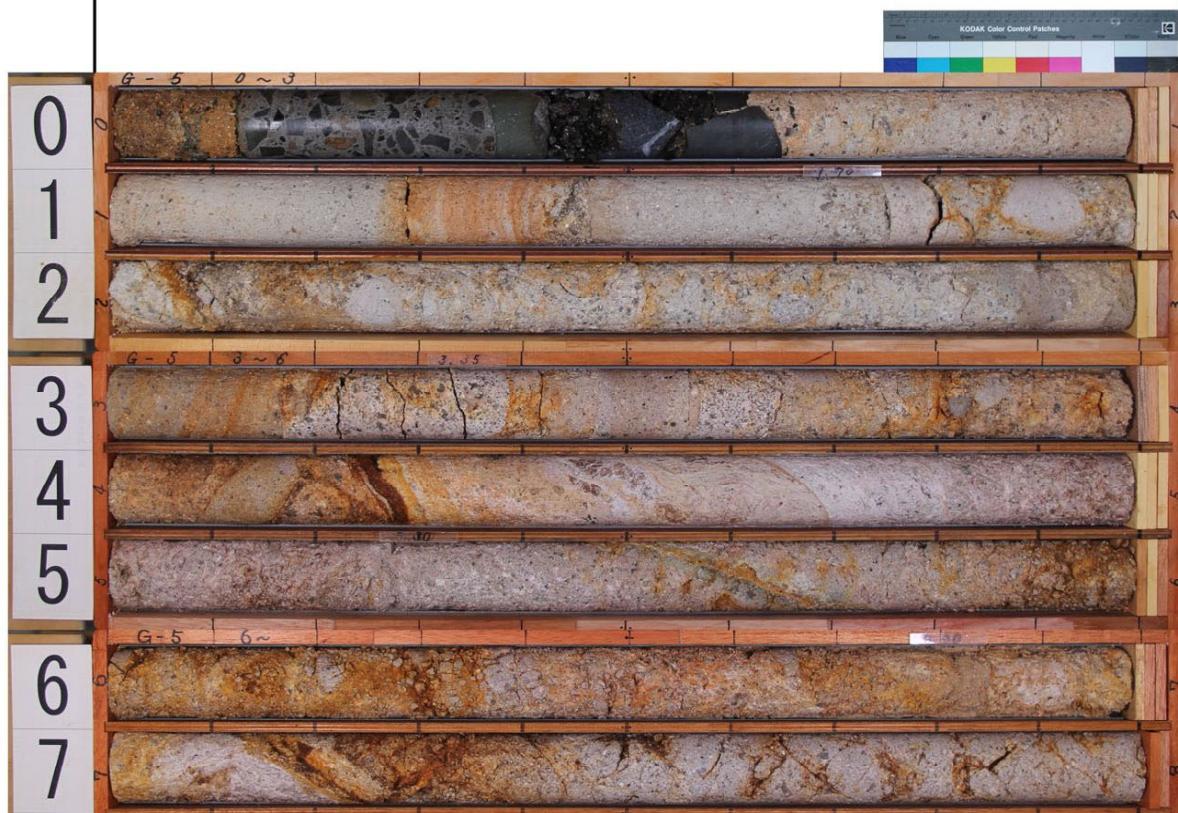
事業・工事名

ボーリング名	G-5			調査位置	X : 393.771, Y : 1100.728						北緯	35° 45' 20.31"	
発注機関	日本原子力発電株式会社						調査期間	2015年7月21日～2015年7月22日			東経	136° 1' 3.26"	
調査業者名				主任技師				現代理人	コア鑑定者				ボーリング責任者
孔口標高	18.70 m	角度	180° 上 下 0° 0.0°	方北 西 180° 0°	地盤勾配 鉛直 180° 0.0°	水平 鉛直 0.0°	使用機種	試錐機			ハンマー落下用具		
総掘削長	8.00 m							エンジン			ポンブ		

標尺	標高	深度	柱状図	岩種	色	硬	コア割れ	風向	変形	記	(標準貫入) 試験						原位置試験 (孔内水位観察)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューク/ビット	給圧(kN·MPa)	回転数(rpm)	回転圧(MPa)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)								
											岩級	孔内水位(m)	測定月日	分	孔内水位(m)/測定月日	分	0	10	20	30	40	50														
1	18.06	0.64		埋土	灰					0.00～0.64m: 埋土である。 礫混じり砂。コンクリートからなる。 0.64～4.26m: シルト混じり砂礫主体の第四系である。 0.64～1.75m: 細粒混じりシルト質砂である。 径2～30mmの半クサリ礫化した花崗斑岩の角礫を礫率10%含む細～中粒砂からなる。下位境界は不明瞭である。 1.08～1.70m: 細粒分が多い。 1.75～4.26m: シルト混じり砂礫である。 礫は径2～100mmの一部半クサリ礫化した花崗斑岩、アブライドの亜角～角礫である。基質は中粒～粗粒砂からなる。綈まる。 2.98～3.16m: 灰色の礫混じりシルト質砂を呈する。傾斜10°のラミナが分布する。	Eg	Vg	Y	4			0	50	100																	
2	16.95	1.75		シルト混じり砂礫	灰黄					0.00～0.64m: 埋土である。 礫混じり砂。コンクリートからなる。 0.64～4.26m: シルト混じり砂礫主体の第四系である。 0.64～1.75m: 細粒混じりシルト質砂である。 径2～30mmの半クサリ礫化した花崗斑岩の角礫を礫率10%含む細～中粒砂からなる。下位境界は不明瞭である。 1.08～1.70m: 細粒分が多い。 1.75～4.26m: シルト混じり砂礫である。 礫は径2～100mmの一部半クサリ礫化した花崗斑岩、アブライドの亜角～角礫である。基質は中粒～粗粒砂からなる。綈まる。 2.98～3.16m: 灰色の礫混じりシルト質砂を呈する。傾斜10°のラミナが分布する。	Eg	Vg	Y	4			0	50	100																	
3				花崗斑岩	灰					0.00～0.64m: 埋土である。 礫混じり砂。コンクリートからなる。 0.64～4.26m: シルト混じり砂礫主体の第四系である。 0.64～1.75m: 細粒混じりシルト質砂である。 径2～30mmの半クサリ礫化した花崗斑岩の角礫を礫率10%含む細～中粒砂からなる。下位境界は不明瞭である。 1.08～1.70m: 細粒分が多い。 1.75～4.26m: シルト混じり砂礫である。 礫は径2～100mmの一部半クサリ礫化した花崗斑岩、アブライドの亜角～角礫である。基質は中粒～粗粒砂からなる。綈まる。 2.98～3.16m: 灰色の礫混じりシルト質砂を呈する。傾斜10°のラミナが分布する。	Eg	Vg	Y	4			0	50	100																	
4	14.44	4.26		花崗斑岩	灰白	Eg	Vg	Y	4	0.00～0.64m: 埋土である。 礫混じり砂。コンクリートからなる。 0.64～4.26m: シルト混じり砂礫主体の第四系である。 0.64～1.75m: 細粒混じりシルト質砂である。 径2～30mmの半クサリ礫化した花崗斑岩の角礫を礫率10%含む細～中粒砂からなる。下位境界は不明瞭である。 1.08～1.70m: 細粒分が多い。 1.75～4.26m: シルト混じり砂礫である。 礫は径2～100mmの一部半クサリ礫化した花崗斑岩、アブライドの亜角～角礫である。基質は中粒～粗粒砂からなる。綈まる。 2.98～3.16m: 灰色の礫混じりシルト質砂を呈する。傾斜10°のラミナが分布する。	Eg	Vg	Y	4			0	50	100																	
5				花崗斑岩	明褐色	Eg	Vg	Y	4	0.00～0.64m: 埋土である。 礫混じり砂。コンクリートからなる。 0.64～4.26m: シルト混じり砂礫主体の第四系である。 0.64～1.75m: 細粒混じりシルト質砂である。 径2～30mmの半クサリ礫化した花崗斑岩の角礫を礫率10%含む細～中粒砂からなる。下位境界は不明瞭である。 1.08～1.70m: 細粒分が多い。 1.75～4.26m: シルト混じり砂礫である。 礫は径2～100mmの一部半クサリ礫化した花崗斑岩、アブライドの亜角～角礫である。基質は中粒～粗粒砂からなる。綈まる。 2.98～3.16m: 灰色の礫混じりシルト質砂を呈する。傾斜10°のラミナが分布する。	Eg	Vg	Y	4			0	50	100																	
6				花崗斑岩	灰	Eg	Vg	Y	4	0.00～0.64m: 埋土である。 礫混じり砂。コンクリートからなる。 0.64～4.26m: シルト混じり砂礫主体の第四系である。 0.64～1.75m: 細粒混じりシルト質砂である。 径2～30mmの半クサリ礫化した花崗斑岩の角礫を礫率10%含む細～中粒砂からなる。下位境界は不明瞭である。 1.08～1.70m: 細粒分が多い。 1.75～4.26m: シルト混じり砂礫である。 礫は径2～100mmの一部半クサリ礫化した花崗斑岩、アブライドの亜角～角礫である。基質は中粒～粗粒砂からなる。綈まる。 2.98～3.16m: 灰色の礫混じりシルト質砂を呈する。傾斜10°のラミナが分布する。	Eg	Vg	Y	4			0	50	100																	
7				花崗斑岩	白	Dg	Vg	Y	2	0.00～0.64m: 埋土である。 礫混じり砂。コンクリートからなる。 0.64～4.26m: シルト混じり砂礫主体の第四系である。 0.64～1.75m: 細粒混じりシルト質砂である。 径2～30mmの半クサリ礫化した花崗斑岩の角礫を礫率10%含む細～中粒砂からなる。下位境界は不明瞭である。 1.08～1.70m: 細粒分が多い。 1.75～4.26m: シルト混じり砂礫である。 礫は径2～100mmの一部半クサリ礫化した花崗斑岩、アブライドの亜角～角礫である。基質は中粒～粗粒砂からなる。綈まる。 2.98～3.16m: 灰色の礫混じりシルト質砂を呈する。傾斜10°のラミナが分布する。	Dg	Vg	Y	2			0	50	100																	
	10.70	8.00																																		

孔番：G-5

深度 0.00m ~ 8.00m



H27-G-6

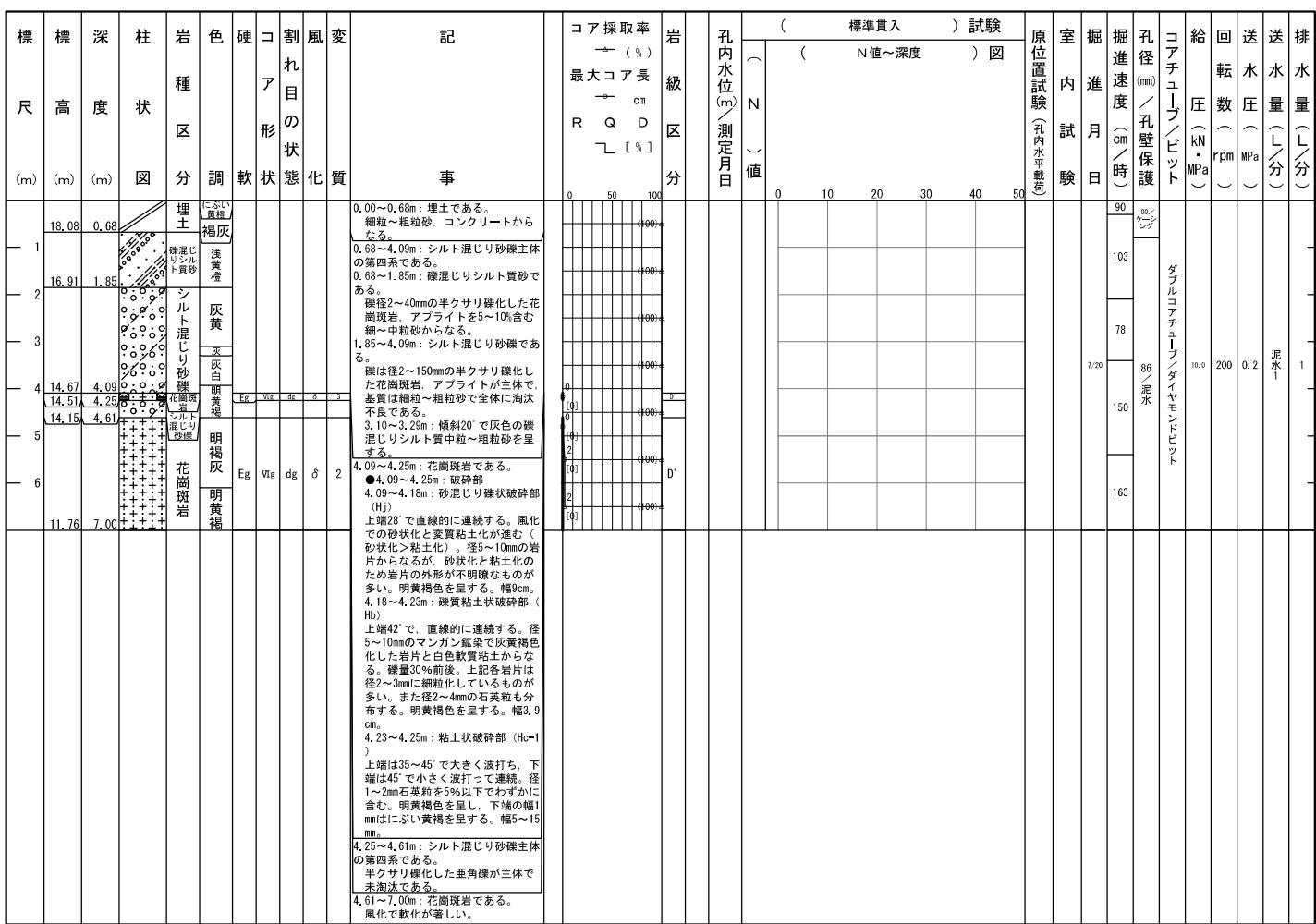
## ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo. 1

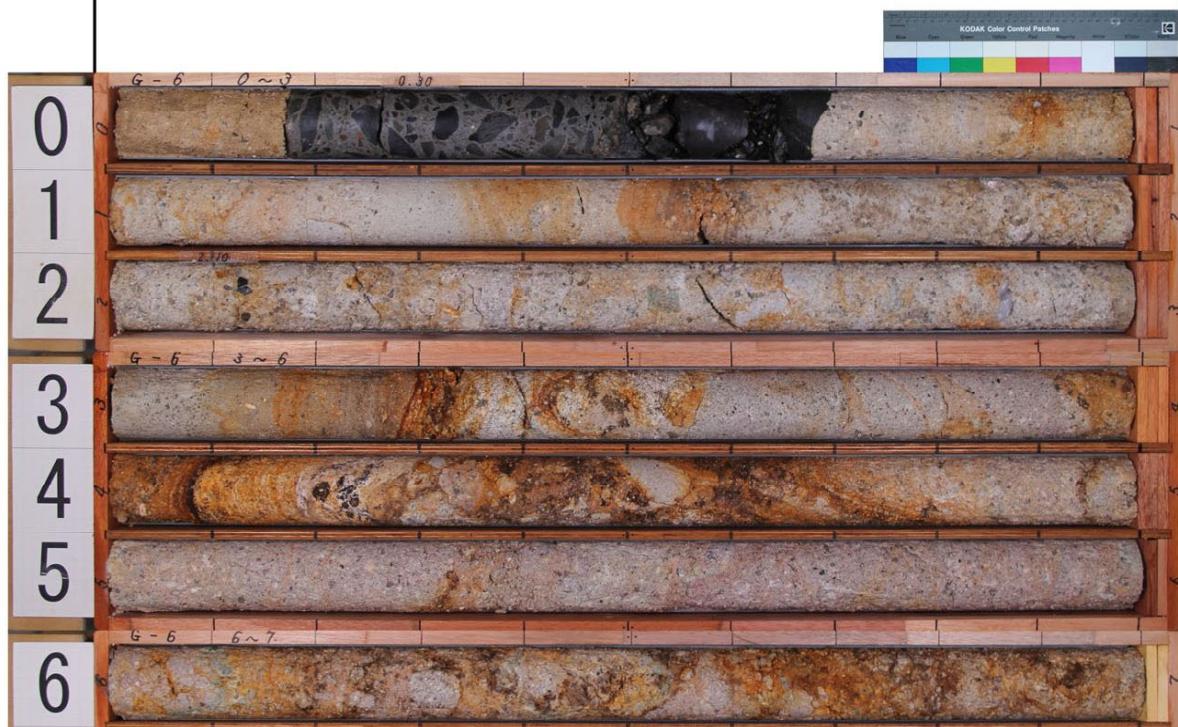
事業・工事名

ボーリング名	G-6			調査位置	X: 393.771, Y: 1100.228						北緯	35° 45' 20.30"			
発注機関	日本原子力発電株式会社						調査期間	2015年7月20日～2015年7月21日			東経	136° 1' 3.27"			
調査業者名				主任技師				現代理人	場人	コア鑑定者					
孔口標高	18.76 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.0°	方	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 0.0°	地盤勾配	鉛直 水平 0.0° 0.0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具					
総掘削長	7.00 m							エンジン		ポンブ					



孔番：G-6

深度 0.00m ~ 7.00m



H24-H-14

## ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo. 1

事業・工事名

ボーリング名	H-14			調査位置	X:392.490, Y:1100.294						北緯	35° 45' 20.27"	
発注機関	日本原子力発電株式会社						調査期間	2013年5月30日～2013年6月4日			東経	136° 1' 3.23"	
調査業者名				主任技師				現代理人	場人	コ鑑定者			
孔口標高	18.78 m	角度	180° 上 90° 下 0°	方北 270° 西 180° 南 0°	地盤勾配 鉛直 90°	水平 0°	使用機種	試錐機			ハンマー落下用具		
総掘削長	12.00 m						エンジン				ポンブ		

標尺	標高	深度	柱状図	岩種	色	硬	コア	割れ目	風化	変形	記事	(標準貫入) 試験						原位置試験 (孔内水位観察)	室内試験	掘進月	掘進速度 (cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護 コアチューイング/ビット	給圧(kN·MPa)	回転数(rpm)	回転圧(MPa)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)					
												岩級	孔内水位(m)	測定月日	N値	0	10	20	30	40	50												
1	17.88	0.90		埋土	灰白色	軟	ア	形	割れ目	状	化質	0.00～0.90m: 埋土 礁混じり粗砂からなる。径5～10mmの砕石を含む。 0.90～3.85m: 礁混じり粗砂及び粗砂(②層) 0.90～3.28m: 礁混じり粗砂 径10～60mmの亜円～亜角礁を含む。 3.28～3.85m: 礁混じり粗砂 径3～10mmの石英や礁を含む。基質は粘土の割じる不均質な粗砂。 3.28～3.41m: 倾斜10～20°の弱いラミがある。 3.85～4.73m: 砂礫(①層) 礁は径2～100mmの石英、花崗斑岩の亜円～亜角礁。基質は締まった粗砂。	0	50	100	0	100																
2																																	
3	15.50	3.28																															
4	14.93	3.85																															
5	14.05	4.73																															
6																																	
7																																	
8																																	
9																																	
10																																	
11																																	
	6.78	12.00																															

孔番 H-14 孔

深度 0.00m ~ 12.00m



H27-G-7

## ボーリング柱状図

### 調查名

ボーリングNo. 1

### 事業・工事名

孔番：G-7

深度 0.00m ~ 7.00m



H27-G-8

## ボーリング柱状図

### 調查名

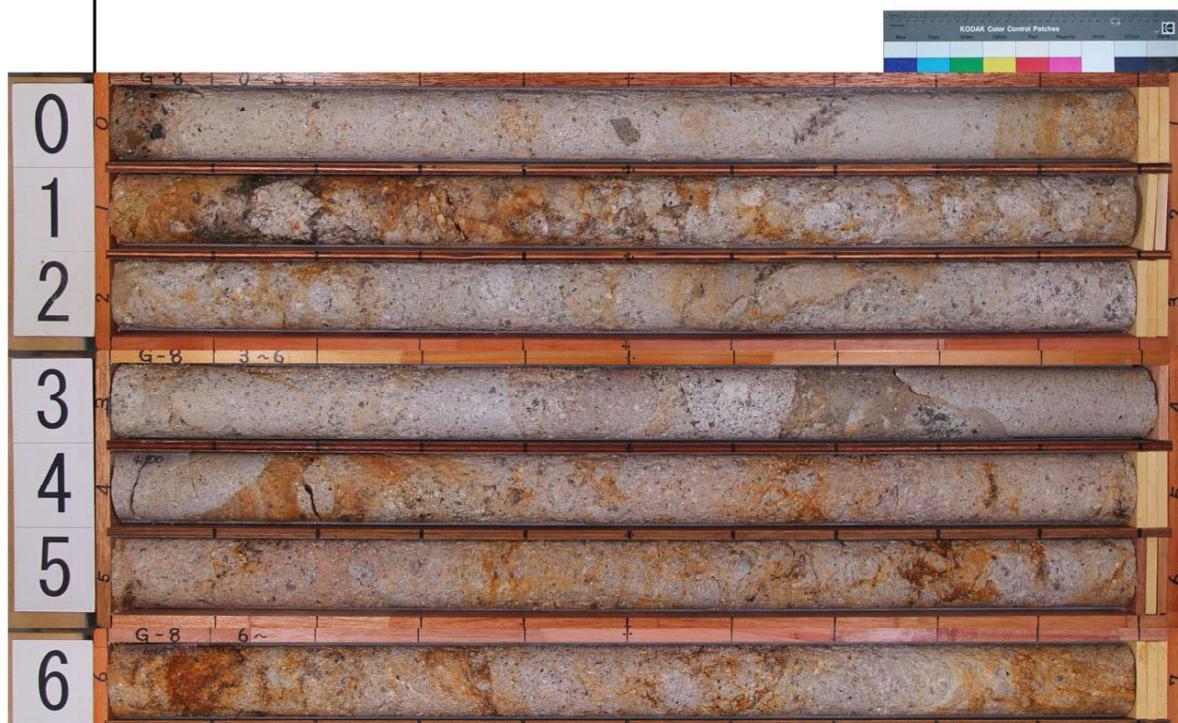
ボーリングNo. 1

### 事業・工事名

ボーリング名	G-8		調査位置	X : 393.771, Y : 1099.228					北緯	35° 45' 20.27"
発注機関	日本原子力発電株式会社					調査期間	2015年7月28日～2015年7月30日		東経	136° 1' 3.29"
調査業者名				主任技師			現代理人	口鑑定者	ボーリング責任者	
孔口標高	18.02	m	角度	180° 上 下 0° 90° 0° 0°	方 向	北 270° 西 180° 南 0° 0° 0°	地盤勾配 鉛直 90° 90° 0° 0° 0°	使用機種 試錐機 エンジン	水平 0° 0° 0° 0° 0°	ハンマー 落下用具 ポンプ
総掘削長	7.00	m								

孔番：G-8

深度 0.00m ~ 7.00m



H27-G-9

## ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo. 1

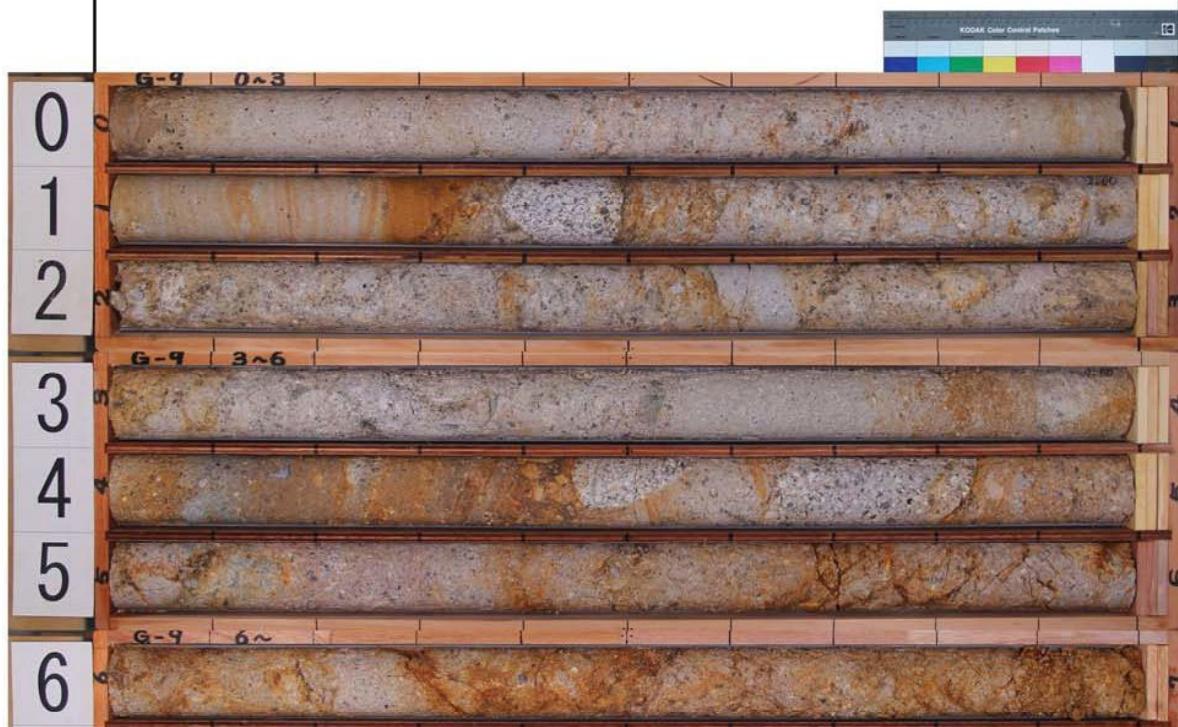
事業・工事名

ボーリング名	G-9			調査位置	X: 393.771, Y: 1098.728						北緯	35° 45' 20.26"	
発注機関	日本原子力発電株式会社						調査期間	2015年7月27日～2015年7月28日			東経	136° 1' 3.30"	
調査業者名							現場人	コア鑑定者				ボーリング責任者	
孔口標高	17.97 m	角度	180° 上 下 0° 30.0°	方位	北 270° 西 180° 南 0.0°	地盤勾配	鉛直 水平 0.0° 90°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具			
総掘削長	7.00 m							エンジン	ポンブ				

標尺	標高	深度	柱状図	岩種	色	硬	コア割れ目	風化	変形	記事	(標準貫入) 試験			原位置試験(孔内水位)	室内外試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	掘進孔径(mm)/孔壁保護	コアチューイング/ビット	給圧(kN·MPa)	回転数(rpm)	回転圧(MPa)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)			
											岩級	孔内水位(m)	測定月日															
1	16.83	1.32		シルト混じりシルト質砂	灰白	軟	ア	形	化質	0.00～4.97m: シルト混じり砂礫主体の第四系である。 0.00～1.32m: 細粒混じりシルト質砂である。 礫径2～30mmの半クサリ礫化した花崗斑岩。アフライトの亜角～角礫が主体となる。基質は細粒～粗粒砂で全体に淘汰不良である。良く輪まる。 1.32～4.97m: シルト混じり砂礫である。 径2～200mmの半クサリ礫化した花崗斑岩。アフライトの亜角～角礫が主体となる。基質は細粒～粗粒砂で全体に淘汰不良である。良く輪まる。 ●2.00m: せん断面(K断層) コアではコア端部となるため不詳。 4.35m: 傾斜25°の弱いラミナがある。	明黄褐色	0	50	100	0	10	20	30	40	50	160	136	86	10.0	200	0.1	泥水	1
2				シルト混じり砂礫	灰白	軟	ア	形	化質																			
3				花崗斑岩	灰白	軟	ア	形	化質																			
4				花崗斑岩	灰白	軟	ア	形	化質																			
5	13.67	4.97		花崗斑岩	浅黃	軟	ア	形	化質	Eg Vg dg ε	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2			
6	11.91	7.00		花崗斑岩	明黄褐色	軟	ア	形	化質	Dg Vg cg δ																		

孔番：G-9

深度 0.00m ~ 7.00m



**H27-G-10**

## ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo. 1

事業・工事名

ボーリング名	G-10			調査位置	X: 393.771, Y: 1098.228						北緯	35° 45' 20.25"		
発注機関	日本原子力発電株式会社						調査期間	2015年7月5日～2015年7月5日			東経	136° 1' 3.32"		
調査業者名				主任技師				現代理人	場人	コ鑑定者				
孔口標高	18.04 m	角度	180° 上 下 0° 0.0°	方向	北 西 180° 南 0.0°	地盤勾配	鉛直 水平 0.0°	使用機種	試錐機				ハンマー落下用具	
総掘削長	8.00 m							エンジン				ポンブ		

標尺	標高	深度	柱状図	岩種	色	硬	コア	割れ目	風化	変形	記	(標準貫入) 試験						原位置試験 (孔内水位載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	掘進速度 (cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューク/ビット	給圧(kN·MPa)	回転数(rpm)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)									
												0	10	20	30	40	50																						
1				漂泥シリルト質砂	灰白						0.00～5.25m: 上部は漂泥シリルト質砂、下部はシリルト質砂岩主体の第四系である。 0.00～2.4m: 漂泥シリルト質砂である。 径2～60mmの半角柱で風化した花崗斑岩、アフライトの亜角～角礫が主で、漂泥シリルト質砂からなる。 ●1.20m: せん断面 (K断層) 傾斜65°。30°の淡褐色縞状風化部をシャープに切る (変位センス不明)。 2.04～5.25m: シルト混じり砂岩である。 径2～32mmの半角柱で風化した花崗斑岩、アフライトの亜角～角礫が主で、漂泥シリルト質砂は40%である。 基質は細粒～粗粒砂で全体に淘汰不良である。締まる。 2.04～2.27m: 砂径10～30mmが多く、全体に風化で褐色化している。 3.94～4.25m: 灰色の漂泥シリルト質砂を呈する。 5.25～8.00m: 花崗斑岩である。 風化で軟化が著しく、締まった砂質で割れ目はほぼ消滅するが、一部で径10～20mmの岩片が残留する。 6.85m以深では、全体に砂礫状コアとなる。																												
2	16.00	2.04		漂泥シリルト質砂	にぶい 黄褐色						0.00～5.25m: 上部は漂泥シリルト質砂、下部はシリルト質砂岩主体の第四系である。 0.00～2.4m: 漂泥シリルト質砂である。 径2～60mmの半角柱で風化した花崗斑岩、アフライトの亜角～角礫が主で、漂泥シリルト質砂からなる。 ●1.20m: せん断面 (K断層) 傾斜65°。30°の淡褐色縞状風化部をシャープに切る (変位センス不明)。 2.04～5.25m: シルト混じり砂岩である。 径2～32mmの半角柱で風化した花崗斑岩、アフライトの亜角～角礫が主で、漂泥シリルト質砂は40%である。 基質は細粒～粗粒砂で全体に淘汰不良である。締まる。 2.04～2.27m: 砂径10～30mmが多く、全体に風化で褐色化している。 3.94～4.25m: 灰色の漂泥シリルト質砂を呈する。 5.25～8.00m: 花崗斑岩である。 風化で軟化が著しく、締まった砂質で割れ目はほぼ消滅するが、一部で径10～20mmの岩片が残留する。 6.85m以深では、全体に砂礫状コアとなる。																												
3				シルト混じり砂岩	灰白						0.00～5.25m: 上部は漂泥シリルト質砂、下部はシリルト質砂岩主体の第四系である。 0.00～2.4m: 漂泥シリルト質砂である。 径2～60mmの半角柱で風化した花崗斑岩、アフライトの亜角～角礫が主で、漂泥シリルト質砂からなる。 ●1.20m: せん断面 (K断層) 傾斜65°。30°の淡褐色縞状風化部をシャープに切る (変位センス不明)。 2.04～5.25m: シルト混じり砂岩である。 径2～32mmの半角柱で風化した花崗斑岩、アフライトの亜角～角礫が主で、漂泥シリルト質砂は40%である。 基質は細粒～粗粒砂で全体に淘汰不良である。締まる。 2.04～2.27m: 砂径10～30mmが多く、全体に風化で褐色化している。 3.94～4.25m: 灰色の漂泥シリルト質砂を呈する。 5.25～8.00m: 花崗斑岩である。 風化で軟化が著しく、締まった砂質で割れ目はほぼ消滅するが、一部で径10～20mmの岩片が残留する。 6.85m以深では、全体に砂礫状コアとなる。																												
4				漂泥シリルト質砂	灰						0.00～5.25m: 上部は漂泥シリルト質砂、下部はシリルト質砂岩主体の第四系である。 0.00～2.4m: 漂泥シリルト質砂である。 径2～60mmの半角柱で風化した花崗斑岩、アフライトの亜角～角礫が主で、漂泥シリルト質砂からなる。 ●1.20m: せん断面 (K断層) 傾斜65°。30°の淡褐色縞状風化部をシャープに切る (変位センス不明)。 2.04～5.25m: シルト混じり砂岩である。 径2～32mmの半角柱で風化した花崗斑岩、アフライトの亜角～角礫が主で、漂泥シリルト質砂は40%である。 基質は細粒～粗粒砂で全体に淘汰不良である。締まる。 2.04～2.27m: 砂径10～30mmが多く、全体に風化で褐色化している。 3.94～4.25m: 灰色の漂泥シリルト質砂を呈する。 5.25～8.00m: 花崗斑岩である。 風化で軟化が著しく、締まった砂質で割れ目はほぼ消滅するが、一部で径10～20mmの岩片が残留する。 6.85m以深では、全体に砂礫状コアとなる。																												
5	12.79	5.25		漂泥シリルト質砂	浅黄緑						0.00～5.25m: 上部は漂泥シリルト質砂、下部はシリルト質砂岩主体の第四系である。 0.00～2.4m: 漂泥シリルト質砂である。 径2～60mmの半角柱で風化した花崗斑岩、アフライトの亜角～角礫が主で、漂泥シリルト質砂からなる。 ●1.20m: せん断面 (K断層) 傾斜65°。30°の淡褐色縞状風化部をシャープに切る (変位センス不明)。 2.04～5.25m: シルト混じり砂岩である。 径2～32mmの半角柱で風化した花崗斑岩、アフライトの亜角～角礫が主で、漂泥シリルト質砂は40%である。 基質は細粒～粗粒砂で全体に淘汰不良である。締まる。 2.04～2.27m: 砂径10～30mmが多く、全体に風化で褐色化している。 3.94～4.25m: 灰色の漂泥シリルト質砂を呈する。 5.25～8.00m: 花崗斑岩である。 風化で軟化が著しく、締まった砂質で割れ目はほぼ消滅するが、一部で径10～20mmの岩片が残留する。 6.85m以深では、全体に砂礫状コアとなる。																												
6				花崗斑岩	明褐色	V6	dg				0.00～5.25m: 上部は漂泥シリルト質砂、下部はシリルト質砂岩主体の第四系である。 0.00～2.4m: 漂泥シリルト質砂である。 径2～60mmの半角柱で風化した花崗斑岩、アフライトの亜角～角礫が主で、漂泥シリルト質砂からなる。 ●1.20m: せん断面 (K断層) 傾斜65°。30°の淡褐色縞状風化部をシャープに切る (変位センス不明)。 2.04～5.25m: シルト混じり砂岩である。 径2～32mmの半角柱で風化した花崗斑岩、アフライトの亜角～角礫が主で、漂泥シリルト質砂は40%である。 基質は細粒～粗粒砂で全体に淘汰不良である。締まる。 2.04～2.27m: 砂径10～30mmが多く、全体に風化で褐色化している。 3.94～4.25m: 灰色の漂泥シリルト質砂を呈する。 5.25～8.00m: 花崗斑岩である。 風化で軟化が著しく、締まった砂質で割れ目はほぼ消滅するが、一部で径10～20mmの岩片が残留する。 6.85m以深では、全体に砂礫状コアとなる。																												
7				花崗斑岩	明黄褐色	Eg	cg				0.00～5.25m: 上部は漂泥シリルト質砂、下部はシリルト質砂岩主体の第四系である。 0.00～2.4m: 漂泥シリルト質砂である。 径2～60mmの半角柱で風化した花崗斑岩、アフライトの亜角～角礫が主で、漂泥シリルト質砂からなる。 ●1.20m: せん断面 (K断層) 傾斜65°。30°の淡褐色縞状風化部をシャープに切る (変位センス不明)。 2.04～5.25m: シルト混じり砂岩である。 径2～32mmの半角柱で風化した花崗斑岩、アフライトの亜角～角礫が主で、漂泥シリルト質砂は40%である。 基質は細粒～粗粒砂で全体に淘汰不良である。締まる。 2.04～2.27m: 砂径10～30mmが多く、全体に風化で褐色化している。 3.94～4.25m: 灰色の漂泥シリルト質砂を呈する。 5.25～8.00m: 花崗斑岩である。 風化で軟化が著しく、締まった砂質で割れ目はほぼ消滅するが、一部で径10～20mmの岩片が残留する。 6.85m以深では、全体に砂礫状コアとなる。																												
	10.04	8.00																																					

孔番：G-10

深度 0.00m ~ 8.00m

